

阿賀野川水系の流域及び河川の概要 (案)

平成 1 9 年 7 月 1 1 日

国土交通省河川局

阿賀野川水系の流域及び河川の概要

目次

1. 流域の自然状況	1
1.1 河川・流域の概要	1
1.2 地形	2
1.3 地質	3
1.4 気候	4
2. 流域及び河川の自然環境	5
2.1 流域の自然環境	5
2.2 河川及びその周辺の自然環境	6
2.3 特徴的な河川景観や文化財等	15
2.4 自然公園等の指定状況	29
3. 流域の社会状況	30
3.1 人口	30
3.2 土地利用	31
3.3 産業	32
3.4 交通	33
4. 水害と治水事業の概要	34
4.1 既往洪水の概要	34
4.2 治水事業の沿革	39
5. 水利用の現状	52
5.1 水利用の現状	52
5.2 水需要の動向	62
5.3 渇水の被害の概要	64
6. 河川の流況と水質	65
6.1 河川流況	65
6.2 河川水質	68
7. 河川空間の利用状況	73
7.1 河川の利用形態	73
7.2 河川空間の利用	74
8. 河道特性	75
8.1 河道の特性	75
9. 河川管理の現状	78
9.1 河川管理区間	78
9.2 河川管理施設等	79
9.3 水防体制	80
9.4 火山防災	83
10. 地域との連携	84

1. 流域の自然状況

1.1 河川・流域の概要

阿賀野川は、その源を栃木・福島県境の荒海山（標高 1,580m）に発し福島県では阿賀川と呼称される。山間部を北流し、会津盆地を貫流した後、猪苗代湖から流下する日橋川等の支川を合わせ、喜多方市山科において再び山間の狭窄部に入り、尾瀬ヶ原に水源をもつ只見川等の支川を合わせて西流し新潟県に入る。その後、五泉市馬下で越後平野に出て新潟市松浜において日本海に注ぐ、幹川流路延長 210km、流域面積 7,710km²の一級河川である。

その流域は、新潟、福島、群馬県にまたがり、本州日本海側初の政令指定都市である新潟市や福島県の地方拠点都市である会津若松市など 9 市 13 町 6 村からなり、流域の土地利用は山地等が約 87%、水田や畑地等の農地が約 10%、宅地等の市街地が約 3%となっている。

交通については国道 49 号や磐越西線、磐越自動車道と日本海沿岸東北自動車道も整備され、今後の流域の発展が期待される。

また流域には磐梯朝日国立公園、日光国立公園をはじめ、県立自然公園等があり、尾瀬、磐梯山、阿賀野川ラインなどの景勝地や、福島県の東山、芦ノ牧、新潟県の咲花など温泉地も点在している。

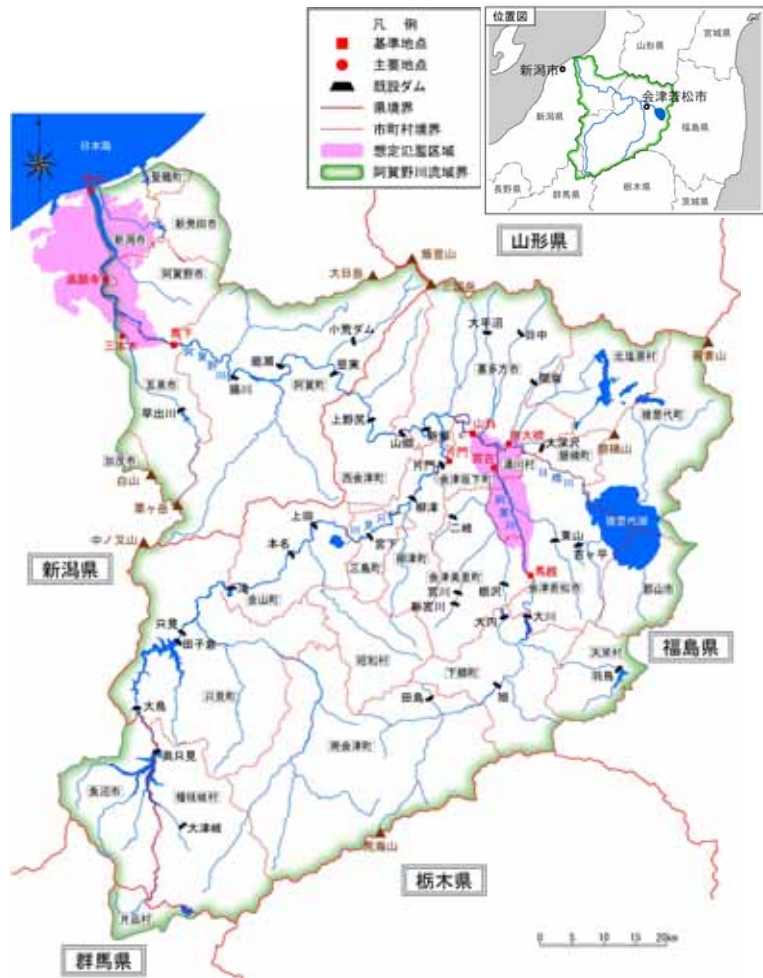


図 1.1 阿賀野川流域概要図

表 1.1 阿賀野川流域の概要

項目	諸元	備考
流域面積	7,710km ²	全国第 8 位
流路延長	210km	全国第 10 位
流域内市町村	新潟県 6 市 2 町 福島県 3 市 11 町 5 村 群馬県 1 村	平成 18 年 10 月現在
流域内人口	約 59 万人	平成 7 年度河川現況調査
支川数	248	

1.2 地形

流域の地形は、上流部は東側が奥羽山脈に阻まれ、西は越後山脈、南は帝釈山脈、北は吾妻山と飯豊山とを結ぶ連峰に囲まれ、1,000m～2,000m級の山々が周囲にそびえているほか、南北約40km、東西約12kmの会津盆地や猪苗代湖をはじめとした多くの湖沼群が存在している。中流部は東が飯豊山、大日岳、三国岳等の飯豊連峰によって、西は白山、粟ヶ岳、中ノ又山によって阻まれ、先行谷と河岸段丘がみられる。下流部は、広大な扇状地を呈した越後平野が形成され、山間部と海岸砂丘に挟まれた低平地が広がり日本海に接している。

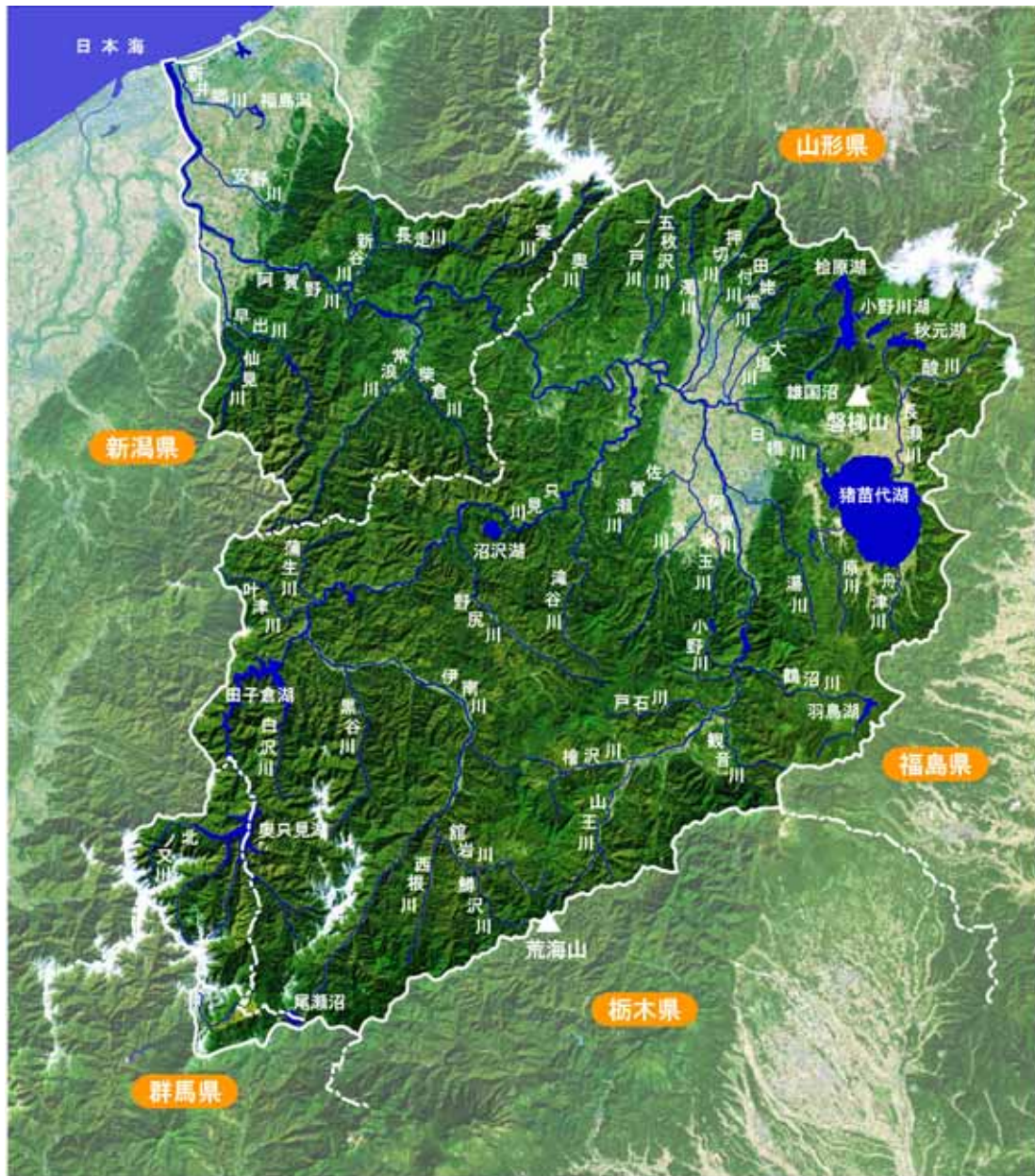
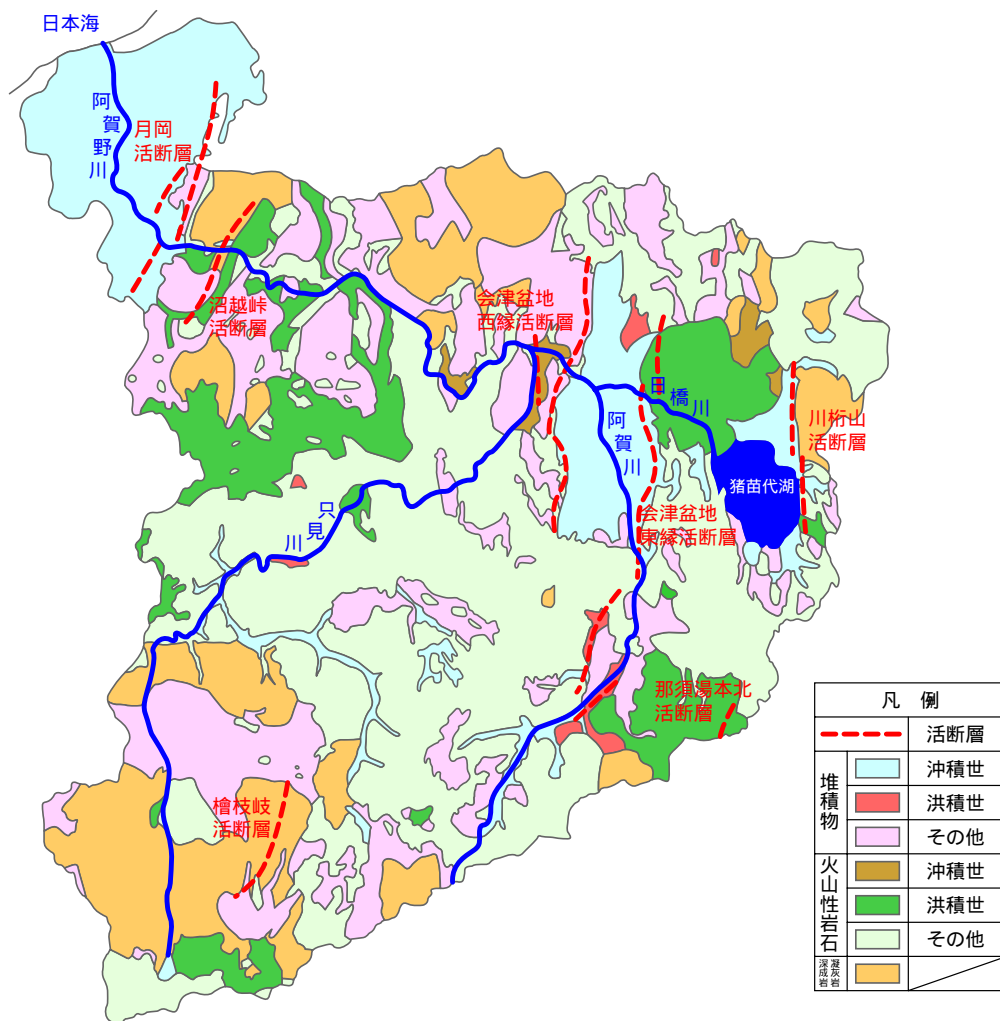


図 1.2 阿賀野川流域地形図

1.3 地質

流域の地質は、山地部は主に第三紀層に属する花崗岩、安山岩、石英安山岩等で構成され、平野部や盆地部は第四紀沖積層に属する礫・砂・粘土が分布している。会津盆地から福島・新潟県境の山地部には秩父古生層、新第三紀の上・中・下部の各層が分布し、下層部はそのまま只見川流域の山地部に続いている。新潟県内の山地部では、古生層とそれに貫入する花崗岩のほか、阿賀野川以南の山地部はグリーンタフが発達している。また常浪川以西を主として占める津川層と早出川流域に分布する古生層と、これを貫く花崗岩、流紋岩が広く分布している。



【出典：国土地理院資料】

図 1.3 阿賀野川流域地質図

1.4 気候

流域の気候は、会津地方、只見地方、越後平野の3つに分けられ、会津地方は盆地により気温の年較差・日較差が大きく小雨多雪で内陸性と北陸の混合型気候を呈し、只見地方は多雨豪雪の山間部であり典型的な日本海側気候がみられる。越後平野は多雨多湿で北陸特有の気候を呈し、冬期間の降雪が多い。流域の年間降水量は、会津地方は約1,100mm、只見地方では約2,300mm、越後平野は約1,900mmに達する。

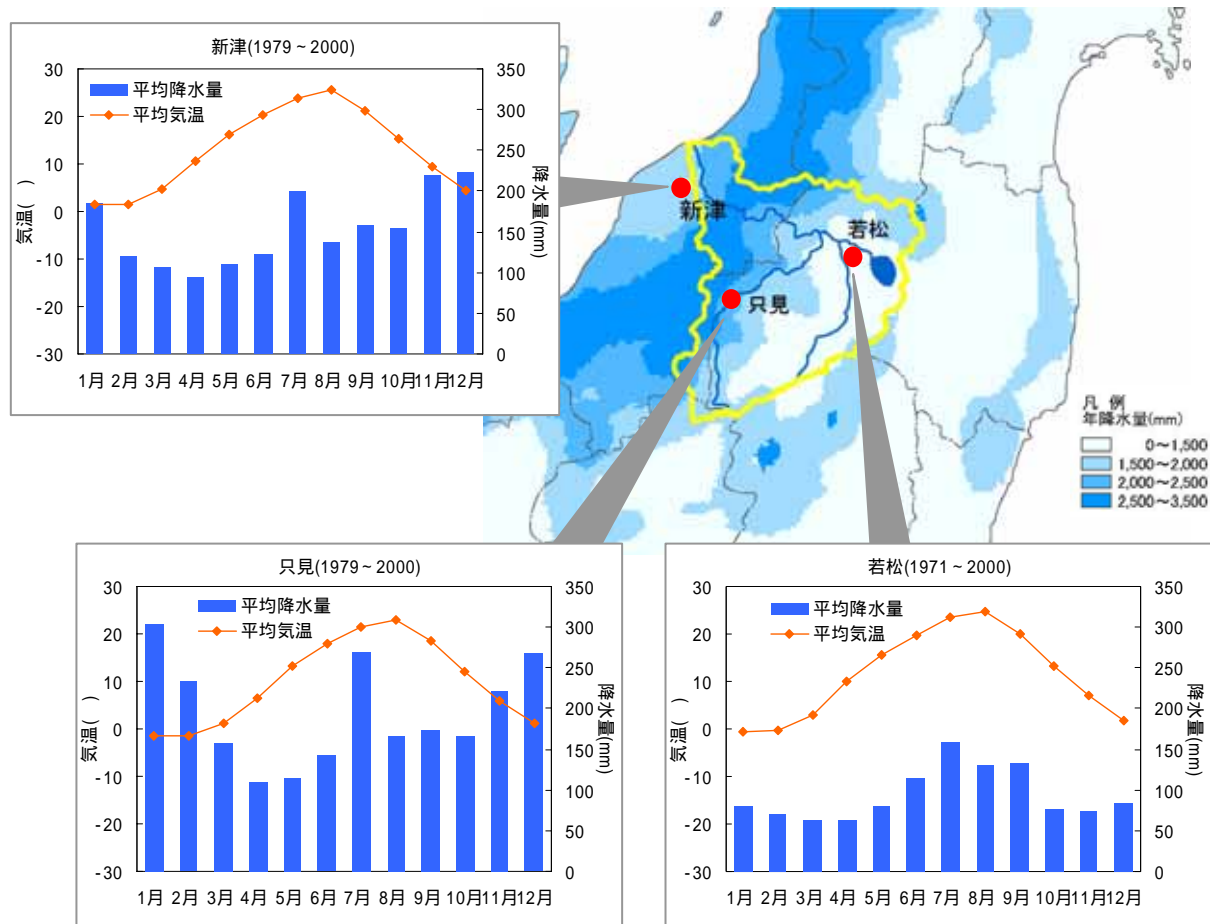


図 1.4 阿賀野川流域主要地点における気候

【出典：降水量分布図は福島県河川課資料、降水気温図は気象庁ホームページより作成】

2. 流域及び河川の自然環境

2.1 流域の自然環境

会津盆地を流れる阿賀川は、500m～600m という幅の広い河道を網目状に流れ、出水のたびに^{みよすじ}湊筋が変化している。礫河原とツルヨシ群落、ヤナギ林が広く分布し、水域ではカジカ、陸域ではカワラハハコ、カワラバッタなど浮石を有する河床や礫河原特有の生物が生息・生育している。また湧水も多く、淡水型イトヨも生息している。

一方、阿賀野川下流部の川辺には、礫河原、蛇行区間や湿地、広いヨシ原や水面、砂州などが存在し、ウケクチウグイなど河川の流れに応じた様々な生物が生息している。また河口部には、砂州が形成され、特徴的なハマエンドウやハマヒルガオなどの海浜植物が広く分布している。

また、只見川の源にある尾瀬は、景観の美しさはもとより、野鳥や昆虫類の宝庫として、植物学上の貴重な資源として知られており、国の特別天然記念物にも指定されている。高層湿原である尾瀬ヶ原は、泥炭が多量に蓄積され、周囲よりも高くなったために、雨水のみで維持されており、ミズゴケ類が植生を中心となっている。



ウケクチウグイ



尾瀬ヶ原

【出典：阿賀野川河川事務所・阿賀川河川事務所資料】

2.2 河川及びその周辺の自然環境

(1)流域の環境の特徴

阿賀野川流域を上流部（山地部）、上流部（盆地部）、中流部、下流部に区分し、各区分の特徴について示す。

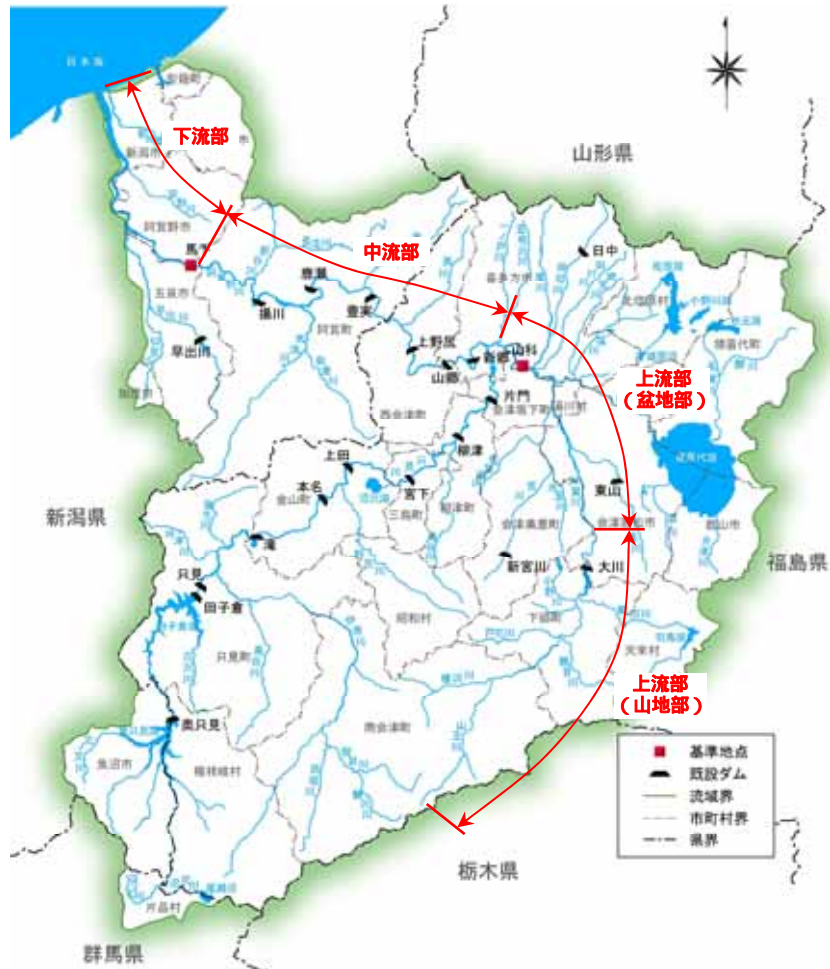


図 2.1 阿賀野川流域区分図

表 2.1 阿賀野川流域の環境区分

環境区分	地形概要
上流部 (山地部)	源流～馬越頭首工 河床勾配：約 1/180 山間部を蛇行しながら流下
上流部 (盆地部)	馬越頭首工～長井橋 河床勾配：約 1/200～1/900 扇状地性低地が形成、流路は著しく蛇行 旧宮川合流後は渓谷の様相
中流部	長井橋～阿賀野川頭首工 山間部を大きく蛇行しながら流下
下流部	阿賀野川頭首工～河口 河床勾配：約 1/1,000～1/15,000 澇筋が大きく蛇行 河口砂州が形成

1)上流部（山地部：源流～馬越頭首工）

源流から馬越頭首工までの上流部（山地部）の河床勾配は約 1/180 であり、山間部を蛇行しながら流下し、兩岸に山地が迫った渓谷となっている。この間、大川羽鳥県立自然公園にある「塔のへつり」（へつりとは、危険な崖を意味する方言）は、阿賀川に沿って多彩な峡谷景観を織りなす「大川ライン」の中でも、最も美しい景勝地として有名である。この地は国指定の天然記念物にも指定されており、何本もの巨大な塔が立ち並んでいるような特異な景観となっており、凝灰岩が百万年もの間に繰り返し侵食されて出来たものである。

若郷湖^{わかまきこ}（大川ダム湖）ではカモ類の集団分布がみられ、山地溪流ではヤマセミ、アカショウビン、カワネズミ、タゴガエル等が生息する。また周辺山地にはアオゲラ、オオルリ、モリアオガエル、ムササビ等が生息している。



源流碑



塔のへつり



若郷湖に架かる湖面橋



馬越頭首工

【出典：阿賀川河川事務所資料】

2)上流部（盆地部：馬越頭首工～長井橋）

馬越頭首工から長井橋付近までの上流部（盆地部）の河床勾配は1/200～1/900であり、そのうち馬越頭首工から宮川合流点付近までは、会津盆地の扇状地性低地が形成され、流路の滞筋が安定せず分流・合流を繰り返し網状となっている。瀬には、カジカやアカザといった河床の浮石を利用する魚類が生息する。また、湧水のあるワンド、細流が点在し、ミクリやカワチジャ等が生育する他、淡水型イトヨの生息場となっており、ウケクチウグイの幼魚が多く確認されている。砂礫河原には、カワラハハコやイヌハギ等の植生が広く分布するほか、カワラバツタ等の礫河原を好む昆虫が生息する。また、ヤナギ林等の河畔林や河原草原が広がり、洪水により攪乱される環境に適した多様な植生がみられる。

また、宮川合流点付近から山間狭窄部へ入る山科地点付近までは、両岸や中州に砂礫が多く分布しており、日橋川や濁川など多くの支川が合流する区間である。水際には、ヨシ等の草が広がり、オオヨシキリ、タヌキ、テン等が移動経路として利用している。ワンド等では、ウケクチウグイの幼魚等が多く確認され、滞筋が分かれた細流では、ウグイ等の産卵床が確認される。

さらに山科地点から長井橋付近までは大正から昭和初期にかけて蛇行する河道の捷水路工事もあり、両岸に急崖が迫り渓谷の様相を呈し、河道幅も100m前後と狭く、砂州の発達はみられない。土崖が露出するこの区間ではカワセミ等の繁殖に適した環境がみられ、大規模な静水面はマガモ等の越冬場となっている。

3)中流部（長井橋～阿賀野川頭首工）

大きく蛇行しながら山間狭窄部を流下し、両岸や中州に砂礫が多く分布しており、ウケクチウグイ、淡水型イトヨ、ジュズカケハゼ、アカザ、マシジミ、モノアラガイ等が確認されている。



宮川合流点付近



阿賀川に架かる JR 只見線

【出典：阿賀川河川事務所資料】



阿賀野川頭首工付近

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

4)下流部（阿賀野川頭首工～河口）

阿賀野川頭首工より河口までの下流部は、河床勾配は約 1/1,000～1/15,000 であり、水面幅はおよそ 300m～960m となる。沢海第一・第二床固より上流の川幅の狭い区間では湊筋が大きく蛇行し、瀬・淵も多く、両岸付近や中州には良好な砂礫地が多く分布しておりアユの良好な産卵床が形成されている。また、タコノアシ、ミクリ、カワヤツメ、ウケクチウグイ、マシジミ等が確認されている。



沢海床固付近



大阿賀橋付近の中州

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

河口部の水域には、マハゼ等の汽水魚やゴカイ類、ヤマトシジミ等が生息している。河口砂州や幅が 300m 以上の大規模な中州が形成され、河口砂州にはシギ・チドリ類が飛来し、餌場やねぐらとなっている。植物群は、ケカモノハシ群落等の砂丘植物群落がみられ、水際にはヨシ原が広がり、オオヨシキリが生息及び繁殖の場としており、中州にはヤナギ林等が発達し、サギ類の集団営巣が確認されている。また、礫・玉石を主体とした礫河原はコアジサシの集団繁殖地となっている。



阿賀野川緑地公園



河口部

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

5)湯川

流路は直線的で、都市部の排水の影響が強い。流量が少なく、植生は安定し、ヨシ群落やヤナギ群落が見られる。洗堰の湛水面を利用してカモ類が集団越冬する。新柳原橋下に集団営巣するイワツバメの飛翔が見られる。



湯川放水路



旧湯川分派地点付近

【出典：阿賀川河川事務所資料】

6)日橋川

直轄管理区間上流では発電所が多く存在するため、発電に伴う水位変動が著しい。水際から高水敷にはヨシが生育し、アカネズミやオオヨシキリなど草地の種が利用している。水際には、ゴイサギやアオサギなど魚食性の鳥類が見られる。



日橋川合流点付近



日橋川緑地公園

【出典：阿賀川河川事務所資料】

7)早出川

堤防幅はおよそ 200m 程度である。瀬淵が多く分布し、両岸に砂礫地が形成されている。水際にはヨシ、ツルヨシ、ヤナギ林等が分布し、冠水や滞水の生じにくい環境では、オギ群落やススキ群落等が分布している。瀬は、アユが流れの速い平瀬、オイカワが流れの緩い平瀬を生息場所として利用しており、淵を主な生息場とするウグイが、礫底の瀬を産卵場として利用している。また、樹林に囲まれた淵などを採餌場とするヤマセミが見られる。



早出川合流点付近

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

(2)阿賀野川における特定種

阿賀野川における貴重な動植物を河川水辺の国勢調査等の結果をもとに、レッドデータブック、レッドリスト(環境省)記載種、天然記念物指定種などの学術上または希少性の観点から抽出した。

表 2.2 阿賀野川の特定種(1)

分類	番号	種名	特定種指定区分			
			環境省	新潟県	福島県	その他
植物	1	オオヒメワラビモドキ		VU		
	2	ヌカボタデ	VU	VU		
	3	ノダイオウ	VU	VU	B	
	4	パイカモ		VU		
	5	オニバス	VU	VU		
	6	マツモ		VU		
	7	トモエソウ		VU		
	8	ハクサンハタザオ		NT		
	9	タコノアシ	VU	VU	B	
	10	ハマナス		VU		
	11	マルバノシャリンバイ		LP		
	12	フジカンゾウ		VU		
	13	ホザキノフサモ		VU		
	14	マルバノサウトウガラシ	EN	EN		
	15	カワヂシャ	NT	NT	C	
	16	スナビキソウ		NT		
	17	ハマゴウ		NT		
	18	タカアザミ		NT		
	19	フジバカマ	VU	VU	D	
	20	ノニガナ		VU		
	21	トチカガミ		VU		
	22	センニンモ		VU		
	23	オヒルムシロ		VU		
	24	オオトボシガラ		LP		
	25	カモノハシ		VU		
	26	ミクリ	NT	NT	N	
	27	ナガエミクリ	NT	NT		
	28	ヤガミスゲ		NT		
	29	ツルアブラガヤ		NT	C	
	30	オキナグサ	VU		C	
	31	ハンゲショウ			B	
	32	エゾエンゴサク				指定
	33	ミチノクエンゴサク			B	
	34	ナガミノツルキケマン	NT			
	35	エゾノレンリソウ			C	
	36	カラメドハギ			D	
	37	イヌハギ	VU		B	
	38	ミゾハコベ			C	
	39	チョウジソウ	VU		NE	
	40	スズサイコ	VU		C	
	41	カワラニガナ	VU		N	
	42	サジオモダカ			C	
	43	カタクリ				指定
	44	ノゲヌカスゲ			B	
	45	アブラシバ			C	
	46	サイハイラン				指定

表 2.3 阿賀野川の特定種(2)

分類	番号	種名	特定種指定区分			
			環境省	新潟県	福島県	その他
底生動物	1	モノアラガイ	NT	NT		
	2	マツカサガイ	NT	NT		
	3	マシジミ		NT		
	4	アミメカワゲラ	NT			
	5	タイコウチ		EN		
	6	マルタニシ	NT			
	7	ゲンゴロウ	NT		N	
	8	ヨコミゾドロムシ	CR+EN			
	9	ケスジドロムシ	NT		C	
	10	ゲンジボタル				市天
魚介類	1	スナヤツメ	VU	NT	C	
	2	カワヤツメ		NT		
	3	ウケクチウグイ	EN	NT	A	
	4	アカザ	VU	NT	C	
	5	ワカサギ		NT		
	6	メダカ	VU	NT	C	
	7	降海型イトヨ		VU		
	8	カジカ中卵型	VU	NT		
	9	カマキリ		NT		
	10	シロウオ	NT	NT		
	11	モノアラガイ	NT	NT		
	12	カラスガイ	NT	NT		
	13	マシジミ		NT		
	14	テナガエビ		NT		
	15	ヤリタナゴ			C	
	16	ホトケドジョウ	EN		D	
	17	淡水型イトヨ	LP		B	
	18	カジカ			C	
	19	ジュズカケハゼ			NE	
陸上昆虫類	1	イソコモリグモ	VU			
	2	ホンサナエ		VU		
	3	ハマヤガ		NT		
	4	アオモンギンセダカモクメ		NT		
	5	オオルリハムシ	DD	NT		
	6	シロヘリツチカメムシ	NT			
	7	ギンイチモンジセセリ	NT		N	
	8	スジグロチャバネセセリ	NT		N	
	9	ミヤマシジミ	VU		B	
	10	ヒメシジミ	NT		N	
	11	オオムラサキ	NT		N	
	12	ヒメシロチョウ	VU		C	
両生類 爬虫類 哺乳類	1	トノサマガエル		VU		
	2	エチゴモグラ	VU	VU		
	3	イモリ			C	
	4	トウキョウダルマガエル			NE	
	5	ツチガエル			C	
	6	カジカガエル			D	
	7	クサガメ			NE	
	8	ヒバカリ			D	

表 2.4 阿賀野川の特定種(3)

分類	番号	種名	特定種指定区分			
			環境省	新潟県	福島県	その他
鳥類	1	ウミウ		NT		
	2	チュウサギ	NT	NT	D	
	3	ヒシクイ	VU	NT		国天
	4	ミサゴ	NT	NT	B	
	5	オジロワシ	EN	EN	B	国天、稀少
	6	オオタカ	VU	VU	A	稀少
	7	ハイタカ	NT	NT	C	
	8	チュウヒ	VU	NT	C	
	9	ハヤブサ	VU	NT	A	稀少
	10	オオジシギ	NT	NT		
	11	コアジサシ	VU	NT	A	
	12	ヤマセミ		NT		
	13	サンショウクイ	VU	NT	C	
	14	コサメビタキ		NT		
	15	ヨシゴイ			B	
	16	ササゴイ			C	
	17	ノスリ			C	
	18	チゴハヤブサ			C	
	19	コチョウゲンボウ			D	
	20	チョウゲンボウ			D	
	21	ウズラ	DD		A	
	22	ヒクイナ			B	
	23	バン			C	
	24	オオバン			D	
	25	タゲリ			D	
	26	ヤマシギ			NE	
	27	アオバト			C	
	28	ヒバリ			C	
	29	クロツグミ			B	
	30	コヨシキリ			C	
	31	オオヨシキリ			C	
	32	セッカ			B	
	33	コサメビタキ			B	
	34	サンコウチョウ			C	
	35	ホオアカ			C	

特定種指定区分

環境省：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-」

植物（維管束植物）、2000、汽水・淡水魚、2003、陸・淡水産貝類、2005、鳥類、2002、両生類・爬虫類、2000、哺乳類、2002

「環境庁報道発表資料 無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(2000)」

「無脊椎動物レッドリスト(2000)」

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 類、CR：絶滅 A類、EN：絶滅危惧 B類、

VU：絶滅危惧 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP 絶滅のおそれのある地域個体群

新潟県：「レッドデータブック新潟 新潟県の絶滅のおそれのある野生生物、2001」

福島県：「レッドデータブックふくしま 福島県の絶滅のおそれのある野生生物 植物、昆虫、鳥(2002)、淡水魚類、両生・爬虫類、哺乳類(2003)」

EX+EW：絶滅、A：絶滅危惧 類、B：絶滅危惧 類、C：準絶滅危惧、D：稀少、N：注意、

NE：未評価

その他：以下のもの

国天：文化財保護法・文化財保護条例 国指定天然記念物

稀少：種の保存に関する法律 国内稀少野生動植物種

指定：自然公園法による指定植物

市天：文化財保護法・文化財保護条例 市町村指定天然記念物

2.3 特徴的な河川景観や文化財等

(1)特徴的な河川景観

阿賀野川は、源流から下流にかけて様々な顔を見せる大河である。本川では、上流の渓谷に塔のへつりと呼ばれる奇岩怪石がある。その後、会津盆地を抜け山間地に入ると再び渓谷の様相を呈し、阿賀野川ライン舟下りが行われている。また、本川以外にも流域内には日本を代表する湖の一つである猪苗代湖や、越後平野が昔海であった名残である福島潟などがあり、自然景観に恵まれている。



福島潟

越後平野一帯は大昔は海だったといわれ、その名残が福島潟である。鳥が集い貴重な植物が自生する。

【出典：阿賀野川河川事務所資料】



阿賀野川床固公園

毎年4月に開催されるチューリップフェアでは、音楽やおどりを楽しむイベントなど多くの人で賑わう。

【出典：阿賀野川河川事務所資料】



阿賀野川ライン舟下り

阿賀町の阿賀野川ライン下りは渓谷の美しさにふれながらゆったりと下る1時間の旅。

【出典：阿賀野川河川事務所資料】



泡の巻下流の河岸

阿賀川の岸壁には地層が露出している。人間が誕生するもっと前に形成されたもので、長い年月をかけて削りだされた。

【出典：阿賀川河川事務所資料】



塔のへつり

奇岩怪石が塔のように並立する、大川ライン最大の景勝地。

【出典：会津下郷町 HP】

猪苗代湖

全国3位(淡水湖)の面積を持つ磐梯朝日国立公園内の湖。猪苗代湖と磐梯山の姿は会津を代表する景観。

【出典：阿賀川河川事務所資料】



図 2.2 阿賀野川流域の特徴的な河川景観 位置図

(2)文化財

阿賀野川流域には文化財が多数存在しており、国による指定のみでも 42 点ある。

福島県会津地域には、熊野神社長床や勝常寺薬師堂など平安や鎌倉時代の文化財の他に、有栖川宮威仁親王の別邸であった天鏡閣や江戸時代に会津西街道の宿場町として栄えた大内宿が今も当時の姿を残している。

また新潟県新発田市には慶長 3 年溝口秀勝により築城された新発田城があり、近年城郭の復元や城趾公園の整備を行っている。

熊野神社長床

天喜 3 年 (1055) 源頼義の勸請の古社。長床は藤原時代の貴族の主殿の形式をふんだもの。

【出典：喜多方市 HP】

勝常寺薬師堂

大同 2 年 (807) に徳一上人により開かれた、東北を代表する古刹。

【出典：福島県 HP】



新発田城

別名「あやめ城」とも呼ばれており、本丸表門、旧二の丸隅櫓が残っている。

【出典：新発田市 HP】

檜枝岐の舞台

檜枝岐の歌舞伎は元来鎮守神の祭礼に歌舞伎を奉納するという形で上演された。

【出典：檜枝岐村 HP】

大内宿

江戸時代には会津西街道の宿駅として栄え、旅の要所として重要な役割を果たしてきた。

【出典：下郷町 HP】

天鏡閣

有栖川宮威仁親王の別邸として明治 41 年に建てられた。

【出典：猪苗代町 HP】

図 2.3 阿賀野川流域の主な文化財 位置図

表 2.5 阿賀野川流域の主な文化財(1)

指定	名称	種別	所在地	概要
国指定重要文化財	旧新発田藩足軽長屋	建造物 (民家)	新潟県新発田市大栄町	新発田藩の下屋敷としてつくられた。京風の回遊式庭園は幕府の茶道方・縣宗知の作。足軽長屋は、木造茅葺き造りの八軒長屋である。
	新発田城	建造物 (城郭)	新潟県新発田市大手町	別名「あやめ城」とも呼ばれており、本丸表門、旧二の丸隅櫓が残っている。また、平成16年には、三階櫓と辰巳櫓が復元された。
	絹本着色不動明王二童子像	美術工芸品 (絵画)	新潟県新潟市沼垂東	
	彩磁禽果文花瓶板谷波山作	美術工芸品 (工芸品)	新潟県新潟市東大通	
	五十嵐家住宅	建造物 (民家)	新潟県東蒲原郡阿賀町豊実	豪雪地農家の特徴をそなえ、主屋と土蔵などの付属屋をそろえる江戸中期の山村農家。周囲の自然環境のよさとあいまって、貴重な住宅として高く評価されている。付属屋には農機具、民具など多く収蔵され、雪深い山村農家の自給自足の暮らしを伝えている。
	護徳寺観音堂	建造物 (寺院)	新潟県東蒲原郡阿賀町日出谷甲	参道に入ると観音堂が姿を現し、お堂は室町時代の特色をよく表し、会津と越後の中世建築のつながりを知る上で貴重なものとなっている。堂内は、柱や壁板に当時の旅人の落書きが書かれている。本尊の聖観世音菩薩像は古くから秘仏のため拝むことはできない。脇持仏の聖観世音菩薩像、地藏菩薩像は鎌倉初期ものと推定される。
	平等院薬師堂	建造物 (寺院)	新潟県東蒲原郡阿賀町岩谷	平維茂にちなんで建てられた寺で、その薬師堂は県内最古の木造建築。戦国時代から江戸時代にかけて、武士たちが残した落書きが、当時の様子を鮮やかに伝えている。
	旧滝沢本陣横山家住宅	建造物 (民家)	福島県会津若松市一箕町滝沢	旧江戸街道の滝沢峠の登り口にあり、参勤交代や藩内巡視の際の休憩所となっていた。戊辰戦争の際には藩主松平容保がここで指揮をとった。
	会津大塚山古墳出土品	美術工芸品 (考古資料)	福島県会津若松市城東町	
	大刀切刃造	美術工芸品 (工芸品)	福島県会津若松市東栄町	
	大刀鋒両刃造	美術工芸品 (工芸品)	福島県会津若松市東栄町	
	大刀鑄造	美術工芸品 (工芸品)	福島県会津若松市東栄町	
	延命寺地藏堂	建造物 (寺院)	福島県会津若松市河東町倉橋字藤倉	807年に徳一大師により創建されたと伝えられ、現存するものは室町時代に再建されたもの。周囲に円柱で支えられた裳階がつけられているために、二階堂に見える。
	八葉寺阿弥陀堂	建造物 (寺院)	福島県会津若松市河東町広野字冬木沢	会津高野山ともいわれる古刹。空也上人により康保元年(964)に建立されたと伝えられ、文禄年間に再建された。奥の院や壁、天井に無数に打ち付けてある納骨五輪塔には、約600年前のものもあり、この塔に死者の遺骨などをに入れて供養する風習が残っているのは、全国でここだけである。
	八葉寺奉納小型納骨塔婆及び納骨器	有形民俗文化財	福島県会津若松市河東町広野字冬木沢	小型納骨塔婆 14798点、納骨器 26点
	熊野神社長床	建造物 (神社)	福島県喜多方市慶徳町新宮字熊野	天喜3年源頼義の勧請の古社。長床は藤原時代の貴族の主殿の形式をふんだもので、直径1尺5寸の円柱44本が等間隔に5列に並んでおり、全部吹き抜けになっている。
	勝福寺観音堂	建造物 (寺院)	福島県喜多方市関柴町三津井字堂ノ前	昔、京都から松島へ行く途中、この地で亡くなった「勝すぐれの前」の冥福を祈って建てられたといわれている。
	槽彫木彩漆笈	美術工芸品 (工芸品)	福島県喜多方市熱塩加納町熱塩温泉甲 示現寺内	
	円満寺観音堂	建造物 (寺院)	福島県耶麻郡西会津町下谷字宮ノ後内	入母屋造、茅葺で背の低い回縁を設けた唐様建築は室町期の特色をよく表したものである。
	白銅三鈷杵	美術工芸品 (工芸品)	福島県耶麻郡磐梯町本寺上 恵日寺	
	旧高松宮翁島別邸(福島県迎賓館)	建造物 (住居建築)	福島県耶麻郡猪苗代町大字翁沢字畑田	有栖川宮妃のために建てられた総ヒノキ造純和風建築。
	天鏡閣	建造物 (住居建築)	福島県耶麻郡猪苗代町大字翁沢字御殿山	有栖川宮威仁親王の別邸として明治41年に建てられた。鬱蒼とした樹木の中にあるルネッサンス風の洋風建築で、各部屋ごとに意匠をこらした優雅な造りになっている。
	太刀(銘吉房)	美術工芸品 (工芸品)	福島県耶麻郡猪苗代町字見祿山	
	会津の製蠟用具及び蠟釜屋	有形民俗文化財	福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田	材料採集調整 164点、製蠟 243点、蠟燭製作 353点、仕事着 46点、飲食灯火 23点、運搬交易 13点、製品 114点、蠟釜屋関係 11点、福

表 2.6 阿賀野川流域の主な文化財(2)

指定	名称	種別	所在地	概要
国指定重要文化財	惠隆寺観音堂	建造物 (寺院)	福島県河沼郡会津坂下町 大字塔寺字松原	会津三十三観音札所で、会津ころり観音のひとつ。観音像わきの「抱きつき柱」も有名。
	旧五十嵐家住宅	建造物 (民家)	福島県河沼郡会津坂下町 塔寺字松原	1729年に建てられた、この地方の典型的な三間取り広間型の農家を修復、保存。昔の農具や民芸品などの民俗資料を展示している。
	勝常寺薬師堂	建造物 (寺院)	福島県河沼郡湯川村勝常 字代舞	大同2年(807)に徳一上人により開かれた、東北を代表する古刹。現存する講堂は応永5年(1398)に再建されたもので、会津中央薬師堂と呼ばれている。所有する仏像はいずれも寺が創立された当時からのもので、これだけ多くの平安初期の仏像が1カ所に保存されていることは珍しい。
	興之院弁天堂	建造物 (寺院)	福島県河沼郡柳津町門前 町	室町初期の宝形造りの茅ぶきの三間堂。茅ぶき屋根のそりがゆるやかな洗練された建物。
	福生寺観音堂	建造物 (寺院)	福島県大沼郡会津美里町 富川字富岡	会津三十三観音巡り、第26番札所。
	法用寺本堂内厨子及び仏壇	建造物 (寺院)	福島県大沼郡会津美里町 雀林字三番山下	会津で唯一の三重の塔がたち、入口のケヤキの一本彫りからなる仁王像、観音堂の宮殿型厨子と仏壇は国の重要文化財。
	弘安寺旧観音堂厨子	建造物 (寺院)	福島県大沼郡会津美里町 米田字堂ノ後甲	弘安2年に建立されたので弘安寺と称され、会津ころり三観音のひとつ。野口英世の母シカが信仰した母堂として知られる、会津三十三観音の三十番札所。観音堂内には「だきつき柱」があり、信心の方が抱きつきと何事も念願が叶えられるといわれる。
	常福院薬師堂	建造物 (寺院)	福島県大沼郡会津美里町 新屋数字山王塚	建久8年、田子十兵衛道宥法印の開山と伝えられることから、田子薬師堂とも呼ばれる。本尊である木造田子薬師如来座像は、座高174cmの大座像である。
	朱漆金銅装神輿	美術工芸品 (工芸品)	福島県大沼郡会津美里町 宮林 伊佐須美神社内	
	観音堂	建造物 (寺院)	福島県南会津郡下郷町大 字中妻字観音前	三間四面に回廊を持つ南北朝様式を残す本格的和様建築。安置仏は聖観音立像で、秘仏となっている。御蔵入り三十三観音の第十一番札所。
	下郷町大内宿	伝統的建造物群 保存地区 (宿場町)	福島県南会津郡下郷町 大内宿	江戸時代には会津西街道の宿駅として栄え、旅の要所として重要な役割を果たしてきた地域。整然とした屋敷割や本陣、脇本陣など当時の姿をとどめている。
	檜枝岐の舞台	有形民俗文化財	福島県南会津郡檜枝岐村 ほか	檜枝岐の歌舞伎は元来鎮守神の祭礼に歌舞伎を奉納するという形で上演され、村民もこれを楽しむというものであった。したがって建物は神社に向かって建てられ、拝殿のような形態をとっている。
	旧五十嵐家住宅	建造物 (民家)	福島県南会津郡只見町大 字叶津字居平	約300年前のこの地方の本百姓の家屋である。
	成法寺観音堂	建造物 (寺院)	福島県南会津郡只見町大 字梁取字仏地	観音堂は純唐様式建築の優れた建築物である。1311年の建立で、当時から人々の信仰を集め、御倉入三十三観音の一番札所でもある。
	会津只見の生産用具と仕事着コレクション	有形民俗文化財	福島県南会津郡只見町	昭和40年代から、只見町の民具収集が始まり、現在は約8000点もの民具が集まっている。
	田島祇園祭のおとや行事	風俗習慣 (祭礼(信仰))	福島県南会津郡南会津町 田島	
奥会津の山村生産用具及び民家(馬宿)	有形民俗文化財	福島県南会津郡南会津町 田島	農具571点、山樵188点、養蚕135点、染織1488点、木地599点、杓子・へら打ち124点、木羽打ち32点、太鼓胴作り44点、下駄作り243点、桶屋158点、屋根ぶき40点、石工143点、鍛冶126点、蹄鉄187点、藁仕事286点、狩猟・漁撈158点、運搬484点、その他52点。	
旧馬場家住宅	建造物 (民家)	福島県耶麻郡猪苗代町大 字三ツ和字前田(旧所在 福島県南会津郡伊南村)		

(3) 史跡・名勝

新潟県阿賀町には小瀬ヶ沢洞穴遺跡などの洞穴遺跡が存在し、縄文時代の人々の生活を知る上で貴重な遺跡である。

会津には至徳元年(1384年)に葦名直盛により黒川城として築かれ、その後文禄元年(1592年)に蒲生氏郷が天守閣を築城した若松城(鶴ヶ城)がある。当時積まれた石垣は400年を経た今なお往時の姿を偲ばせており、会津地方には長い歴史を持つ会津藩に関わる史跡・名勝が多数存在する。



図 2.4 阿賀野川流域の主な史跡 位置図

表 2.7 阿賀野川流域の主な史跡

指定	名称	種別	所在地	概要
国指定史跡名勝	小瀬ヶ沢洞穴遺跡	史跡	新潟県東蒲原郡阿賀町神谷字善入山	流紋岩の亀裂によって形成された洞窟。調査は昭和33年から3ヶ年計画で進められ、縄文時代の草創期の土器が多量に出土している。また、狩猟の道具である石斧や石槍が千数百点も出土し、狩猟を糧とする当時の人々の生活を知る上で貴重な遺跡である。
	室谷洞穴遺跡	史跡	新潟県東蒲原郡阿賀町神谷字岩洞	阿賀野川の支流室谷川の側方侵食により形成された洞窟。昭和35～37年に発掘調査が行われ、縄文草創期の存在が確定した研究史上意義の深い遺跡である。
	下野街道	史跡	会津～下野	会津西街道または南山通りと呼ばれ、会津若松と日光今市を結ぶ重要な道であった。
	若松城跡	史跡	福島県会津若松市追手町	1384年に葦名直盛により黒川城として築いたとされる。その後文禄元年(1592年)に蒲生氏郷が天守閣を築城、名前も鶴ヶ城と改められた。鶴ヶ城公園内は国史跡に指定されており、当時積まれた石垣は400年を経た今なお往時の姿を偲ばせている。戊辰戦争の際には一ヶ月の籠城の末に開城。現在の天守閣は昭和40年に復元されたもので、内部は国の重要文化財を中心とした史料を展示する郷土博物館になっている。
	会津藩主松平家墓所	史跡	福島県会津若松市東山町石山院内	東山温泉に近い広大な森の中にある、会津藩主松平家代々の墓。巨大な亀の背ののった墓碑がひときわ目を引く。
	旧滝沢本陣	史跡	福島県会津若松市一箕町滝沢	旧江戸街道の滝沢峠の登り口にあり、参勤交代や藩内巡視の際の休憩所となっていた。戊辰戦争の際には藩主松平容保がここで指揮をとった。
	大塚山古墳	史跡	福島県会津若松市一箕町	円墳を従えた古墳時代前期の前方後円墳で、三角縁二神二獣鏡などが出土している。出土品は鶴ヶ城天守閣や県立博物館に展示。
	古屋敷遺跡	史跡	福島県喜多方市塩川町大田木字古屋敷	
	亀ヶ森古墳・鎮守森古墳	史跡	福島県河沼郡会津坂下町大字青津字館ノ腰	全長127m、高さ約10mの、東北第二の大きさを誇る前方後円墳。中世には館が建てられ、古墳上に人が居住していたという経歴を持つ珍しい古墳。
	向羽黒山城跡	史跡	福島県大沼郡会津美里町船場	蘆名盛氏の隠居城として建立され、現在も空濠や馬場跡が残っている。全国有数の山城跡。現在、白鳳山公園となっている。
	慧日寺跡	史跡	福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字寺西	平安初期に高僧徳一によって開かれて以来、会津仏教発祥の地として1200年にわたる栄枯盛衰の時空を越えてきました。小峰城南麓にあり、会津地方最古の寺跡。
	会津松平氏庭園	名勝	福島県会津若松市花春町	歴代会津藩主の別荘として使われてきた庭園で、現在も400種類の薬草が植えられている。松平藩2代目藩主正経が薬草を栽培し、3代目正容が朝鮮人参を試植し、後に民間に広く奨励したことから「御薬園」と呼ばれるようになった。昭和11年には歌人・与謝野晶子も訪れ「秋風に荷葉うらがれ香を放つ おん薬園の池をめぐれば」の歌を残している。

(4)天然記念物

阿賀野川流域の国指定天然記念物として、本州最大の湿原である日光国立公園内の尾瀬や、柳津のウグイ群の生息地、現在の阿賀町で晩年を過ごした平安時代の将軍・平維茂^{たいらのこれもち}の墓碑として植えられた将軍杉などが存在している。

また、猪苗代湖や水原の瓢湖はハクチョウ渡来地であり、毎年多くのハクチョウが見られる。見禰の大石は、磐梯山が大噴火した明治21年、火口の中にあった輝石安山岩の巨塊が、噴き出した火山性泥流によって運ばれてきた。火山性泥流が予想外の遠距離まで大石を運ぶという事実を示す、学術的にも貴重なものとされている。



図 2.5 阿賀野川流域の主な天然記念物 位置図

表 2.8 阿賀野川流域の主な天然記念物

指定	名称	種別	所在地	概要
国指定天然記念物	日光国立公園尾瀬	特別天然記念物	新潟県魚沼市・福島県南会津郡檜枝岐村ほか	東西 6km、南北 2km、標高 1400m の本州最大の湿原で、澄んだ水をたたえる池塘が無数に点在する。
	小山田彼岸桜樹林	天然記念物	新潟県五泉市小山田	菅名岳西側の蟹沢山の中腹から山麓にかけて繁茂するサクラ樹林。桜の種類は、エドヒガン(アズマヒガン)で、その数は 250 本を超える。巨樹が多く、最大のもは目通り 3m にも達する。花は、純白のものが多く、淡紅のものも見られ、4 月中旬頃に開花する。(平地より若干遅く開花。) 小山田の桜は、古くから知られており、山道に沿って見られる桜並木は、嘉永年間(1850 年頃)に旧川東村の齋藤源左工門が植樹したと伝えられ、当時、桜の木は 1,000 本を数えたという。
	梅護寺の珠数掛ザクラ	天然記念物	新潟県阿賀野市小島	親鸞聖人が出立の際、手にしていた数珠を桜の枝に掛けて仏法を説いたところ、毎年数珠のように花が繋がって咲くようになったと言われており、世界的にも珍しい桜である。
	水原のハクチョウ渡来地	天然記念物	新潟県阿賀野市水原	ハクチョウがシベリアから瓢湖に渡ってくるのは、季節風が吹く 10 月頃。ハクチョウは朝に瓢湖を飛び立ち、昼間は周辺の田んぼで餌をとったり休息したりして、夕方に戻ってきてねぐらをさだめる。
	極楽寺の野中ザクラ	天然記念物	新潟県東蒲原郡阿賀町両郷甲極楽寺内	極楽寺の境内にあり、濃紅大輪の美しい花を咲かせる野生のペニヤマザクラの天然変種である。花は径約 6cm、花序ごとに 2 個から 3 個の花をつけ、開花は早い年で 4 月中旬から始まる。
	將軍杉	天然記念物	新潟県東蒲原郡阿賀町岩谷	人々が畏敬と親しみを込めて「將軍杉」と呼んできた木であり、その名は、この地で晩年を過ごした平安時代の將軍・平維茂の墓碑として植えられたことに由来している。
	鳥屋野逆ダケの藪	天然記念物	新潟県新潟市鳥屋野	
	赤井谷地沼野植物群落	天然記念物	福島県会津若松市湊町赤井字北浅野原	猪苗代湖西岸に近い海拔 530m の平坦地にあり、南北 2km、東西 1 km にわたる湿原。ヨシを主とした低層湿原からミズゴケの生育によって盛り上がった高層湿原までの発達段階が見られ、高層湿原原にはガンコウラン、ホロムイイチゴ、ツルコケモモ、ホロムイソウ、ヤチスギランなどの寒地性植物が生育している。
	高瀬の大木(大ケヤキ)	天然記念物	福島県会津若松市神指町高瀬字五百地	慶長 5 年(1600)上杉景勝が神指城を築いたときに土塁したところにあったケヤキの巨木。根元の幹囲 12.6m、目通幹囲 10.5m、高さ約 17m で、幹の内部は空洞になっている。
	赤津のカツラ	天然記念物	福島県郡山市湖南町赤津字西枝	樹齢 350 年以上、樹高 25m で、カツラとしてはまれにみる巨木。布引山の御神木としてきこりたちからあがめられてきた。
	塔のへつり	天然記念物	福島県南会津郡下郷町大字白岩	奇岩怪石が塔のように並立する、大川ライン最大の景勝地。
	中山風穴地特殊植物群落	天然記念物	福島県南会津郡下郷町湯野上字中山ほか	中山の表面にはいたるところに角柱状の岩石が積み重なり、露出し、そのすき間から冷風が吹き出すため、標高 800m 以下にもかかわらず高山植物の群落ができています。本州最大とされるオオタカネバラのほか、ペニバナイチヤクソウ、ヤナギランなどが見られる。
	柳津ウグイ生息地	天然記念物	福島県河沼郡柳津町柳津字諏訪町	アカハラやハヤともいわれる魚。魚淵には一般に群れる習性のないとされるウグイが群をなして棲息しており、弘法大師が虚空蔵尊を刻んだ木屑を見川に投げ込むと、それがたちまちのうちにウグイに姿を変えたと伝えられている。
	猪苗代湖のハクチョウおよびその渡来地	天然記念物	福島県耶麻郡猪苗代町	毎年 400 羽を越えるハクチョウが湖の北岸一帯に渡来する。この特色は、コハクチョウが群の大部分を占め、オオハクチョウが少ないこと。日本本土の内陸部における最も高い地点に属すること。渡来期間は 10 - 4 月にわたり、半年以上の長期間に及ぶこと、などである。
	猪苗代湖ミズスギゴケ群落	天然記念物	福島県耶麻郡猪苗代町猪苗代湖北岸	水深 3m の水底に生えるミズスギゴケは、波動により引き抜かれ、水流の作用によって球状になるもので、日本では猪苗代湖でしか見られない貴重なもの。水位の低下によって一時姿を消し「幻の植物」と言われたが、昭和 47 年に蟹沢浜に大量に打ち上げられているのが発見された。
	見禰の大石	天然記念物	福島県耶麻郡猪苗代町見禰	磐梯山が大噴火した明治 21 年、火口の中にあつた輝石安山岩の巨塊が爆破し、火口から噴き出した火山性泥流のついで、運ばれてきた。大きさは、長さ 8.2m、高さ 3m である。山上からは直線距離にして 5km はあり、火山性泥流が予想外の遠距離までこれほどの大石を運ぶという事実を示す、学術的にも貴重なものとされている。
	雄国沼湿原植物群落	天然記念物	福島県耶麻郡北塩原村檜原字雄国山	湿原が広がり、初夏は高山植物が咲き乱れる。
駒止湿原	天然記念物	福島県大沼郡昭和村・福島県南会津郡南会津町	高層湿原で、高山植物が自生している。沼周辺には散策用の木道(往復約 2 時間)が完備。4 月下旬のミズバショウに始まり、コバイケイソウ、ワタスゲ、ニッコウキスゲ、ハクサンシャクナゲなど、春から秋にかけて四季折々の動植物が観察できる。	

(5) イベント・観光

阿賀野川流域には、阿賀野川の水面及び高水敷を利用した祭りやイベントが数多く開催されている。春季には若松城など各地で桜祭りが開催され、夏季は花火大会や、水面を利用したイベントが多数開催される。冬季には猪苗代湖などにハクチョウが渡来し、訪れる人の目を楽しませる。



松浜まつり

初日、松浜太鼓を鳴らしながらの地区内巡業や山車パレードなどが行われ、2日目の花火大会では4,000発の花火が打ち上げられる。
【出典：阿賀野川河川事務所資料】

塩川船引き祭り

かつて舟運の基地として栄えた塩川地区のお祭りで、東西に分かれて舟を引き合うことにより、農業・商業・工業の益々の発展を願う。
【出典：阿賀川河川事務所資料】



つがわ狐の嫁入り

阿賀野川と常浪川の合流点にそびえる麒麟山。この山にはその昔、多くの狐が棲んでいて、毎夜のごとく狐火が見られたといわれる。
【出典：阿賀野川河川事務所資料】



七日堂裸まいり

民衆の力で只見川に浸む龍神を追い払ったという伝説に由来する祭りで、正月七日の夜に行われる。
【出典：柳津町 HP】



会津まつり

提灯行列、会津藩公行列、日新館童子行列などが行われ、中でも会津藩公行列は、幕末を中心とした武者姿の総勢500名が練り歩く、最大のイベントである。
【出典：会津若松市 HP】



図 2.6 阿賀野川流域の主なイベント・観光 位置図

表 2.9 阿賀野川流域の主なイベント・観光(1)

期間	名称	市町村	概要	備考	
1月	初詣	各地	各神社	1日	
	上旬	七日堂裸詣り	柳津町	民衆の力で只見川に棲む竜神を追い払ったという伝説にちなんだ祭り。正月七日の夜に行われる。この祭は、街中に燃えるかがり火の中、大鐘を合図に雪の中下帯一つの男たちが菊光堂の大鯛口を目指す。	7日
		裸詣り	阿賀野市 (旧京ヶ瀬村)	徳川時代から続いている行事で、小学生から大人まで裸になり、手づくりのしめ縄とわらじをみにつけて頭から水をかぶり、1年の健康を願って参拝する。	成人の日 前日
		十日市	会津若松市	毎年10万人の人手がある会津地方最大の初市。至徳元年(1384年)、輩名直盛が黒川城を築いた時から始められたといわれている。色鮮やかな風車、起き上がり小法師といった縁起物のほか、さまざまな掘り出し物が露天に並ぶ。	10日
		小荒井初市	喜多方市	だるま・風車・起き上がり小法師などの縁起物などの露店が並び、福を求めて沢山の人でにぎわう。風車は「手が回るように」、起き上がり小法師は「七転び八起きの家徴」として家族の数より1個多く買い、神棚に祀り家内安全と無事を祈る。	12日
	中旬	奇祭坂下初市・大俵引き	会津坂下町	400年の伝統を誇る大俵引き、下帯一本の引き子が豪快に引合う。	14日
		鳥追い	新潟県内各地	14日夜から15日未明にかけて、魚沼・頸城・岩船地方でも行われている。田畑を荒らす害鳥を追い払い、今年も豊作であるようにと祈念する小正月行事。	14~15日
		奇祭大俵引き・高田初市	会津美里町	高田地区の大通りで、重さ3トンもある大俵をかがり火の明かりの中引き合い、勝ち負けによって商売繁盛・米の豊作を占う。	第2土曜
		賽の神	新潟県内各地	正月に飾られた門松や神飾りなどを集め、円錐形の塔を作り、それに火をつける。この火で焼いた餅やスルメを食べて、無病息災を願う小正月行事。地方によっては「どんと焼」ともいう。	15日
		塩川「初市」開運舟引祭り	喜多方市	かつて舟運の基地として栄えた塩川地区のお祭りで、東西に分かれて舟を引き合うことにより、農業・商業・工業の益々の発展を願う。	15日
		サイの神	三島町	集落ごとに、豊作・無病息災を祈願して行われる火のまつり。冬の夜空に舞い上がる火柱は荘厳。	15日
		小田付初市	喜多方市	だるま・風車・起き上がり小法師などの縁起物などの露店が並び、福を求めて沢山の人でにぎわう。風車は「手が回るように」、起き上がり小法師は「七転び八起きの家徴」として家族の数より1個多く買い、神棚に祀り家内安全と無事を祈る。	17日
	下旬	延命地蔵裸押合いまつり	阿賀町 (旧三川村)	延命寺本堂より庫裡へ裸押し合いをし、たき火の上を飛び越し、無病息災を祈る。	23日
	2月	上旬	鐘馗祭	阿賀町 (旧鹿瀬町)	ワラで作った2m位の人形で、村に疫病神が入らないように守るもので、中国由来の鐘馗信仰と、日本の道祖神信仰が結合したものとされている。部落の無病を祈願する。
		舟玉祭	阿賀町 (旧津川町)	この祭りは、昔、舟乗りや商人たちによって、水上安全と商売繁盛の祭りとして行われた。今は商売繁盛と交通安全の祈願として毎年行われている。	11日
		雪と火のまつり	三島町	「雪と火のまつり」は三島町が元祖で、冬の民族行事が集大成されたもの。	11日
		只見ふるさとの雪まつり	只見町	冬の一大イベント。会場内には、大雪像をはじめ大小様々な雪像、かまくらが立ち並ぶ。夜には、会場内全体がライトアップされ幻想的な世界が作り上げられる。両日の締めを飾る夜の花火大会で、会場内の盛り上がりは最高潮になる。	11、12日
		大内宿雪まつり	下郷町	日本一の団子さし、具止餅拾い、三志神楽、ボタ引き競争、きき酒大会、御神火戦火・花火大会、わらじ履き綱引き大会、大川渓流太鼓演奏、そば食い競争、「郷人」よさこい踊り、時代風俗仮装大会などが開催される。	第2土日
		会津絵ろうそくまつり	会津若松市	「鶴ヶ城」と「御薬園」に、約7000本のろうそくが灯る。会津絵ろうそくまつり～ゆきほたる～に合わせて、会津武家屋敷を始め、いにしえ夢街道の沿道や飯盛山の参道、白虎隊の墓前を竹灯、雪洞で幻想的な世界を演出。	中旬
		蔵のまち喜多方冬まつり	喜多方市	太鼓フェスティバルとラーメンフェスタをメインイベント。	中旬
		第5回 かまっこ祭り	天栄村	雪像コンテストなどが行われる雪の遊園地や、祈願花火などが開催される。	中旬
		下旬	下駄供養祭	新発田市 (旧豊浦町)	旅館やホテルにとって下駄は欠かせない商売道具、その日ごろ世話になっている下駄に感謝し、その供養と月岡温泉発展を祈り、使い古した下駄とワラを積み上げたサイの神に点火する。
文殊祭			会津美里町	知恵の菩薩として知られる、護国山文殊院の「文殊大祭」は毎年県内外から、受験を控えた中学生・高校生やその父母らが訪れ多くの人で賑わう。	25日
からむし織の里雪まつり			昭和村	厳しい自然を逆に利用しようとはじめたイベントで、冬の昭和の風物詩、雪ざらしの実演、また雪上ゲーム大会やきき酒大会、もちつき大会、特設ステージではふるさと芸能まつりが開催される。	下旬

表 2.10 阿賀野川流域の主なイベント・観光(2)

期間	名称	市町村	概要	備考	
3月	上旬	鐘馭様祭	阿賀町 (旧津川町)	信者や部落の人達の持ち寄るワラで、巨大(500kg)の鐘馭様を作り、丘の御堂にかつぎあげる伝統の奇祭。特に陽物が見事である。	2日
		鐘馭様まつり	阿賀町 (旧三川村)	御神体は近隣の信者が持ち寄った稲ワラで作られる。昔は軍神として信仰されたが、現在で疫病除けの神として信者が多い。	8日
		大友稲荷初午祭	新発田市	県内では有数な稲荷大明神で行われる初午祭。	第一の午の日
	中旬	赤枝彼岸獅子	磐梯町	荒々しく野趣にあふれ、勇壮な力量感がみなぎる舞。	18、19、21日
		会津彼岸獅子	会津若松市	長い冬が終わりを告げ、春の彼岸入りとともに、3体の獅子が笛と太鼓の音色に合わせて古式ゆかしい舞を披露しながら市内を周る。豊作と家内安全を祈り、春の訪れを喜び合う会津の伝統行事。	18~24日
	下旬	舟引き祭	磐梯町	会津仏教文化発祥といわれる慧日寺の祭として、歴史を誇る伝統行事。明治に入り磐梯神社に受け継がれた舟引き祭りは、飯舟(いひふね)と呼ばれる木舟に米俵を3俵重ね、舟の両端に2本の綱をつけ東西に分かれ引き合い、3回勝負で東が勝てば「豊作」、西が勝てば「米の値段が上がる」というその年の作柄を占う神事。	21日
福寿草まつり		喜多方市	自生している福寿草は5haに100万株もあり、日本最大級の群生地と言われ、雪どけとともに黄色い花が咲く。	下旬	
4月	中旬	福満虚空蔵尊十三講詣り	柳津町	数え十三歳という子供が大人へ変わる節目に行われ、これまでの無事を感謝し、さらに健やかに成人になることを願うお参り。	13日~5月13日
		八幡宮春季祭礼	五泉市	豊作を祈願する春のお祭り。	14、16日
		鶴ヶ城さくら祭	会津若松市	鶴ヶ城公園の桜の開花時期に合わせて、いなせな法被姿の担ぎ手衆が神輿を繰り出す。	15、16日
	下旬	勝常寺祭礼(念仏踊り)	湯川村	勝常念仏踊りは会津では一般に「会津念仏踊り」といわれ空也上人(900年~970年)の頃から始まり、一遍上人(1239年~1289年)の頃に盛んになった。踊りは念仏をを唱えながら踊り狂うのが本来の姿であるといわれ、手を舞い足を踏む踊りを信仰と供養に導き、併せて天下泰平と五穀豊稔を祈願したと伝えられている。	28日
		大仏山山開き	喜多方市	毎年4月29日みどりの日に大仏山の山開きが行われる。大仏山は標高708mのファミリー向きの山で、うつくしま百名山にも選ばれている。登山口からの急坂を1時間強登ると、山頂からは会津盆地や磐梯山、遠く飯豊連峰の雪渓まで見渡せる。	29日
		花祝祭(伊佐須美神社)	会津美里町	薄墨桜の花びらを入れた餅が氏子に振舞われる。伊佐須美神社境内の神楽殿では天の岩戸を模した垂幕をあしらい、神話にある諸作が舞われる。初めに清めの舞があり、イザナギ・イザナミの天地開闢舞、スサノオの大蛇退治、天照大神が岩戸に隠れた時の岩戸舞、諏訪鹿島神の重神舞など十五段が舞われる。	29日
会津五桜杉の系桜見頃	会津坂下町	会津坂下町杉集落の薬王寺境内には、会津五桜の一つである『杉の系桜』がある。この杉の系桜は、樹齢200年と推定されているが、天正年間(1573年~1592年)に宮城郡より移植したものが2代目と言われている。	下旬		
5月	上旬	つがわ狐の嫁入り	阿賀町 (旧津川町)	阿賀野川と常浪川の合流点にそびえる麒麟山。この山にはその昔、多くの狐が棲んでいて、毎夜のごとく狐火が見られたといわれる。	3日
		越佐招魂祭	新発田市	戦没者の例を法要し、弔慰する際、遺族の参拝でにぎわう。	3、4日
		黒森山山開き	喜多方市	日本百名山のひとつ飯豊山の山開き。登山口にある御沢野営場で安全祈願祭を行なう。	5日
		木津薬師まつり	新潟市 (旧横越町)	薬師は眼の病を治すということで知られている。木津薬師は信仰の地域範囲が広く、縁日にはにぎわいをみせる。	8日
		てわっさの里まつり	三島町	編み組細工などの工芸品、地域の自然や人の暮らしを撮った写真、材料から手作りの手すき和紙、絵画、石、盆栽、手作り豆腐など、様々な「てわっさ」が公開される。また、新そばの模擬店なども出店される。	上旬
	中旬	愛宕神祭礼奉納歌舞伎	檜枝岐村	檜枝岐歌舞伎は江戸の時代より親から子、子から孫へと伝承されて連綿と続き、春と秋の祭りに奉納歌舞伎として檜枝岐の村人を楽しませてきた。現在残っている資料の中に260年前に購入された浄瑠璃本が残っていることから、260年以上の歴史を持っていると言われている。	12日
		二岐山山開き	天栄村	山の安全を祈願する神事が行われ、シーズン中の安全を祈願。お疲れの後、参加者が二岐山の山頂を目指し、目と耳と鼻で新緑香る二岐山の登山を楽しむ。	14日
		磐梯山開き	北塩原村・磐梯町・猪苗代町	猪苗代登山口で安全祈願式典を開催。	14日
	下旬	松原湖一周ファミリーサイクリング大会	北塩原村	「裏磐梯高原」の大自然にふれることの出来るサイクリング大会。松原湖を一周する約32kmのコースをゆっくりと走行。	28日
		第5回 炎の郷・向羽黒山城跡ふれあい茶会	会津美里町	全国屈指の規模を誇る向羽黒山城跡の国史跡指定を記念して、向羽黒山城跡と白鳳山公園を会場として、七席の野点茶会を設け開催している。会津の伝統工芸品(焼き物・漆器など)を活用し、新たな産品としてもPRしている。	最終日曜

表 2.11 阿賀野川流域の主なイベント・観光(3)

期間	名称	市町村	概要	備考	
6月	春の大山祇神社例大祭	西会津町	五穀豊穡を祈願するお祭り。境内では野点などが行われる。	1～30日	
	上旬	蔵のまち喜多方さつきまつり	喜多方市	5月下旬から6月上旬に蔵の里内部で行われるさつきまつり。咲き誇るさつきの背景は旧外島家住宅の蔵座敷、白漆喰の蔵の壁等々、喜多方の地域色を生かした演出が光り、蔵の町喜多方でしか見られないさつきまつりを堪能できる。	上旬
		会津朝日岳山開き	只見町	新緑と高山植物がことのほか見事な会津朝日岳は、会津を代表する中級山岳。6月第2日曜日に山開きが行なわれ、10月中旬までシーズが続く。中腹のブナ林が見事なほか、6月のシャクナゲの群生、新緑と残雪のコントラストが美しい。標高は1624m。	第2日曜
	中旬	蔵嶽山祭	磐梯町	会津地方の馬頭観音信仰の中心として、300年前に始まったとされる祭礼。昭和30年で一旦途絶えたが平成12年から復活した。(農家の人たちが農耕馬の無病息災、安全守護のため、馬と一緒に参拝した)当日は、登山道にある三十三観音を巡り、観音堂ではササもちの振る舞いが行われる。	18日
		たかさど交流レガッタ	喜多方市	阿賀川上流の県営荻野漕艇場で行われるボート大会。ナックルフォア競技で、部門ごとにスピードと技が競われる。	中旬
	下旬	横町地藏尊祭礼	五泉市	約300体の木造の地藏尊のお祭り。	23日
蒲原まつり		新潟市	蒲原神社は地域農民の教化に努めたので、近郷農村をあげてお祝いをするならわしが続き、露店が1kmに及ぶ。米の作況を占うお託書は1日の夜行われる。6月30日は前夜祭。	6月30日～7月3日	
7月	上旬	大内宿半夏まつり	下郷町	高倉宮以仁王の流ぐう伝説によるものと謂れ、霊を祀る高倉神社の祭礼である。江戸時代の藩政による宿駅として栄えた頃は、王の命日(5月19日)に実施されていたが、明治になって宿駅としての機能を失ったことや5月の農繁期を避けるため、半夏の日に延ばしたことから「半夏まつり」と呼ばれ、五穀豊穡を祈るまつりでもある。	2日
		粟村稲荷神社御田植祭り	会津坂下町	会津三大御田植祭りの内の一つ。一年の五穀豊穡を祈願して、町内各所で早乙女踊りが奉納される。	6、7日
		全海上人御開帳	阿賀町(旧鹿瀬町)	町内深戸出身の常吉が、妻子に先立たれた42才の時、出家し、出羽の湯殿山で修行、全海と号した。	
中旬	お田植祭り	会津美里町	「御田植祭」は伊勢神宮の朝田植、熱田神宮の夕田植と共に、日本三田植の1つと称されている。伊佐須美神社を出発し、御田神社御神田で田植の神事を行い、その年の豊作を祈願する。	12日	
	粟島神社祭礼	五泉市	農耕を奨励する神様を祭るお祭り		
	伊夜日子神社燈籠神事	新潟市(旧亀田町)	豊作と機織りの景気を祈って奉納されたのが始まりで、1番組より6番組まであり、宵宮の晩、造花で飾った燈籠を木遣り音頭で氣勢をあげて、ぶつかり合い、押し合って町内を廻り神社に納める。		
下旬	裏磐梯火の山まつり	北塩原村	裏磐梯高原の夏の風物詩。磐梯高原先人供養慰霊祭並びに、安全祈願祭、灯籠流し、飯袋盆踊り大会、花火大会などが開催される。	21日	
	会津田島祇園祭	南会津町	会津田島祇園祭は、京都の祇園祭と並んで日本三大祇園祭のひとつに数えられている。別名「どぶろく祭」・「ふき祭」と称されるこのお祭りは、お党屋制度によって保存され、現在12組のお党屋組が1年神主の党本の家を支えて祭事を担当する。13年目に巡ってくる当番お党屋を中心に、前年のお党屋組「渡し」と、翌年のお党屋組「受け」の3組が繰り広げる祇園祭は、1年がかりの大行事である。クライマックスは、7月23日早朝に行われる七行器(ななほかい)行列で、別名「花嫁行列」とも呼ばれている。	22～24日	
	咲花温泉水中花火大会	五泉市	水中花火など約400発が水面に花を咲かせ幻想的。	第4木曜日	
	日橋川「川の祭典」	喜多方市・会津若松市・湯川村	前半の部は40チームあまりの個性豊かなイカダがスピード、ユニークさ、そして美を競い、後半の部は色と音が特徴の中国花火を交えた花火大会が開催される。	第4日曜	
	住吉神社祭礼	五泉市(旧村松町)	村松藩祖を祀る。チャンチャコババサ(高砂人形)が飾られ境内の池には船神輿が浮かべられる。	28、29日	
	木津薬師火祭り	新潟市(旧横越町)	毎年7月28日午後7時過ぎ、山伏姿の修行僧たちが山伏問答を唱え入場。柴灯の大護摩が焚かれ読経の音が響き、山積みされた薪に火が入ると、集まってきた老若男女は、燃え上がる炎と読経の声に誘われ、無病息災、家内安全を祈る。火の勢いも次第に衰え、下火になった薪を敷き広げ、火渡りの開始。素足になった修行僧が、気合を込め歩き渡る。	28日	
	磐梯まつり	猪苗代町	磐梯まつりは、1888年7月15日の磐梯山噴火によって亡くなった方々の魂をなぐさめ、噴火により生まれた自然の恵みに対し感謝する2つの心がひとつとなり1948年から始まった祭りで、現在までその心が受け継がれている。	29、30日	
	湖まつり	郡山市	ヤマメつかみ大会、タライ舟体験、カヌー体験などが行われる。	29日	
からむし織の里フェア	昭和村	からむし織を、多くの人々に広く知ってもらおうと始めたイベント。苧引き、苧積み、織の実演、体験やからむしの着物ショーが開催される。からむし織は、本州でたったひとつここ昭和村だけに生き残った日本の伝統文化である。	下旬		

表 2.12 阿賀野川流域の主なイベント・観光(4)

期間	名称	市町村	概要	備考
8月	会津高野山祭礼	会津若松市	会津高野山参り(別名・冬木沢参り)と呼ばれるこのお参りは、お盆中の各家庭にお帰りになるご先祖様を、会津の野辺である冬木沢までお迎えに行く、盆迎えのお参りである。	1~7日
	きなせやまつり	五泉市	ニットの「着て下さい」と五泉市へ「来て下さい」をかけて「きなせや」と名付けた市民まつり。大民謡流し、市内パレード、お祭り広場、花火大会などがある。	第一土・日曜日
	諏訪神社祭礼	喜多方市	毎年8月2・3日、夏を彩る祭りが繰り広げられる。笛や太鼓の賑やかな祭り囃子の流れる中、若衆が神輿をかつぎ、子供たちが山車を引き、稚児行列が町中を練り歩き、見物人を楽しませてくれる。祭礼中は出店が立ち並び賑わう。3日には神輿の渡御があり、お旅所で各町内の安全祈願を行う。	2、3日
	空也念仏踊り	会津若松市	この踊りは、祖先の供養と成仏を願う夏の祭礼期間中に、1回のみ奉納される念仏踊りで、空也上人により広められたというものである。今では本拠地の京都でも原型が消滅している貴重な民俗芸能である。	5日
	真夏の雪まつり	檜枝岐村	岩魚のつかみどり、雪上運動会、雪上花火大会、ピアガーデン、飲食コーナー、その他いろいろなイベントが開催される。	5、6日
	湖と妖精のフェスティバル	金山町	花火、大蛇退治、わかばやし、灯籠流し、音楽祭など2日間にわたり行われる。中でも目玉の大蛇退治は、大蛇が湖に繰り出し幻想的な世界が展開され、佐原十郎義連の伝説に基づいた、勇壮な大蛇退治の時代絵巻が繰り広げられる。	5、6日
	坂下の夏まつり(2万人流し踊り)	会津坂下町	8月第一日曜日に役場前メインステージを中心に毎年歩行者天国の他、名物「ばんげねぶた」や花火大会などを行われる。	6日
	水の郷まつり	只見町	かぶと虫つかみ大会や魚つかみ大会、夕方からは郷土芸能や和太鼓の演奏、夜には只見湖を彩る花火大会などが開催される。また、田子倉ダム見学や田子倉湖でのカヌー・ボート遊びなどが楽しめる。	第1日曜
	会津本郷せと市	会津美里町	明治後期から始まった本郷地区のせと市は、4万人ほどの観光客が瀬戸町通りに広がる朝市に訪れる。	第1日曜
	霊まつり稚児行列流灯花火大会	柳津町	毎年8月10日菊光堂において祈願祭を催し、稚児行列によって魚淵の川辺に慰霊の行事を行い、夕闇せまる頃から流灯し、更にその夜は花火大会が毎年盛大に催される柳津町のメイン行事である。	10日
出雲神社祭礼	喜多方市	神輿渡御太鼓台が市内を練り歩く。	10、11日	
中旬	蔵のまち喜多方夏まつり	喜多方市	喜多方の夏祭りはオープニングセレモニーである花火大会を始めとし、会津磐梯山庄助踊り、子供祭り囃子、会津喜多方蔵太鼓、太鼓台の競演等々が三日間、盛大に行われる。花火大会会場では喜多方の四季を表現した創作スターマイン他、太極拳・祭囃子と花火の共演、郷土芸能フェスティバルが行われる。	12~15日
	磐梯まつり花火大会	猪苗代町	磐梯まつりは、1888年7月15日の磐梯山噴火によって亡くなった方々の魂をなぐさめ、噴火により生まれた自然の恵みに対し感謝する2つの心がひとつとなり1948年から始まった祭りで、現在までその心が受け継がれている。	13日
	むらまつ祭り	五泉市 (旧村松町)	パレード、村松甚句流しのほか、各種の催し物が随所に開催される。町民総参加を主体とした祭である。	中旬
	にいつ夏まつり	新潟市 (旧新津市)	16日は新津松坂市内流し、19・20・21日は屋台・たるみこしまつり。	17~21日
	鎮守神祭礼奉納歌舞伎	檜枝岐村	檜枝岐歌舞伎は江戸の時代より親から子、子から孫へと伝承されて連続と続き、春と秋の祭りに奉納歌舞伎として檜枝岐の村人を楽しませてきた。現在残っている資料の中に260年前に購入された浄瑠璃本が残っていることから、260年以上の歴史を持っていると言われている。	18日
	出湯温泉まつり	阿賀野市 (旧笹神村)	民謡流し、仮装盆踊り大会、のど自慢大会など多彩な催し物がくりひろげられる。	19日
	月岡温泉まつり	新発田市 (旧豊浦町)	民謡流し、子供みこし、仮装行列、盆踊り大会、カラオケ大会など二日間に渡り催され、最後の勇壮な名物月岡太鼓は圧巻である。	19~20日
下旬	水原まつり	阿賀野市 (旧水原町)	若者たちが町を練り歩きながら大灯笼をぶつけあうげ・灯笼来舞や、代官行列が行われる。25日は瓢湖大花火大会が行われる。	24~25日
	松浜まつり	新潟市	初日、松浜太鼓を鳴らしながらの地区内巡業や山車パレードなどが行われ、2日目の花火大会では4,000発の花火が打ち上げられる。	24~25日
	かめだ祭り	新潟市 (旧亀田町)	25日は流麗な踊りと樽の響きが特徴の亀田甚句を約1,500人の人々が2時間にわたり踊り続ける亀田甚句流しが、26日は大岩万燈押し合いが行なわれる。	25~26日
	古津鯉取競争	新潟市 (旧新津市)	鯉取り競争(捕獲した中から大物賞などが贈られる)。	27日
	新発田まつり	新発田市	各町内から6台のまつり台輪を引き出し、それに50台の金魚台輪が市内を引きまわされる。民謡流し、帰り台輪の勇壮な姿は有名である。	27~29日

表 2.13 阿賀野川流域の主なイベント・観光(5)

期間	名称	市町村	概要	備考	
9月	上旬	檜枝岐歌舞伎の夕べ	檜枝岐村	座の名称は「千葉之家花駒座」、座長は現在8代目星正徳氏、座員は30名ほどである。近年は現代まで引き継がれている貴重な農民芸能として脚光を集め、上演の際には多くの観衆が訪れる。	3日
		会津地鶏まつり	三島町	三島町の大自然の中で育てられた会津地どりの美味しさを堪能してもらうまつり。	3日
		南郷村豊年祭り	南会津町	村民総参加の豊年祭りは、よさこい踊りや野外コンサート、花火大会、豊年仮装大会などが開催される。	5日
		葛塚稲荷神社秋季祭礼	新潟市 (旧豊栄市)	各町内の装飾をした灯笼がぶつかりあう、けんか祭りである。	7~8日
		羽鳥湖マラソン大会	天栄村	参加者は、沿道からの声援を受け、初秋の羽鳥湖高原を眺めながら心地よい汗を流し、健脚を競う。	10日
	中旬	会津かわひがし「ふれ愛市」	会津若松市	町に伝わる源義経との悲恋物語の伝説のヒロイン「皆鶴姫」にちなんで開催されるイベント。フリーマーケット、エンターテインメントコンテスト、皆鶴姫・義経発表会、抽選会や各種模擬店など盛りだくさんの内容で、皆鶴姫の墓前祭も開催される。	中旬
		安田八幡宮例祭	阿賀野市 (旧安田町)	200年以上の伝統を誇り、神輿渡御の警護に当たる四役者の、芸能披露が見どころ。2日目の夜(本宮)、大好きな祭りが終わってしまうようにと、神輿が神社に帰る「宮入り」を阻止する押し合いは迫力満点。	14~15日頃
		阿賀野川フェスティバル	新潟市 (旧新津市)	阿賀野川水辺プラザ周辺で、水に親しみ阿賀野川流域の交流を目指して、様々なイベントが行われる。	17日
		日枝神社祭礼	五泉市 (旧村松町)	1200年前、雨乞いの神として祀られた村松の総鎮守。お宮内では稚児舞や太夫舞が奉納される。村松地区では、1番大きな祭。	17~19日
	下旬	会津まつり	会津若松市	提灯行列、会津藩公行列、日新館童子行列などが行われ、中でも会津藩公行列は、幕末を中心とした武者姿の総勢500名が練り歩く、最大のイベントである。	22~24日
神明祭りと植木市		新発田市	神明神社で行われる祭りにあわせて行われる植木市は、県内でも歴史の古いものである。	25~30日	
10月	上旬	月岡温泉菊人形展	新発田市 (旧豊浦町)	菊飾・絵師・人形師が一体となり、菊花芸術の粋を集めた名場面約13景の人形展。	10月1日~11月30日
		鶴ヶ城大茶会	会津若松市	千利休の子少庵と蒲生氏郷の遺徳をしのび開催される、会津最大級のお茶会。会津各流派によるお点前による抹茶がいただける。	上旬
	上旬	新鶴温泉ワインまつり	会津美里町	新鶴地区で収穫されたぶどうで作った会津ワインと、新鶴産の和牛バーベキューなどで盛り上がるイベント。	上旬
		会津塩川バルーンフェスティバル2006	喜多方市	県内で唯一の熱気球の大会で、会津の秋の風物詩となっている。約30機の色とりどりの熱気球が競技を行い、澄んだ秋空に壮大な景色を見せてくれる。	第2土日
	下旬	会津たかさと雷神新そばまつり	喜多方市	地元のそば通が月に何度も食べるというほどのおいしさ。	中旬
		やまと新そばまつり	喜多方市	食通を唸らせる山都の新そば。その他にも溪流魚の塩焼き・きのこの天ぷら・山菜料理など山都の秋の味覚を味わうことができる。	第4土日
		磐梯新そば祭り	磐梯町	紅葉に囲まれたアルツで、日本名水百選に選ばれた磐梯の名水を使い、地粉100%の純手打そばを食する。	28、29日
秋味まつり	昭和村	名水「冷湖の霊泉」を使用して打った新そばと、秋の味覚きのご料理など。	下旬		
11月	上旬	新津菊まつり	新潟市 (新津市)	各種菊の展示競技会、菊花展、一鉢千輪咲き展示。	1~15日
		強清水地そばまつり	会津若松市	高冷地の立地条件を生かし町の特産品でもある、地元でとれた新しいそば粉を使った「新そばまつり」で、県内外から多くのファンが訪れる。	4、5日
		ふるさとまつり・桐ゲタ健康マラソン大会	西会津町	名物の「桐ゲタ健康マラソン大会」の他、牛を丸ごと一頭食べ尽くす「牛牛フェア」など多彩なイベントが繰り広げられる。	上旬
	中旬	新そば祭り	檜枝岐名物裁ちそばが食べ放題となっている他にもはっとう、山椒魚などの山人料理もある。	11日	
	下旬	新そば祭り	雄国山麓の豊かな自然で育まれた「新そば」を「碾きたて・打ちたて・ゆでたて」で提供。地場産品の展示即売も開催される。	下旬	
12月	中旬	義士祭	新発田市	赤穂浪士47士の1人である堀部安兵衛がこの地で生まれた。吉良邸に討ち入り、本懐をとげた日に法要の祭りをする。	14日
	下旬	七日町カウントダウン&除夜の鐘	会津若松市	七日町駅ではカウントダウン、阿弥陀寺では除夜の鐘、同時に和洋の年越しを味わえるのは七日町だけ	31日

2.4 自然公園等の指定状況

阿賀野川流域における主な自然公園等の指定状況は、図 2.7 に示すとおりである。



磐梯朝日国立公園

山と湖と森が織りなす雄大かつ変化に富んだ景観地となっている。

【出典：環境省 HP】



越後三山只見国定公園

ブナを主体とした広葉樹林が広がり、クマ、カモシカなどの野生動物が多く生息している。

【出典：新潟県 HP】



日光国立公園

尾瀬ヶ原は我が国最大の湿原でありミズバショウやニッコウキスゲの群生地としても有名である。

【出典：環境省 HP】



種別	名称	面積 (ha)	指定年月日
国立公園	日光国立公園	140,698	S9.12.4 S25.9.22 追加指定
"	磐梯朝日国立公園	189,582	S25.9.5
国定公園	越後三山只見国定公園	86,129	S48.5.15
県立自然公園	只見柳津県立自然公園	15,668	S26
"	大川羽鳥県立自然公園	16,544	S28
"	五頭連峰県立自然公園	6,012	S34.3
"	阿賀野川ライン県立自然公園	2,919	S34.3
"	奥早出粟守門県立自然公園	39,756	S34.3

国立公園・国定公園に関しては、福島県側の面積を示している

図 2.7 阿賀野川水系内の自然環境保護区

3. 流域の社会状況

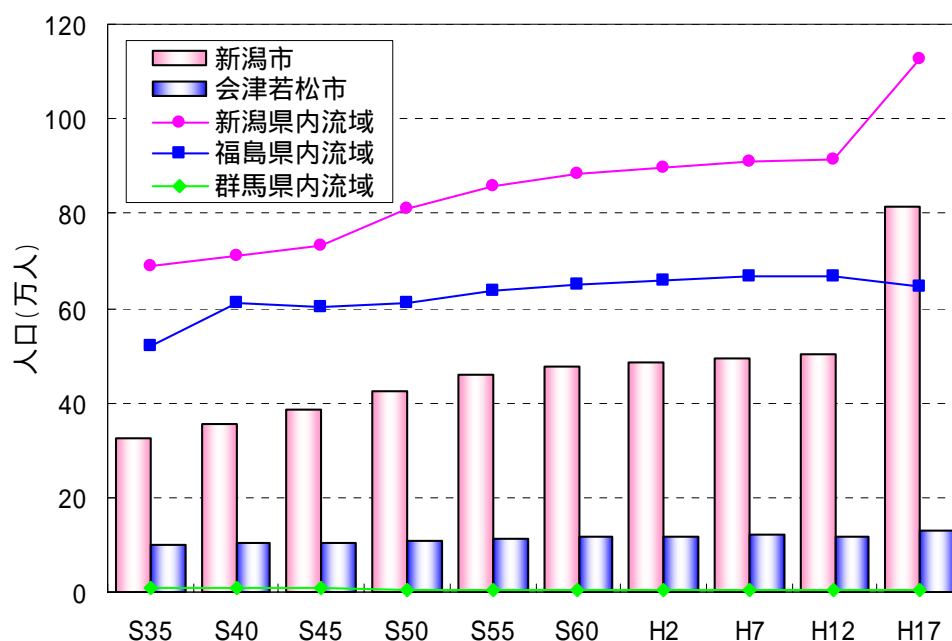
3.1 人口

阿賀野川の流域内人口は59万人であり、流域に関係する市町村数は、新潟県8市町、福島県19市町村、群馬県1村で、流域市町村人口は約180万人にのぼる。

また、流域内の主要都市である、新潟県新潟市は約80万人、福島県会津若松市が約13万人となっており、新潟市は平成19年4月1日に本州日本海側初の政令指定都市へ移行した。

数値は、平成17年国勢調査に基づき、平成19年3月現在の市町村構成を考慮

表 3.1 阿賀野川流域の人口の推移



H17 は、合併后市町村人口を考慮

3.2 土地利用

流域の土地利用は、山地等が約 87%、水田や畑地等の農地が約 10%、宅地等の市街地が約 3%となっている。

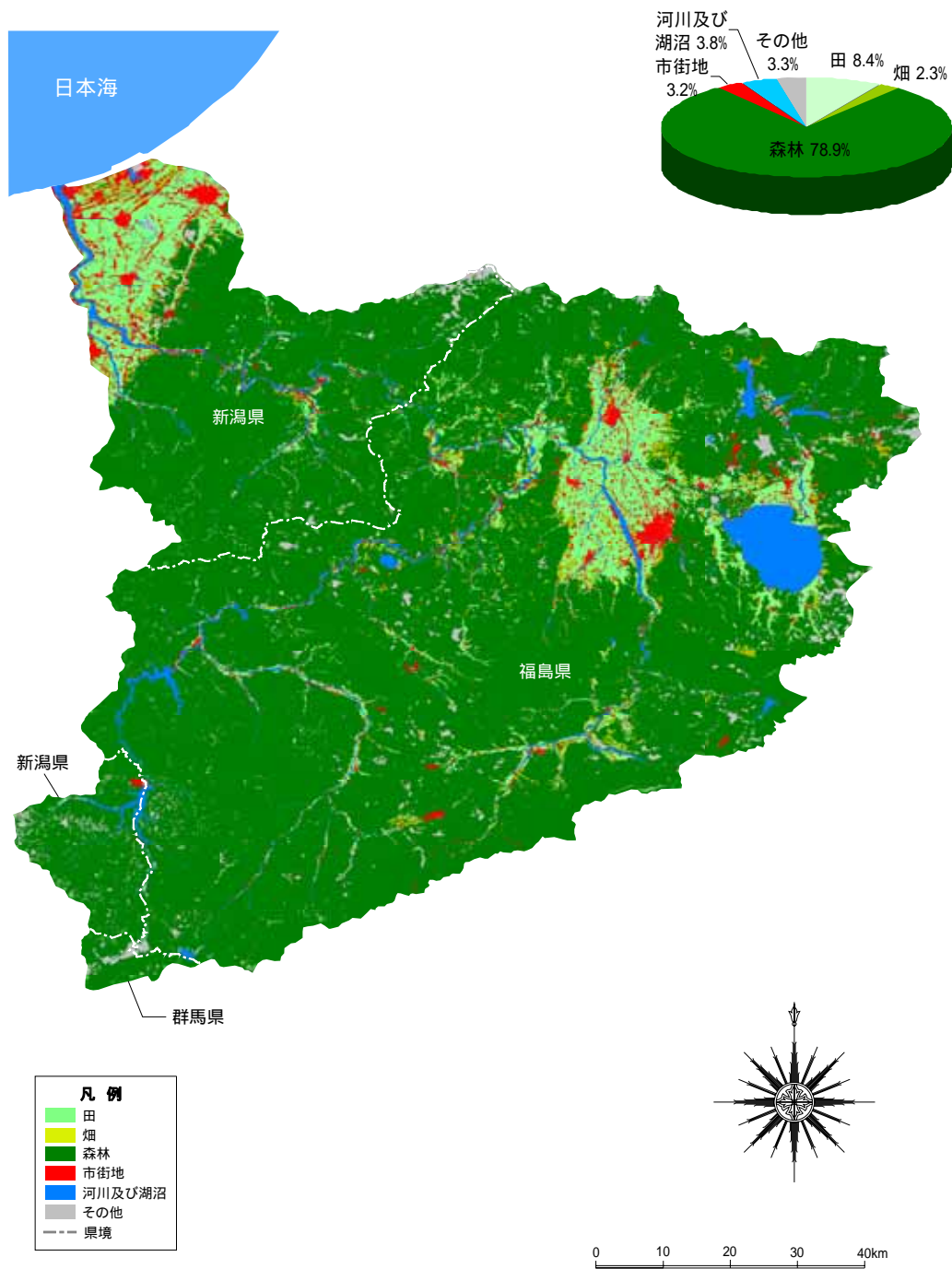


図 3.1 阿賀野川水系土地利用状況図

3.3 産業

流域の産業をみると、製造品出荷額では約 8,600 億円、農業出荷額では約 1,100 億円となっている。

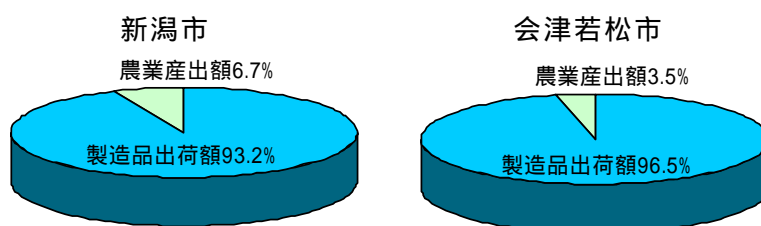
新潟県は、米の産出額、米菓の出荷額、チューリップの切り花など全国一位の項目があり、その他高度な生産活動が行われている。

一方、上流部は伝統的地場産業として漆器の生産が有名であり、また第 1 次産業の占める割合が全国平均の 2 倍となっているが、近年、会津地方では情報技術産業の発展が著しい。

また、阿賀野川全流域内の産業別就業者数の構成比は以下のとおりである。

表 3.2 阿賀野川流域市町村製造品出荷額等

	金額
製造品出荷額	862,462 百万円
農業生産額	110,584 百万円



【出典：農林水産省 HP 市町村の姿】

図 3. 2 農業と工業の出荷額

表 3.3 阿賀野川流域産業別人口

	産業別人口
第 1 次産業	39,871 人
第 2 次産業	110,401 人
第 3 次産業	158,579 人

【出典：平成 7 年度河川現況調査】

3.4 交通

江戸時代、阿賀野川は新潟港と会津を結ぶ、舟運の重要な経路となっていた。その始まりは、貞享3年に塩川村の栗村権七郎が会津藩から事業資金を借り入れ、船20隻を造り、塩川から下ったとされており、会津と新潟は古くから交流が盛んであったことが伺える。

明治24年には、新潟～会津若松間の県道が開通し、昭和37年には一級国道49号(40年に一般国道指定)に昇格した。また大正4年には磐越西線が郡山～会津若松～新潟間で全線開通している。

近年では磐越自動車道や日本海沿岸東北自動車道も整備され、今後の流域の発展が期待される。



図 3.3 阿賀野川流域における交通網

4. 水害と治水事業の概要

4.1 既往洪水の概要

阿賀野川流域において発生した大洪水を引き起こした降雨要因は、阿賀野川上流部を通過した台風に起因するものが多くみられるが、只見川及び阿賀野川下流部については、台風、梅雨に起因するものが相半ばしている。

古くからの洪水記録をみると、阿賀野川流域において発生した大洪水は、1536年から1912年(明治45年)に至る370年間におよそ60回を数え、6年に1回は大きい被害にあっていた。戦後も頻繁に大きな洪水が発生し、流域内は甚大な被害に見舞われた。

最近では平成14年に山科地点において既往最大流量を記録する洪水が発生し、内水被害や支川等の氾濫、老朽化した河川工作物の被害などが多く発生した。

表 4.1 既往洪水の概要

発生年月日	福島県側		新潟県側	
	山科流量	被災状況	馬下流量	被災状況
明治29年7月				嘉瀬島及び下里地先の堤防60余箇決壊
明治35年9月28日		家屋全壊758戸 家屋半壊462戸 家屋破損6,992戸		
大正2年8月27日 (台風)		死者・行方不明者13名 堤防決壊288ヶ所 家屋全壊31戸 家屋倒壊4戸 浸水家屋1,006戸		堤防決壊17ヶ所以上 家屋流失3戸 浸水家屋2,100戸
大正6年10月				分田及び飯田地先の堤防破堤
昭和21年4月				小浮地先で1,100m破堤
昭和23年9月				大安寺地先で破堤
昭和31年7月17日 (梅雨前線)		家屋損失91戸 浸水家屋9,381戸		家屋流失7戸
昭和33年9月18日 (台風)	3,090 (3,280)	死者6名 堤防決壊381ヶ所 家屋被害215戸 浸水家屋2,433戸	7,830 (8,930)	堤防決壊152ヶ所 家屋倒壊流失97戸
昭和33年9月26日 (台風)	2,980	家屋全壊流失76戸 家屋半壊150戸 床上浸水496戸 床下浸水1,373戸	7,340	
昭和34年9月27日 (台風)	2,240	死者2名 家屋被害339戸 浸水家屋331戸	4,670	
昭和36年8月5日 (低気圧)	2,080	家屋被害5戸 浸水家屋782戸	7,800	家屋浸水313戸
昭和42年8月28日 (低気圧)	1,210	家屋全壊流失15戸 床上浸水131戸 床下浸水242戸	5,670	全壊流失46戸 半壊床上浸水487戸 床下浸水1,069戸
昭和44年8月12日 (低気圧)	1,240	家屋全壊140戸 家屋半壊 床上浸水732戸 床下浸水1,502戸	6,710	全壊流失1戸 半壊床上浸水179戸 床下浸水75戸
昭和53年6月26日 (梅雨前線)	1,690	家屋全壊半壊1戸 床上浸水56戸 床下浸水428戸	8,760	床上浸水2,115戸 床下浸水5,144戸
昭和56年6月22日 (梅雨前線)	1,250	床上浸水1戸 床下浸水27戸	6,190	床上浸水190戸 床下浸水1,031戸
昭和57年9月12日 (台風)	3,680	家屋全壊流失1戸 床上浸水22戸 床下浸水248戸	8,050	床上浸水9戸 床下浸水27戸
平成14年7月11日 (台風)	4,110	床上浸水22戸 床下浸水83戸	8,410	床上浸水3戸 床下浸水5戸
平成16年7月13日 (梅雨前線)	1,940	床上浸水5戸 床下浸水81戸	8,860	

流量値はダム戻し流量

() 書きは実測流量

(1)大正 2 年 8 月 27 日洪水

磐城沖を北進して仙台湾に上陸し、北上川を北上した台風によるものであり、8月25日より降り始め3日間の会津地方の総雨量は、猪苗代湖南の福良が最大で314.4mm、田島226.9mm、若松171mm、坂下98.5mm、喜多方87.0mmであった。この降雨により上流のみならず、下流においても甚大な被害が発生し、死者・行方不明者13名、浸水家屋3,000戸以上、40戸程度が全壊・倒壊・流出した。

この水害を契機に阿賀野川水系では抜本的な河川改修事業が行われることとなった。



T2.8 洪水：木津切れにより冠水した横越町

【出典：亀田郷土地改良区 HP】

(2)昭和 33 年 9 月 18 日洪水

台風は、伊豆半島に上陸し相模湾、房総半島を通過し銚子の北から鹿島灘に抜けた後、三陸沖から根室付近を通りオホーツク海に至った。総雨量は、田島163.6mm、湯本175.5mm、湖南140.0mm、会津若松92.5mm、檜枝岐158.0mm、奥只見136.9mmに達し、基準地点馬下において最大流量7,830m³/sが記録された。流域内の被害は、死者6名、家屋の全半壊流失312戸、家屋の浸水2,433戸、田畑の流失埋没2,038ha、田畑の冠水3,170haに及んだ。



S33.9 洪水：阿賀野川下流部松浜橋流出

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

(3)昭和 33 年 9 月 26 日洪水

台風は、相模湾から神奈川県に上陸し、東京から福島県東部を経て石巻付近から三陸沖に至った。

総雨量は、田島159.6mm、湖南135.0mm、会津若松120.8mm、檜枝岐196.5mm、伊南川128.5mm、宮下135.0mmに達し、基準地点馬下において最大流量7,340m³/sが記録された。流域内の被害は、家屋の全半壊流失226戸、家屋の浸水1,869戸に及んだ。



S33.9 洪水：会津若松市上三寄

【出典：阿賀川河川事務所資料】

(4)昭和 34 年 9 月 27 日洪水

台風 15 号（伊勢湾台風）は、潮岬付近に上陸し、近畿中部を北北東へ進み、岐阜富山両県を通り秋田沖へと去った。

総雨量は、田島 147.4mm、湖南 156.5mm、檜枝岐 129.0mm に達し、基準地点馬下において最大流量 4,670 m³/s が記録された。流域内の被害は、死者 2 名、家屋の全半壊流失 339 戸、家屋の浸水 331 戸、田畑の流失埋没 160ha、田畑の冠水 610ha に及んだ。

(5)昭和 36 年 8 月 5 日洪水

日本海中部付近の低気圧から伸びる温暖前線が、佐渡・中越及び福島県会津若松地方に達し、活発な活動をし集中的な豪雨を降らせた。

総雨量は、湯本 167.0mm、湖南 122.0mm、会津若松 138.1mm、奥只見 192.8mm、尾瀬 227.2mm、伊南川 244.0mm、只見 269.0mm、宮下 231.0mm に達し、基準地点馬下において最大流量 7,800 m³/s が記録された。流域内の被害は、福島県側において家屋の被害 5 戸、家屋の浸水 782 戸、新潟県側において家屋の浸水 313 戸であった。

(6)昭和 42 年 8 月 28 日洪水

日本海中部の低気圧から伸びる前線が北陸を通過して、関東北部に伸び活発な活動をし、集中的な豪雨を降らせた。

総雨量は、会津若松 117.8mm、奥只見 200.0mm、伊南川 178.0mm、只見 144.0mm、宮下 148.0mm、津川 308.0mm に達し、基準地点馬下において最大流量 5,670m³/s が記録された。流域内の被害は、家屋の全半壊床上浸水 679 戸、床下浸水 1,311 戸、農地宅地の浸水 2,392ha に及んだ。

(7)昭和 44 年 8 月 12 日洪水

活発化した前線が北陸地方、東北地方南部、関東地方南部に長期間停滞し南北に振動を繰り返したため局地的、かつ集中的に強い降雨をもたらした。

総雨量は、滝ノ原 113.1mm、奥只見 159.5mm、尾瀬 142.5mm、伊南川 281.0mm、只見 139.5mm、宮下 128.5mm に達し、基準地点馬下において最大流量 6,710m³/s が記録された。流域内の被害は、家屋の全壊流失 141 戸、家屋の半壊床上浸水 911 戸、床下浸水 1,577 戸、農地宅地の浸水 1,561ha に及んだ。



S44.8 洪水：屋根まで水に浸かる柳津町

【出典：阿賀川河川事務所資料】

(8)昭和 53 年 6 月 26 日洪水

活発な梅雨前線が、新潟県を中心に長期間にわたって停滞し、低気圧の影響も受け大雨を降らせた。

総雨量は、猪苗代 280.0mm、会津若松 243.0mm、喜多方 339.0mm、檜枝岐 263.0mm、奥只見 571.0mm、尾瀬 336.0mm、只見 363.0mm、八田蟹 474.0mm、津川 530.0mm に達し、基準地点馬下において最大流量 8,760m³/s の流量が記録された。流域内の被害は、家屋の全半壊 1 戸、床上浸水 2,171 戸、床下浸水 5,572 戸、農地宅地の浸水 7,748ha に及んだ。



S53.6 洪水：馬下観測所被害

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

(9)昭和 56 年 6 月 22 日洪水

沿海州ウラジオストック沖の低気圧から伸びる温暖前線が新潟県を中心に停滞し集中的な大雨をもたらした。

総雨量は、猪苗代 101.0mm、喜多方 121.0mm、奥只見 121.0mm、只見 126.0mm、八田蟹 250.0mm、西会津 138.0mm、津川 219.0mm に達し、基準地点馬下において最大流量 6,190m³/s の流量が記録された。流域内の被害は、家屋の床上浸水 191 戸、床下浸水 1,058 戸、農地宅地の浸水 1,249ha に及んだ。

(10)昭和 57 年 9 月 12 日洪水

台風は、御前崎付近に上陸し、関東東北地方を縦断し、津軽海峡に抜け温帯低気圧となった。

総雨量は、滝ノ原 202.9mm、湯本 238.0mm、湖南 170.0mm、檜枝岐 225.0mm、奥只見 154.0mm、南郷 173.0mm、宮下 144.0mm、西会津 133.0mm に達し、基準地点馬下において最大流量 8,050m³/s が記録された。流域内の被害は、家屋の全半壊流失 1 戸、家屋の床上浸水 31 戸、床下浸水 275 戸、農地宅地の浸水 490ha に及んだ。



S57.9 洪水：工事中の大川ダムを洪水が襲う

【出典：阿賀川河川事務所資料】

(11)平成 14 年 7 月 11 日洪水

7 月 10 日から 11 日にかけて福島県内を襲った台風 6 号及び台風に影響された梅雨前線により、山科上流域に 190mm、大川ダム上流域では 220mm の雨量を観測した。この雨の影響で 11 日 1 時に山科水位観測所で警戒水位を超え、8 時から 10 時にかけて宮古水位観測所並びに山科水位観測所において危険水位にせまる出水となった。山科水位観測所での最高水位は 7.56m(7 月 11 日 9 時 40 分)、最大流量は $4,110\text{m}^3/\text{s}$ と既往最大流量を記録した。また下流の馬下地点においても最大流量 $8,410\text{m}^3/\text{s}$ を記録した。



H14.7 洪水：阿賀浦橋

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

(12)平成 16 年 7 月 13 日洪水

7 月 12 日夜から 13 日にかけて、日本海から東北南部にのびる梅雨前線の活動が活発となった。13 日朝から昼頃にかけて、新潟県中越地方や福島県会津地方で非常に激しい雨が降り、降り始めからの総雨量は福島県只見町で 370mm を観測するなど、記録的な大雨となった。

阿賀野川下流では、基準地点馬下において最大流量 $8,860\text{m}^3/\text{s}$ を記録した。



H16.7 洪水：冠水した河川敷公園

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

4.2 治水事業の沿革

阿賀野川水系の治水事業は、上流部については、会津盆地の主要地区を洪水から防御することを目的として、大正 8 年から、山科における計画高水流量を $4,260\text{m}^3/\text{s}$ とする改修計画に基づき、捷水路掘削、築堤、護岸、水制等を施工し、湯川、宮川については放水路を開削した。

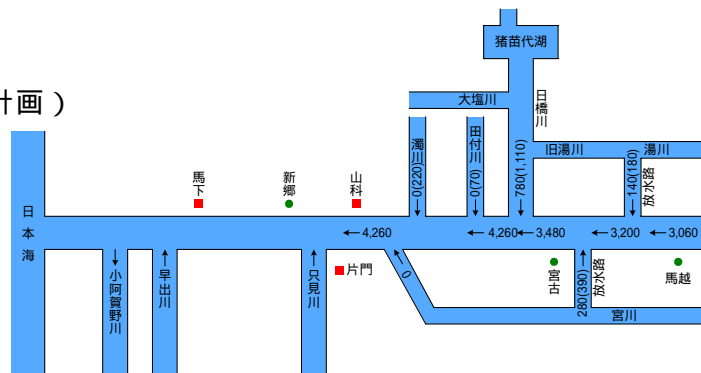
その後昭和 29 年に山科における計画高水流量を $4,300\text{m}^3/\text{s}$ に改定するとともに、日橋川の改修に着手した。さらに、昭和 41 年に、山科における基本高水のピーク流量を $5,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち上流ダムにより $700\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、計画高水流量を $4,300\text{m}^3/\text{s}$ とする工事実施基本計画を策定し、堤防の新設及び拡築、護岸の設置等を実施してきた。現在は、昭和 60 年 3 月に決定された工事実施基本計画により、上流ダム群（大川ダム等）により $1,200\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、山科地点において基本高水流量 $6,000\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量 $4,800\text{m}^3/\text{s}$ となっている。

下流部については、新潟市周辺等の主要地区を洪水から防御することを目的として、大正 4 年から馬下における計画高水流量を $6,950\text{m}^3/\text{s}$ とする改修計画に基づき、馬下から河口までの区間について、河道の整正と堤防を主体とする高水工事を施行したことに始まる。この第一期改修工事は昭和 8 年に竣工した。しかし、その後戦争等のため維持管理はままならず、河状は荒涼の一途をたどり、流路は蛇行し、特に河床の低下が著しく、加えて例年の融雪出水及び年間再度にわたる台風の襲来により、ついに昭和 21 年(1946)、右岸の阿賀野市小浮地先の堤防が $1,100\text{m}$ にわたり破堤した。これを契機として昭和 22 年から第二期改修工事として再び改修工事に着手した。その後、昭和 31 年及び同 33 年に計画高水流量を上回る大洪水があり、同 38 年に計画高水流量を $9,000\text{m}^3/\text{s}$ として改修工事を行ったが、新河川法の施行に伴い、昭和 41 年に、馬下における基本高水のピーク流量を $13,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち上流ダム群により $2,000\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、計画高水流量を $11,000\text{m}^3/\text{s}$ とする工事実施基本計画を策定し、堤防の新設及び拡築、護岸の設置等を実施してきた。しかし、近年大洪水が相次いで生じたこと、また氾濫区域内の人口、資産等の増大から、治水安全度の向上を図る必要が生じ基本高水流量 $15,500\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量 $13,000\text{m}^3/\text{s}$ とする計画を昭和 60 年 3 月に決定し現在に至っている。

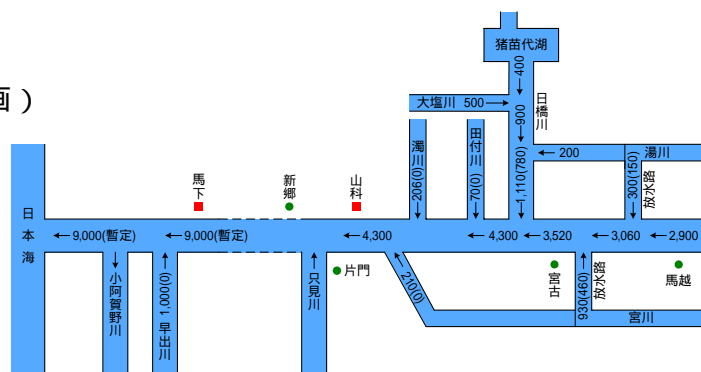
表 4.2 阿賀野川における主要事業経緯

年	阿賀野川	阿賀川
享保 15 年	新発田藩が松ヶ崎開削工事に着手	
明治 17 年	直轄で阿賀野川改修工事 横越～小浮低水工事（37 年完成）	
大正 2 年	加治川放水路完成	
大正 4 年	直轄河川に編入 第一期改修工事着手（昭和 8 年完成） 馬下：計画高水流量 6,950m ³ /s	
大正 8 年		福島県による阿賀川改修事業 山科：計画高水流量 4,260m ³ /s
大正 10 年		国による直轄工事着手 泡の巻、土掘、袋原捷水路工事 （昭和 13 年完成）
昭和 4 年	沢海床固工事着手	
昭和 8 年		宮川放水路開削工事 （昭和 31 年完成）
昭和 9 年	新井郷川放水路完成	湯川放水路開削工事 （昭和 33 年完成）
昭和 22 年	第二期改修工事に着手	
昭和 29 年	新井郷川排水機場の運転開始 渡場床固工事着手	直轄河川総体計画策定 山科流量改定 山科：計画高水流量 4,300m ³ /s
昭和 32 年		日橋川捷水路工事 （昭和 42 年完成）
昭和 38 年	総体計画策定 馬下：計画高水流量 9,000m ³ /s（暫定）	
昭和 41 年	工事実施基本計画策定 馬下：計画高水流量 11,000m ³ /s （基本高水流量 13,000m ³ /s）	山科：計画高水流量 4,300m ³ /s （基本高水流量 5,000m ³ /s）
昭和 42 年	新井郷川導水路及び胡桃山水門を設置	日橋川築堤工事 （昭和 56 年完成）
昭和 47 年	早出川ダム工事（昭和 54 年完成）	
昭和 48 年	満願寺閘門改築工事完成	大川ダム工事 （昭和 62 年完成）
昭和 53 年	胡桃山排水機場建設工事	
昭和 57 年	胡桃山排水機場暫定完成 （平成 8 年完成）	
昭和 58 年		下流狭窄部（泡の巻地区）改修工事 （平成 10 年完成）
昭和 60 年	工事実施基本計画改定 馬下：計画高水流量 13,000m ³ /s （基本高水流量 15,500m ³ /s）	山科：計画高水流量 4,800m ³ /s （基本高水流量 6,000m ³ /s）
昭和 62 年		旧湯川築堤工事
昭和 63 年	早出川捷水路工事（平成 11 年度完成）	
平成 7 年	水衝部対策事業（横越地区）	
平成 11 年		下流狭窄部（津尻地区）改修工事 （事業継続中）
平成 12 年		身神川排水機場竣工
平成 15 年	水衝部対策事業（灰塚地区） （事業継続中）	

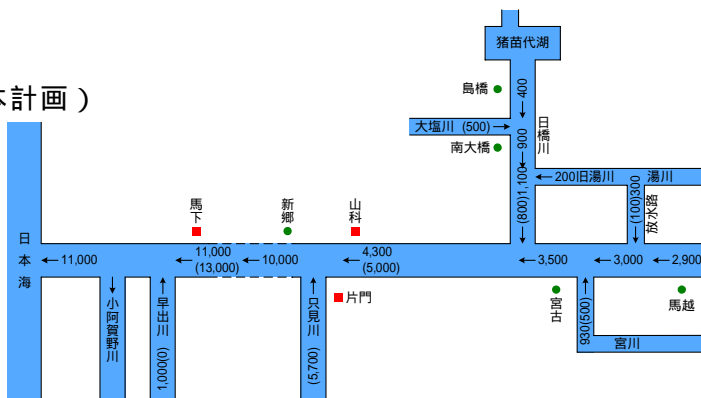
大正 8 年
(福島県改修計画)



昭和 38 年
(直轄総体計画)



昭和 41 年
(工事実施基本計画)



昭和 60 年
(工事実施基本計画改定)

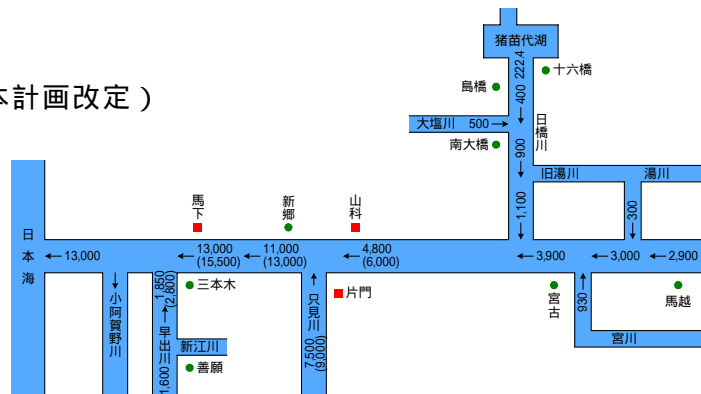


图 4.1 流量配分图

(1)下流部（阿賀野川）

1)藩政時代

今から約 280 年前までは阿賀野川は、新潟市の津島屋より西に折れて信濃川と合流し、日本海に注いでいた。このため、新潟港の水量は安定し年間入津数が 3,000 を越えるほど繁栄していた。

享保 15 年(1730)、洪水防御と水田排水を目的に阿賀野川河口部に松ヶ崎放水路が開削されたが、翌年の雪解け水で堰が破壊され、放水路が阿賀野川の本流になってしまった。

このため新潟港の水深が低下し、港湾としての機能が衰える一方で、阿賀野川は水はけが良くなって新田開発が進むという結果となった。現在は通船川（旧河道）と小阿賀野川が信濃川・阿賀野川の両川をつないでいる。



【出典：阿賀野川河川事務所資料】

2)第 1 期改修工事

明治時代の部分的な補強工事を経て、大正 2 年(1913)8 月の大洪水・木津切れを機に大正 4 年に直轄事業として第 1 期改修工事に着手した。馬下から河口に至る約 35km について、河道の整正や築堤、護岸の整備など本格的な改修工事を行い、ほぼ現在の河道が形づくられた。



第1期改修工事の概要図

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

3)第 2 期改修工事

第 1 期改修工事終了後、低水路の蛇行や河床低下が舟運、かんがいに支障を及ぼすなど荒廃が進み、昭和 21 年洪水では右岸阿賀野市小浮地先において堤防が 1,100m にわたり破堤したため、昭和 22 年度直轄事業として第 2 期改修工事に着手した。



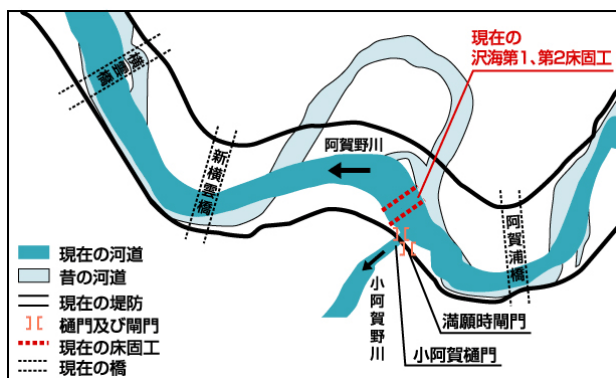
第 2 期改修工事の様子

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

4)沢海床固

阿賀野川が満願寺で小阿賀野川と分かれた本川下流に沢海床固がある。これは川の流れる下に障害物を沈め、勾配や流速を調整し川底が深く削られるのを防ぐためのものである。第 1 期阿賀野川改修事業によって、沢海付近には洪水を安全に流すために川が大きく蛇行していた部分を直線的に結ぶ捷水路が施工された。

河道が短くなったことで、川の勾配は急となり、流れは速くなるため河床が削られやすくなる。そのため、昭和 4 年から 6 年にかけて第 1 床固が施工された。その後、歳月が経つにつれて河床の低下が目立ち始めたため、新たな床固の必要性が生まれ、昭和 25 年度から 27 年度にかけて第 2 床固がつけられた。



第 1 期改修工事による河道改修と沢海床固工群



沢海床固工と小阿賀野川

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

5)早出川捷水路

早出川は、「早出」の名が示すように、大雨になるとすぐに出水するという特徴を持っている。特に、五泉市街地付近で大きく蛇行し、川幅が狭くなっていたために一帯は何度も大きな被害に見舞われた。そこで、幅 200m、延長 2,000m の捷水路開削を実施し、川幅は旧川の 2 倍となり、また内水氾濫を防御する排水機場の建設が行われ、平成 12 年 3 月に完成した。



昭和 44 年(1969)8 月出水の早出川被災状況



早出川捷水路

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

6)水衝部対策

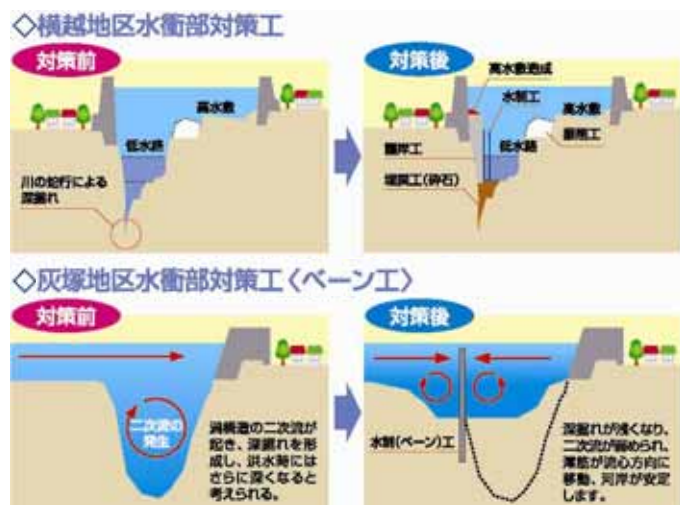
阿賀野川は低平な地形であるため、破堤すれば洪水流が想定氾濫域の大部分に広がり、新潟市をはじめ甚大な被害が想定される。

また阿賀野川は蛇行が著しく、特に湾曲部の水の流力が強くあたる水衝部では、深掘れが生じやすく破堤の危険性が高くなる。

このため水衝部等で発生している深掘れを防ぐために護岸工や水制工などの補強工事を行っている。



水衝部対策箇所



【出典：阿賀野川河川事務所資料】

7)内水対策・胡桃山排水機場

洪水被害を防ぐには内水対策も重要である。福島潟下流の新井郷川流域の浸水被害を軽減するため、平成 8 年に胡桃山排水機場(50m³/s)が完成した。

平成 10 年(1998)8 月 4 日の出水では、排水機場がない場合と比較すると、床上浸水面積が約 60%、農地被害面積が約 20%減少するなど大きな効果を上げている。



胡桃山排水機場

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

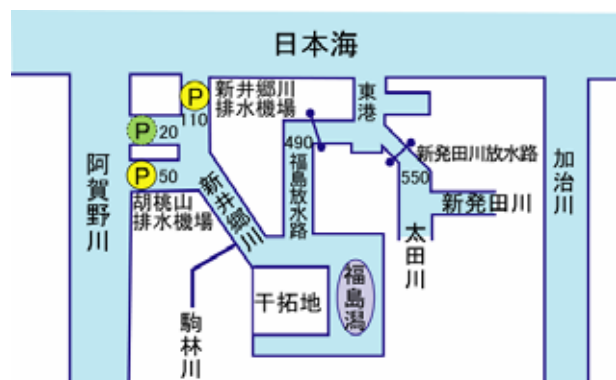
8)内水対策・福島潟放水路（新潟県施工）

一級河川新井郷川流域は、昭和 41 年及び昭和 42 年の連年にわたって発生した羽越水害を契機として、昭和 43 年に「新井郷川恒久的治水対策」が策定された。これにより新発田川放水路開削、福島潟放水路開削、新井郷川現川改修などが進められてきた。

その後、平成 10 年 8 月 4 日の梅雨前線豪雨により、豊栄市街地や流域は膨大な被害を受け、災害復旧助成事業、激特事業および復緊事業が採択され、支川の改修を進めると共に平成 15 年 3 月、福島潟放水路が通水した。



福島潟



新井郷川流量配分図

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

(2)上流部（阿賀川）

1)山崎新湖の出現

会津盆地で四方から集まる支川を流入させた阿賀川は慶徳村（現喜多方市）山崎でビンの口のような狭窄部に入り、泡の巻・土掘・袋原の各地点で大きく蛇行していた。そのため洪水が円滑に流下せず、氾濫が起こり砂礫や土砂を堆積させていた。

慶長 16 年(1611)には、若松城も傾いたという大地震により山崩れが起き、阿賀川が堰き止められて山崎新湖という湖が出現した。水抜きのための掘り割り工事が行われたが、大洪水のたびに新湖が姿を現し、人々を脅かした。その後、正保 2 年(1645)に会津藩で新湖の普請（工事）を行った様子が記録されており、その頃まで湖が残っていたことがわかる。



【出典：阿賀川河川事務所資料】

2)狭窄部の捷水路工事と改修工事

阿賀川下流の蛇行区間では、洪水が円滑に流下せず、たびたび上流域に浸水被害が発生した。このため、大正 10 年(1921)から昭和 13 年(1935)にかけて、山間狭窄部の蛇行区間で、3 本の捷水路の開削が行われた。泡の巻・土掘・袋原の各捷水路により、約 10km あった河道を 0.8km に短縮した。

昭和 57 年(1982)9 月、会津地方を襲った戦後最大の洪水を機に、阿賀川狭窄部改修事業を再開し、「泡の巻」を平成 10 年(1998)11 月に完成させた。

現在では、さらに「津尻」に着手し、段階的に掘削を進めている。



阿賀川下流狭窄部捷水路工事

【出典：阿賀川河川事務所資料】

新水路の開削

阿賀川の支川もしばしば氾濫を起こし、被害をもたらしてきたことから宮川と湯川について新水路を開削して阿賀川に合流させる治水対策がとられた。

湯川放水路

湯川は会津若松市から日橋川との合流点までの間が洪水被害の常襲地帯であったため、これを防ぐ目的で新水路が計画された。延長約2.5kmの水路で昭和33年(1958)に通水した。

現在では、新湯川の水質改善や生物生息環境の回復のために、関連行政機関と地域住民の連携協力のもと、水環境整備事業が行われている。



湯川放水路合流点付近

【出典：阿賀川河川事務所資料】

宮川放水路

宮川は中・下流部の河積不足から洪水常襲地帯であったため、これを防ぐ目的で新水路が計画された。延長約2.8kmの水路で昭和31年(1956)に通水し、その後、昭和35年(1960)に福島県に引き継ぎを実施した。

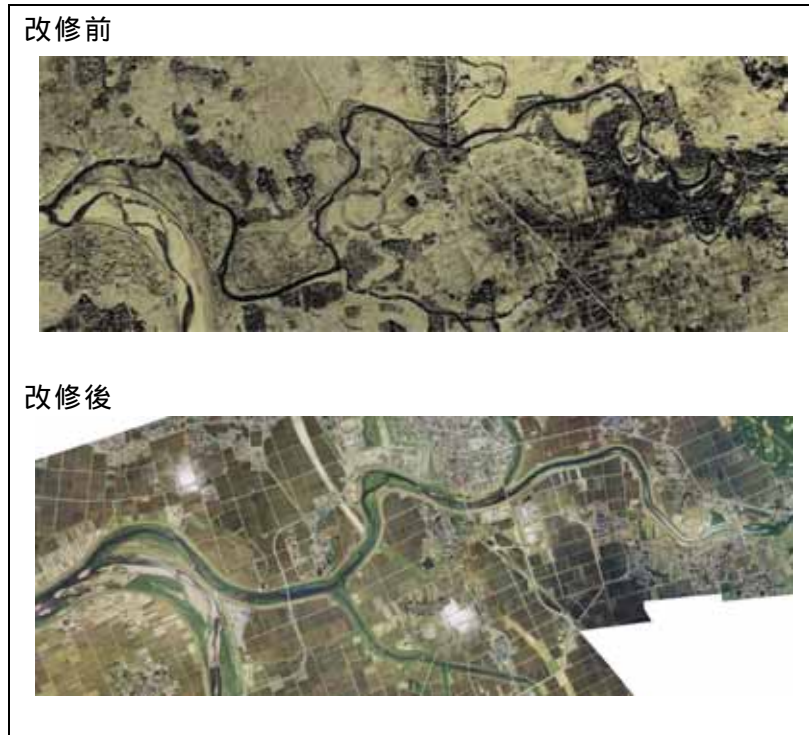


宮川放水路合流点付近

【出典：阿賀川河川事務所資料】

3)日橋川の改修

昭和 16 年(1941)の洪水を機に、阿賀川改修の一環として昭和 18 年(1943)に施工許可を受けたものの、戦争のために実施されなかった。しかし、昭和 31 年(1956)の洪水を機に日橋川の改修が急を要する事業として採択され、蛇行流路のショートカットや築堤、河積の確保等が着工され、昭和 56 年(1981)に全区間の堤防が概成した。



日橋川改修による流路の変更

【出典：阿賀川河川事務所資料】

身神川排水機場みかみがわの建設

塩川町の日橋川支川・身神川流域は低平地で、日橋川の水位が上昇すると自然排水ができない内水河川であり、洪水のたびに内水被害が発生してきた。このため身神川排水機場(2m³/s)の建設工事を進め、平成 12 年(2000)に完成した。

本来の役割である排水機場のほかに町の物産を展示販売するコーナーなどが併設され「川の駅」として、一般にも開放された多目的施設となっている。



身神川排水機場

【出典：阿賀川河川事務所資料】

4)多自然川づくり

阿賀川では、環境調査の充実を図るとともに、工事目的物だけでなく、仮設等においても、多様な環境に対して配慮し、モニタリング調査を行いながら多自然型川づくりを進めている。

阿賀川は多くの生物が生息する自然環境豊かな河川であり、その生息基盤として、出水等による適度な攪乱により河川環境が維持されている。この特性を十分に把握し、川底に生息する生物や生息環境を踏まえた、治水と環境のバランスのとれた川づくりを進めている。



多自然川づくりの一例

(高久護岸災害復旧工事のカゴマットと捨て石)

【出典：阿賀川河川事務所資料】

5)猪苗代湖の治水管理

平成 10 年 8 月末の豪雨により、湖畔及び下流の日橋川沿いの水田等が冠水する被害が生じたことを契機に、福島県は十六橋水門を改築(平成 16 年度竣工)し、安全な水門操作を可能とすることなどにより、現在では猪苗代湖の治水管理を行っている。
(平成 17 年 4 月 操作規則策定)

6)大川ダム

大規模ダム事業としては、昭和 62 年度に阿賀川上流部に大川ダムが以下の用途を目的として建設された。

表 4.3 大川ダムの利用目的

用途	目的
洪水調節	ダム地点の計画高水流量 3,400m ³ /s のうち 800m ³ /s の洪水調節を行う。
流水の正常な機能の維持	阿賀野川上流部の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図る。(2.5m ³ /s)
かんがい	阿賀川沿岸の約 4,400ha の農地に対し、代かき期の最大で 19.7m ³ /s のかんがい補給を行う。
水道用水	会津若松市他 2 町に対して 27,500m ³ /日の水道用水を補給する。
工業用水	会津若松地区に対し、72,500m ³ /日の工業用水を供給する。(0.84m ³ /s)
揚水発電	大川ダムを下池、上流の支川・小野川に建設した大内ダムを上池として、その間の落差約 400m により最大 100 万 kW の発電を行う。(電源開発 (株)) (314m ³ /s)
ダム式発電	大川ダム下流右岸に設置したダム式発電所において最大 2 万 1 千 kW の発電を行う。(東北電力 (株)) (45m ³ /s)



大川ダム【出典：阿賀川河川事務所資料】



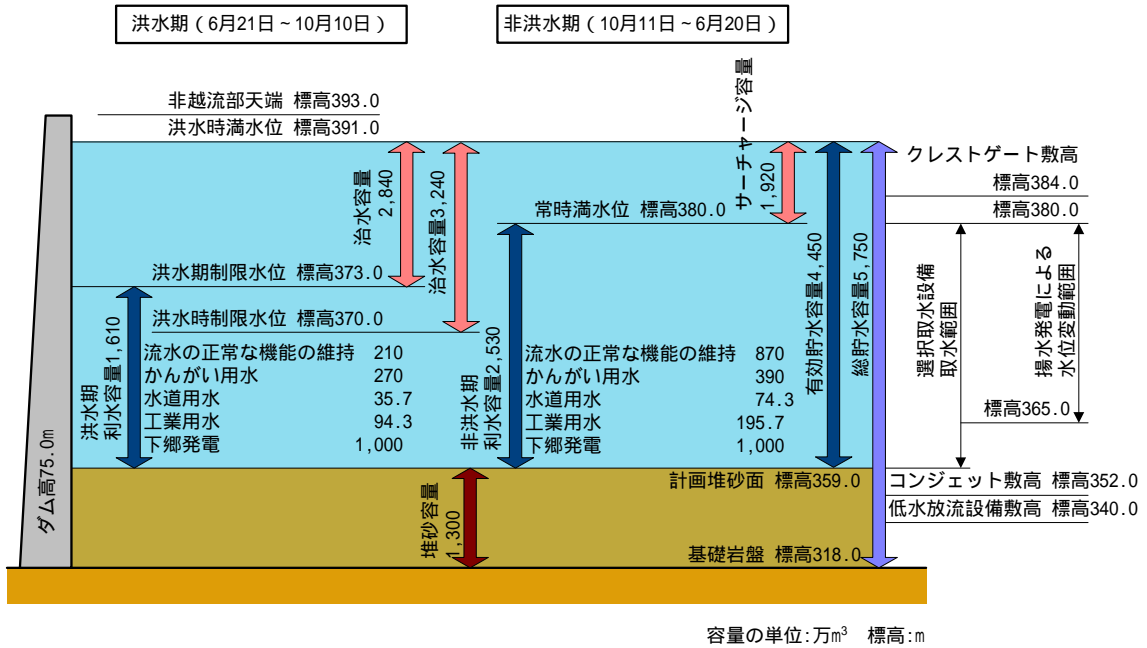


図 4.2 大川ダム洪水調節図

5. 水利用の現状

5.1 水利用の現状

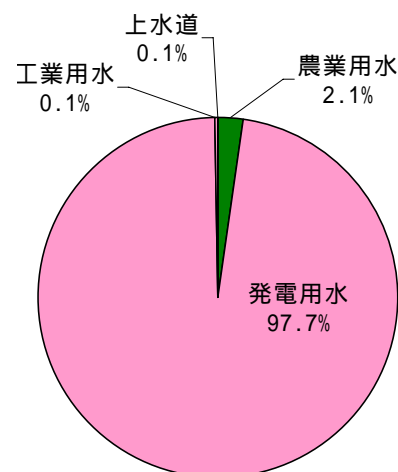
流域内の年平均降水量は、会津地方は約 1,100mm、越後平野では約 1,900mm であり、特に只見川流域は年平均降水量が約 2,300mm と、我が国有数の豪雪地帯であることなどから阿賀野川の年総流出量（馬下地点）は約 142 億 m³ と我が国屈指の量を誇っている。

阿賀野川の豊富な水量は古くから、かんがい用水・生活用水及びその水量と地形条件を活用した水力発電開発が盛んに行われてきた。阿賀野川の水利用の概況は、現在約 5 万 ha に及ぶかんがい用水、会津若松市、新潟市等への上水道用水、新潟東港臨海工業地帯等への工業用水、並びに豊富な水資源と有利な地形を利用した発電用水として広く利用されている。特に発電用水は、日本で 2 番目に完成した沼上発電所（猪苗代湖を利用）をはじめとして、田子倉ダム等 63 ヲ所の発電所において、総最大出力約 410 万 kW に及ぶ発電を行っている。

平成 18 年 4 月 30 日現在

使用目的	かんがい面積 (ha)	取水量 (m ³ /s)	件数
発電用水	-	8,041.970	63
上水道	-	6.872	16
工業用水	-	4.137	6
農業用水(許可)	53,090	176.038	31
雑用水		-	
合計	53,090	8229.017	116

農業用水水利使用は、取水量を期別で設定しており、地域によって最大取水を行う時期が異なるため、同時期での最大取水とはならない。



【出典：北陸地方整備局河川部水政課 河川管理統計資料,平成 18 年 4 月】

図 5.1 阿賀野川における使用目的別流量割合

(1)かんがい用水

上流部では猪苗代湖より現在の会津若松市方面へ引き水する戸ノ口用水や、猪苗代湖より郡山方面へ導水する安積疏水^{あさか}など会津盆地をはじめとする福島県内の田畑のかんがいのため古くから本水系の水利用が行われてきた。近年では、阿賀川上流右支川鶴沼川に建設された羽鳥ダム(白河市方面へ導水)を始め、いくつかの農業用ダムが挙げられる。

また、下流部の越後平野においては、江戸時代からの農地開発と相まって、現在の阿賀野市(旧安田町・旧水原町)方面の阿賀野川右岸地域への新江・南耕用水を始めとし、数々のかんがい用水の取水が行われてきており、中でも阿賀野川頭首工に代表される阿賀野川用水農業水利事業は昭和 59 年 3 月に完成している。



阿賀野川頭首工

(2)上水及び工業用水

従来は、伏流水(地下水)などからの取水が大半を占めていたが、近年、会津地方及び新潟市周辺の人口増加及び工業の発展に伴い、順次阿賀野川からの取水が主流となっており、特に、阿賀野川頭首工より取水されている上水・工業用水が大きなものである。

また、水需要の増加に伴い、水資源開発施設に参画する例が多くなりつつある。

(3)水力発電

包蔵水力 3,000 千 kW 以上と推定される阿賀野川水系は、水力資源の宝庫として、その開発が進められてきた地域である。平成 18 年現在、水系最大の出力を誇る下郷発電所(最大出力 1,000 千 kW)をはじめとして、63 か所の発電所が設置されており、さらに 3 か所の発電所が建設中である。その立地状況を見ると、大きく 3 つの地域に分けられる。第 1 は尾瀬沼を水源とする只見川流域(25 発電所 約 2,410 千 kW)、第 2 は阿賀川から阿賀野川の中流渓谷部(22 発電所 約 1,360 千 kW)、第 3 は猪苗代湖及び檜原湖、秋元湖を中心とする日橋川流域の火山性湖沼地帯(16 発電所 約 340 千 kW)である。この 3 地域は、第 1 地域が発電ダム地帯、第 2 地域が低落差発電水力地帯、第 3 地域が火山性発電水力地帯というように特徴づけることができる。これらの最大出力の合計は約 410 万 kW である。

阿賀野川水系の電源開発は、会津電力(明治 33 年設立)が会津若松付近に電灯・電力を供給する目的で、支川の湯川に出力 70kW の東山発電所(明治 34 年 11 月完成)を建設したのに始まる。明治 44 年には東京電燈が猪苗代水力電気会社を設立し、大正 3 年に猪苗代第 1

発電所を完成させた。このことによって、猪苗代湖と東京間 228km をつなぐ東京電燈猪苗代旧線(115kV 送電力 60 千 kW)の使用が開始され、大送電線網時代に入っていきこととなった。これ以後大正 15 年まで日橋川と戸ノ口堰の開発が進められ、そこで発生した電力(97 千 kW)のすべてが東京へ送られた。

このように阿賀野川水系の電源開発は、わが国の電源開発史において、画期的な事業の一つであった。さらに第 2 次世界大戦後、電力確保が経済復興に重要な役割を果たすようになると、田子倉発電所(昭和 34 年 5 月完成)、奥只見発電所(昭和 35 年 12 月完成)と大規模なダム式発電所が建設され、木曾川、信濃川に次ぐ包蔵水力をもつ阿賀野川流域の電源開発が本格的に進められていった。

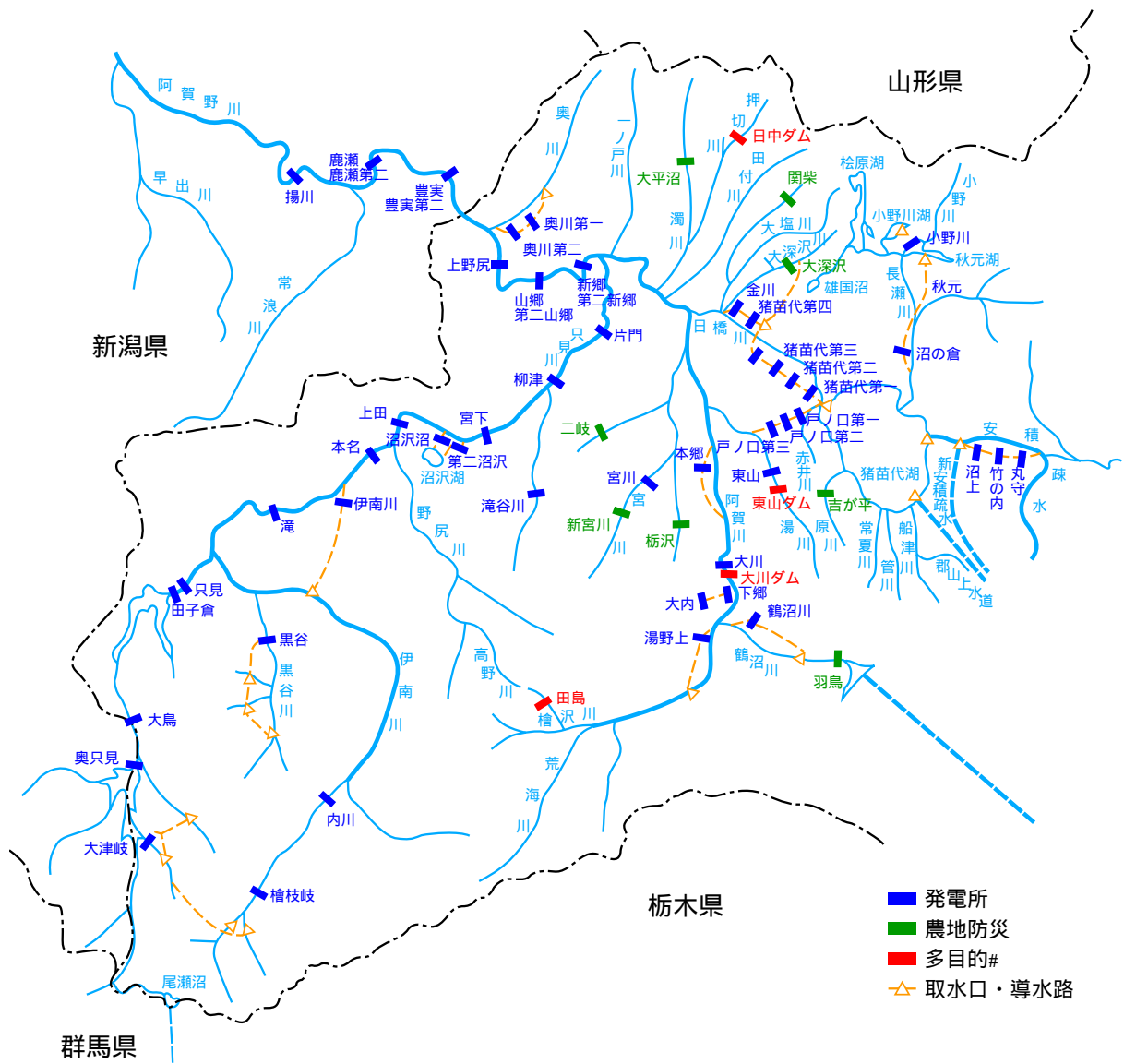


図 5.2 阿賀野川流域内の水力発電ダム位置図

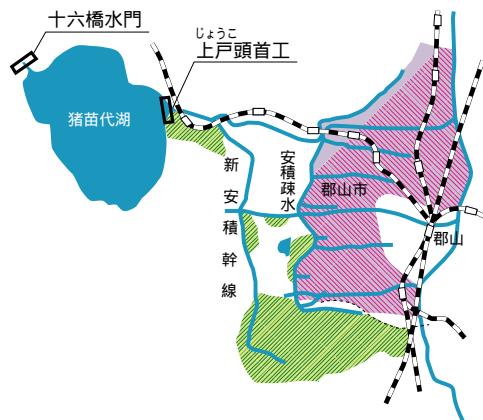
(4)猪苗代の開発

明治維新の後、新政府は殖産興業と失業士族救済を目的として、安積疏水を開削し、猪苗代湖の水を郡山盆地へと導水することによって4000町歩の開拓を行う計画を立てた。

明治12年(1879)に着工された疏水事業は、延長52kmの幹線と78kmの分水路からなり、明治15年(1881)に完成した。

安積疏水は、農業用水として開削されたが、その後、多目的の水利用が図られ、水道用水、工業用水のほか、水路の落差を利用した水力発電にも用いられるなど、今なお地域に多くの恩恵をもたらしている。

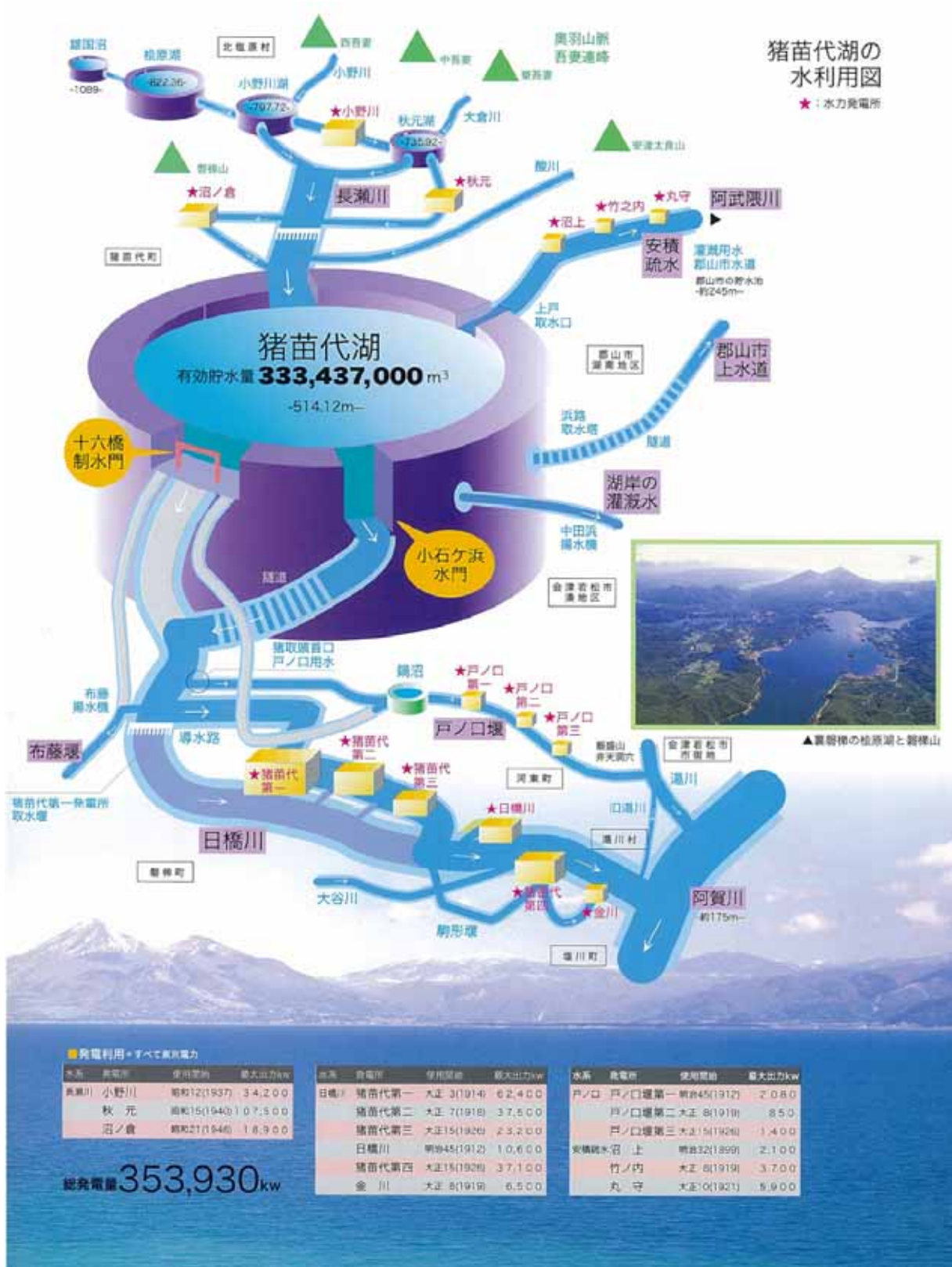
また、猪苗代湖から日橋川に流れ出る出口には十六橋水門が設置され、猪苗代湖の水位や日橋川への放流量を調節している。



安積疏水平面図



十六橋水門



【出典：猪苗代湖総合管理計画（福島県発行）】
猪苗代湖の水利利用図

表 5.1 阿賀野川水系発電ダム一覧表

No.	水系名	河川名	発電所名	最大取水量 (m ³ /s)	最大出力 (kW)	事業者名	所在地	摘要
1	阿賀野川	裏川	赤倉発電所	1.6700	920	東北電力(株)	新潟県	
2	阿賀野川	阿賀野川	豊実発電所、第二豊実発電所(豊実発電所)	270.00	56400	東北電力(株)	新潟県	豊実ダム
3	阿賀野川	阿賀野川	豊実発電所、第二豊実発電所(第二豊実発電所)	270.00	57100	東北電力(株)	新潟県	豊実ダム
4	阿賀野川	阿賀野川	鹿瀬発電所、第二鹿瀬発電所(鹿瀬発電所)	270.00	49500	東北電力(株)	新潟県	鹿瀬ダム
5	阿賀野川	阿賀野川	鹿瀬発電所、二鹿瀬発電所(第二鹿瀬発電所)	290.00	55000	東北電力(株)	新潟県	鹿瀬ダム
6	阿賀野川	阿賀野川	揚川発電所	460.00	53600	東北電力(株)	新潟県	揚川ダム
7	阿賀野川	早出川	田川内発電所	12.00	7100	新潟県	新潟県	早出川ダム
8	阿賀野川	早出川	早出発電所	3.90	900	東北電力(株)	新潟県	
9	阿賀野川	阿賀野川	杉川発電所	0.87	400	東北電力(株)	新潟県	
10	阿賀野川	実川	実川発電所	6.00	8200	東北電力(株)	新潟県	
11	阿賀野川	実川	新下平発電所	9.50	17700	東星興業(株)	新潟県	
12	阿賀野川	実川	新小荒発電所	17.00	11000	東星興業(株)	新潟県	新小荒ダム
13	阿賀野川	阿賀川	湯野上発電所	12.50	6,800	昭和電工(株)	福島県	
14	阿賀野川	鶴沼川	鶴沼川発電所	5.57	6,520	東北電力(株)	福島県	
15	阿賀野川	小野川	下郷発電所	314.00	1,000,000	電源開発(株)	福島県	
16	阿賀野川	阿賀川	新大川発電所	45.00	21,000	東北電力(株)	福島県	大川ダム
17	阿賀野川	阿賀川	小谷発電所	45.00	3,300	福島県	福島県	
18	阿賀野川	阿賀川	本郷発電所	10.16	2,100	東星興業(株)	福島県	
19	阿賀野川	湯川	東山ダム発電所	2.00	700	会津若松市	福島県	
20	阿賀野川	湯川	東山発電所	1.40	280	東北電力(株)	福島県	
21	阿賀野川	宮川	宮川発電所	1.67	820	東北電力(株)	福島県	
22	阿賀野川	宮川	新宮川ダム等管理用発電所	2.60	1,100	農林水産大臣	福島県	
23	阿賀野川	奥川	奥川第一発電所	3.62	1,000	東北電力(株)	福島県	
24	阿賀野川	奥川	奥川第二発電所	3.62	560	東北電力(株)	福島県	
25	阿賀野川	阿賀川	上野尻発電所	430.00	52,000	東北電力(株)	福島県	上野尻ダム
26	阿賀野川	阿賀川	第二上野尻発電所	100.00	13,500		福島県	
27	阿賀野川	阿賀川	新郷発電所	312.00	51,600	東北電力(株)	福島県	新郷ダム
28	阿賀野川	阿賀川	第二新郷発電所	200.00	38,800		福島県	
29	阿賀野川	阿賀川	山郷発電所	354.00	45,900	東北電力(株)	福島県	山郷ダム
30	阿賀野川	阿賀川	第二山郷発電所	170.00	22,900		福島県	
31	阿賀野川	滝谷川	滝谷川発電所	1.67	445	東北電力(株)	福島県	
32	阿賀野川	上の沢	檜枝岐発電所	0.20	60	東北電力(株)	福島県	
33	阿賀野川	伊南川	伊南川発電所	20.60	19,400	東北電力(株)	福島県	
34	阿賀野川	館岩川	内川発電所	6.96	500	東北電力(株)	福島県	
35	阿賀野川	只見川	宮下発電所	320.00	94,000	東北電力(株)	福島県	
36	阿賀野川	只見川	第二沼沢発電所	250.00	460,000	東北電力(株)	福島県	
37	阿賀野川	只見川	柳津発電所	345.00	75,000	東北電力(株)	福島県	柳津ダム
38	阿賀野川	只見川	片門発電所	345.00	57,000	東北電力(株)	福島県	
39	阿賀野川	只見川	本名発電所	260.00	78,000	東北電力(株)	福島県	
40	阿賀野川	只見川	上田発電所	284.00	63,900	東北電力(株)	福島県	
41	阿賀野川	只見川	田子倉発電所	420.00	380,000	電源開発(株)	福島県	
42	阿賀野川	只見川	奥只見発電所(1～3号水車)	249.00	360,000		福島県	奥只見ダム
				138.00	200,000	電源開発(株)	福島県	
				2.56	2,700		福島県	
43	阿賀野川	只見川	滝発電所	300.00	92,000	電源開発(株)	福島県	
44	阿賀野川	只見川	大鳥発電所(1号水車)	220.00	95,000	電源開発(株)	福島県	
				207.00	87,000		福島県	
45	阿賀野川	滝沢	大津岐発電所	22.00	38,000	電源開発(株)	福島県	
46	阿賀野川	只見川	只見発電所	375.00	65,000	電源開発(株)	福島県	只見ダム
47	阿賀野川	黒谷川	黒谷発電所	12.00	19,600	電源開発(株)	福島県	
48	阿賀野川	日橋川	猪苗代第一発電所	67.50	62,400	東京電力(株)	福島県	
49	阿賀野川	日橋川	猪苗代第二発電所	67.50	36,000	東京電力(株)	福島県	
50	阿賀野川	日橋川	猪苗代第三発電所	65.69	22,800	東京電力(株)	福島県	
51	阿賀野川	日橋川	日橋川発電所	65.69	10,000	東京電力(株)	福島県	
52	阿賀野川	日橋川	猪苗代第四発電所	67.33	33,000	東京電力(株)	福島県	
53	阿賀野川	鍋沼	戸の口堰第一発電所	2.73	2,080	東京電力(株)	福島県	
54	阿賀野川	八百沢	戸の口堰第二発電所	2.73	850	東京電力(株)	福島県	
55	阿賀野川	金山川	戸の口堰第三発電所	2.45	1,400	東京電力(株)	福島県	
56	阿賀野川	日橋川	金川発電所	64.74	6,500	東京電力(株)	福島県	
57	阿賀野川	小野川湖	小野川発電所	63.50	34,200	東京電力(株)	福島県	
58	阿賀野川	秋元湖	秋元発電所	76.85	107,500	東京電力(株)	福島県	
59	阿賀野川	長瀬川	沼ノ倉発電所	76.85	17,800	東京電力(株)	福島県	
60	阿賀野川	猪苗代湖	沼上発電所	8.04	2,100	東京電力(株)	福島県	
61	阿賀野川	猪苗代湖	安積疏水管理用発電所	3.20	2,739	安積疏水土地改良区	福島県	
62	阿賀野川	濁川	大平沼発電所	1.60	570	農林水産大臣	福島県	
63	阿賀野川	押切川	日中発電所	2.50	1,700	福島県	福島県	日中ダム

県名	発電所数	出力
福島県	51	3,798,124 kW
新潟県	12	317,820 kW
合計	63	4,115,944 kW

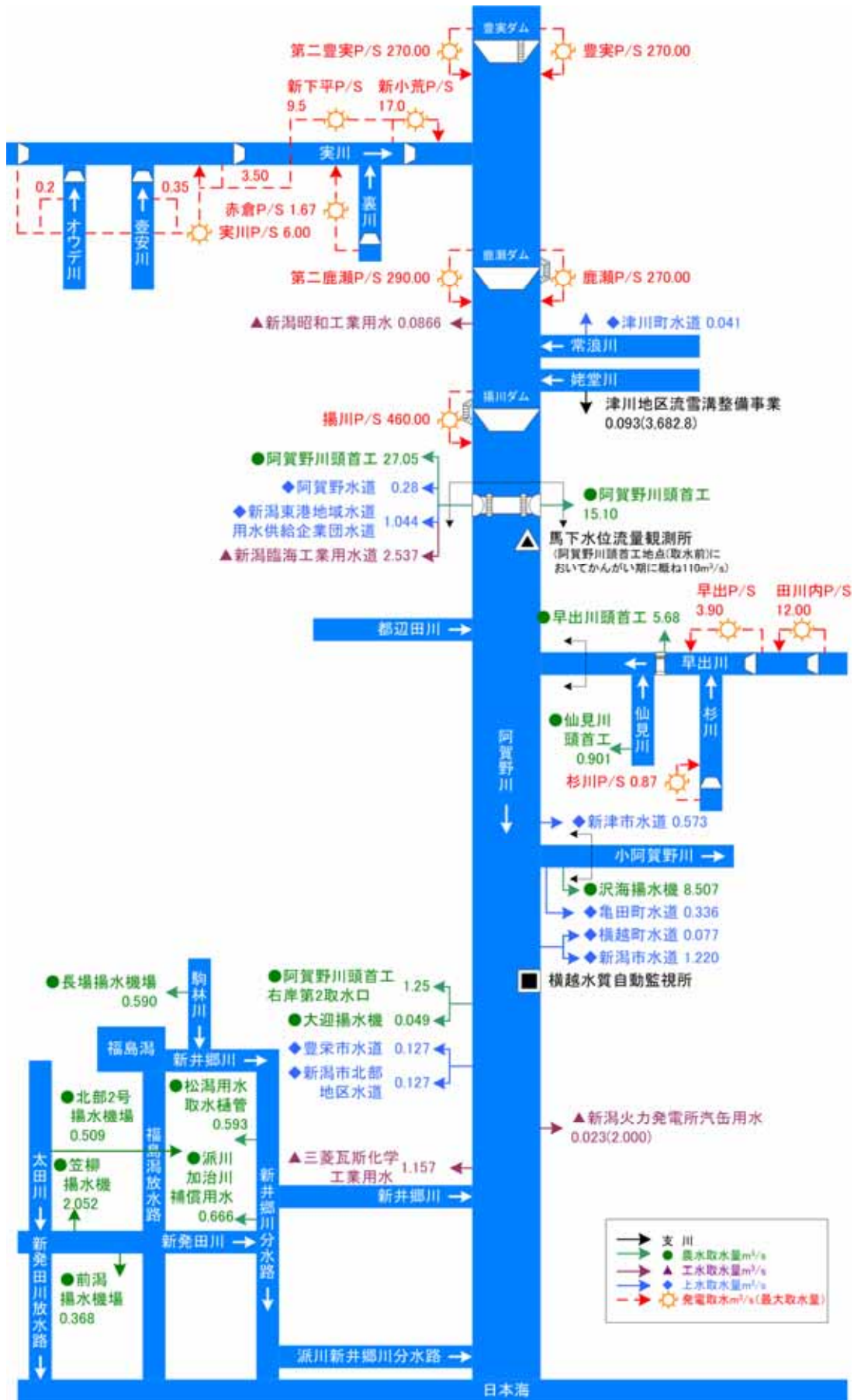


图 5.3 阿賀野川（下流部）水利模式图

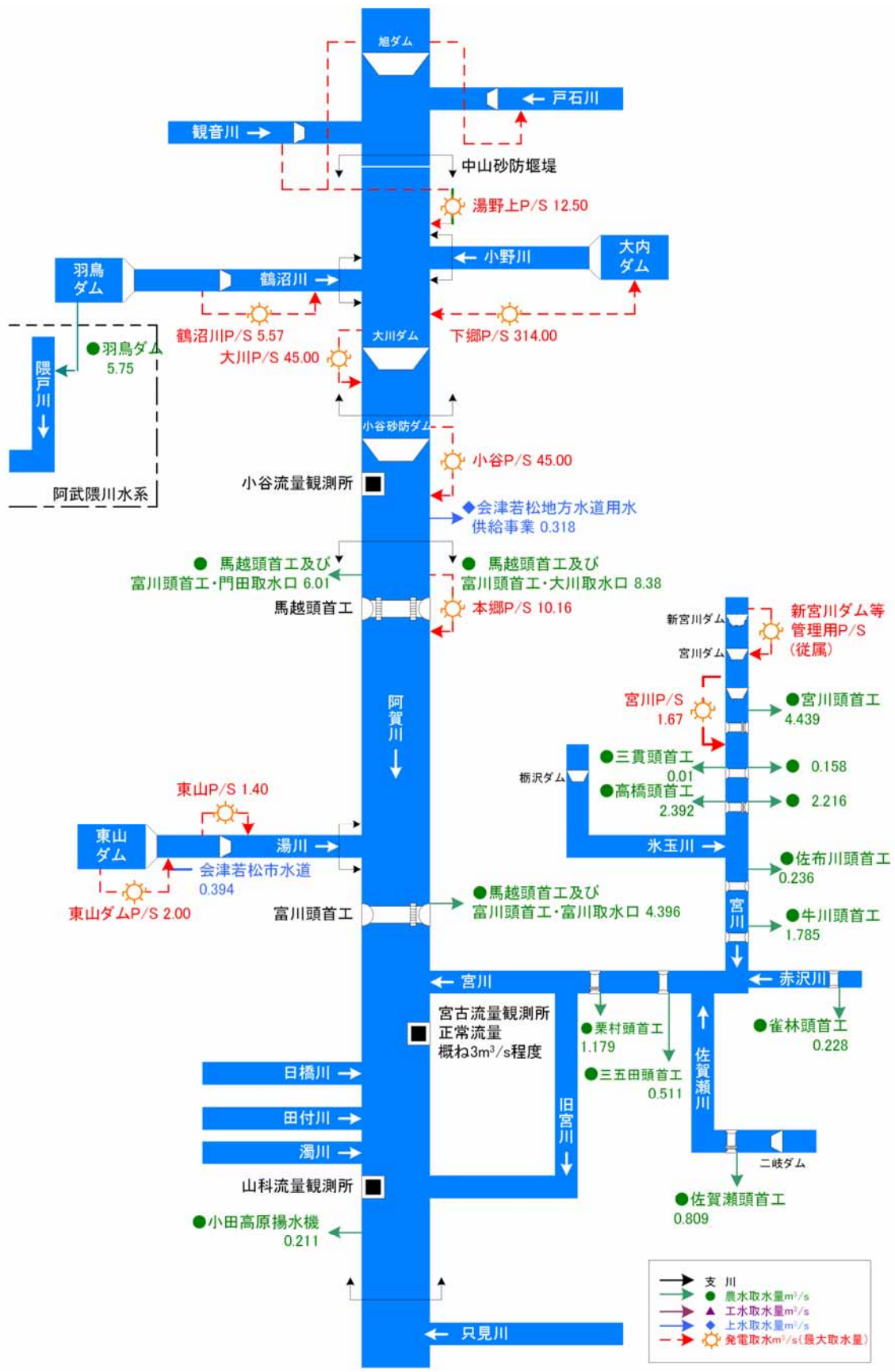


图 5.4 阿賀野川（上流部）水利模式図

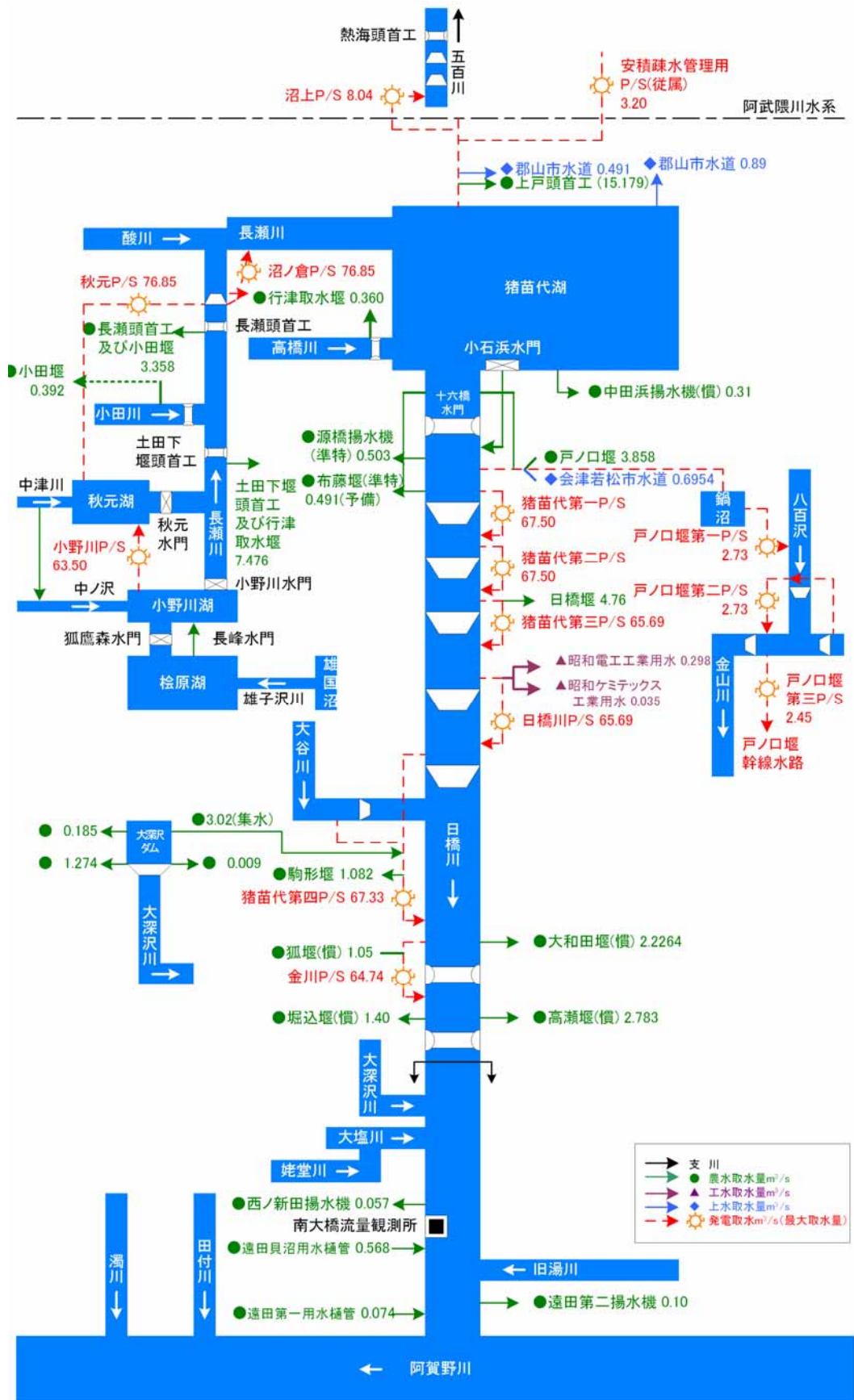


図 5.6 日橋川水利模式図

5.2 水需要の動向

阿賀野川水系における水需要の動向を、「新潟県ウォータープラン 21(平成 16 年 3 月 新潟県)」、「水資源総合計画～うつくしま水プラン～(平成 13 年 3 月 福島県)」により整理する。

【新潟県】

阿賀野川流域の新潟県側の水需要は「新潟県ウォータープラン 21(平成 16 年 3 月：新潟県)」によると、平成 22 年、平成 32 年ともに約 11 億 1,400 万 m³/年と予測されている。平成 12 年を基準とすると、700 万 m³ 増加する見込みであり、都市用水は増加、農業用水はほぼ横ばいで推移すると予測される。

一方、需要に対する供給可能量は、表流水や地下水利用により平成 22 年、平成 32 年ともに、12 億 1,900 万 m³/年に及ぶとされている。

これによって広域的には需要に対する供給量は十分に確保されるものの、農業用水は、今後、下流平野部で整備済水田の増加が見込まれるため、平水年においても余裕のない状況が継続し、渇水年には不足する可能性がある。このため、広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する。

図 5.7 阿賀野川水系(新潟県側)における水需給量の推移

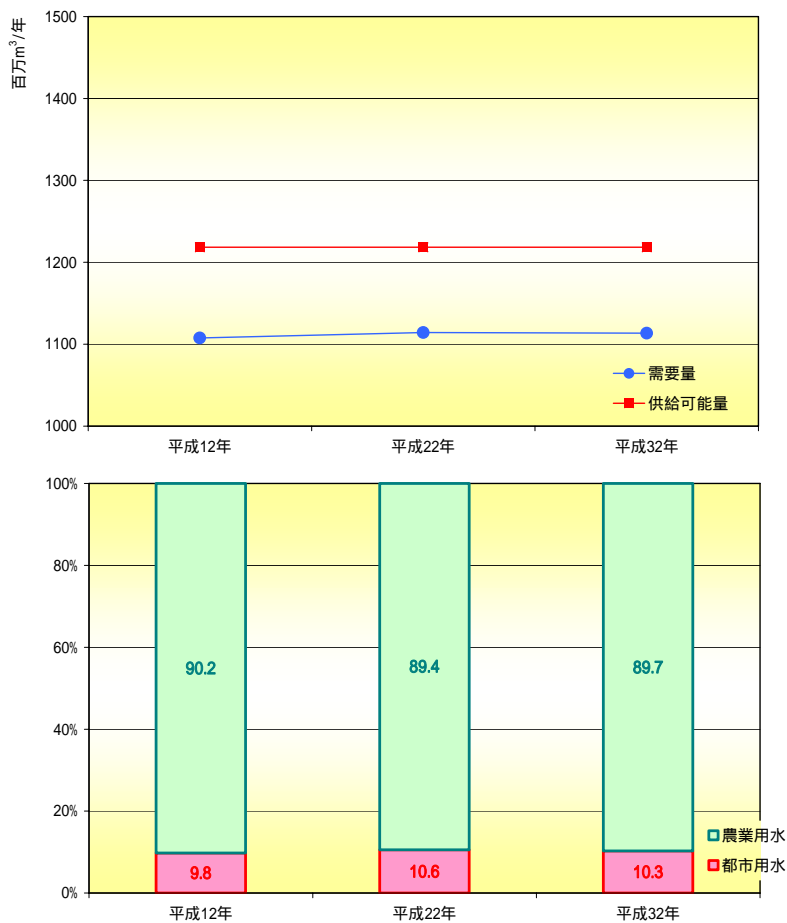


表 5.2 阿賀野川水系(新潟県側)における水需給量表 単位：百万

		平成 12 年	平成 22 年	平成 32 年
都市用水	需要量	108	118	115
	供給可能量	240	240	240
農業用水	需要量	999	996	999
	供給可能量	979	979	979
合計	需要量	1,107	1,114	1,114
	供給可能量	1,219	1,219	1,219

【福島県】

阿賀野川流域の福島県側の会津・南会津地域における水需要は「水資源総合計画～うつくしま水プラン～（平成13年3月 福島県）」によると、平成22年には約12億800万m³/年、平成32年には、約11億8,800万m³/年と予測されている。平成12年を基準とすると、平成22年までに900万m³、平成32年までには2900万m³減少する見込みであり、都市用水はほぼ横ばい、農業用水については緩やかな減少傾向で推移すると予測される。

一方、需要に対する供給可能量は、平成22年、平成32年ともに、12億8,400万m³/年に及ぶとされている。

これによって広域的には需要に対する供給量は十分に確保されると予想されるが、水需給の予測については、地下水が安定的に取水できることを前提としており、水源を地下水に依存する一部地域においては、将来の地下水の水量・水質状況によっては新たな水源手当てが必要となることも想定される。このため、水需給の逼迫のおそれがある地域については、水源確保等について関係市町村や地域住民への情報提供を十分に行いながら検討を進め、適切な対策を講じる必要がある。

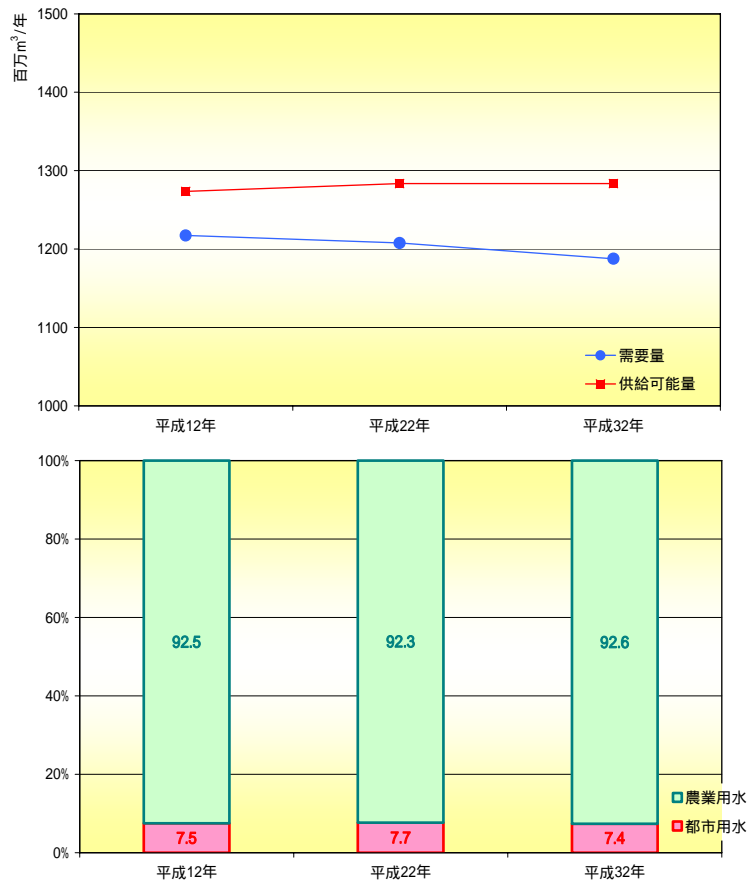


図 5.8 阿賀野川水系（福島県側）における水需給量の推移

表 5.3 阿賀野川水系（福島県側）における水需給量表

単位：百万

		平成12年	平成22年	平成32年
都市用水	需要量	91	93	88
	供給可能量	141	141	141
農業用水	需要量	1,126	1,115	1,100
	供給可能量	1,133	1,143	1,143
合計	需要量	1,217	1,208	1,188
	供給可能量	1,274	1,284	1,284

5.3 渇水の被害の概要

阿賀野川流域は過去に大きな渇水被害が生じているが、近年では平成2年に下流部において、河川流量の減少に伴い、旧豊栄市・新潟市水道取水口上流まで塩水が遡上し、上水の取水が一時不能となった。その後塩水は潮位の上昇に伴い、横越町水道取水口上流まで遡上したが、水道取水口では流水表面まで塩分が上昇しなかったため、取水障害を生じるには至らなかった。その他、三菱瓦斯化学工業用水は、塩水で支障の生じる用水については地下水で対応し、急場をしのいだ。

また、平成6年の夏季に太平洋性高気圧に被われ全国的規模の渇水が生じ、大川ダム の水量が満水時の半分に減るなど、当時の北陸地方建設局に渇水対策本部が設置された。

下流部では、塩水は河口から最大13km付近まで遡上したものの、昭和59年、60年、平成2年時に観測した最大遡上位置である約14km地点までには至らなかった。この結果、市民生活に最も影響の大きい上水道取水についていえば、河口から約13.8km上流に位置する

阿賀野川浄水場（新潟市水道・横越村水道）取水口は塩水遡上の影響を受けることはなかったが、河口から約10km上流に位置する長戸呂浄水場（豊栄市水道・新潟市北部地区水道）取水口が通常の取水方法でない表面取水措置を講じ、更に、当該浄水場は取水不能の事態に備えて緊急暫定取水の措置を北陸地方建設局長に申請していたが、塩水濃度も前述の表面取水で対応可能であったため、実際にこの措置が発動されることはなかった。

上流部では、かんがい用水についても大川ダム放流量を制限したため、一部の稲の成長に影響があったが、ダム湖水の計画的消費と利水者の節水自衛策により、渇水からの大きな被害からは回避された。



【出典：「平成6年渇水の報道」(建設省北陸地方建設局,平成7年3月)】

6. 河川の流況と水質

6.1 河川流況

阿賀野川水系の主要地点の河川流況を表 6.1 に示す。また、各地点の 1/10 渇水流量を整理して表 6.2 に示す。

馬下頭首工(阿賀野川)及び宮古(阿賀川)における観測開始以降の流況は、表 6.3～表 6.4 に示すとおりである。

表 6.1 主要地点の平均流況表

河川名	地点名	対象年	豊水 (m ³ /s)	平水 (m ³ /s)	低水 (m ³ /s)	渇水 (m ³ /s)	平均 (m ³ /s)
阿賀野川	阿賀野川 頭首工上流	S39 ～ H17	471.71	337.13	232.57	141.03	411.30
阿賀川	宮古	S48 ～ H17	47.96	27.10	18.12	8.45	44.32

豊水流量：1年を通じて 95日はこれを下らない流量
 平水流量：1年を通じて 185日はこれを下らない流量
 低水流量：1年を通じて 275日はこれを下らない流量
 渇水流量：1年を通じて 355日はこれを下らない流量

表 6.2 1/10 渇水流量

河川名	地点名	対象年	流域面積 (km ²)	1/10 渇水流量 (m ³ /s)	備考
阿賀野川	阿賀野川 頭首工上流	S39 ～ H17	6,997.0	121.04	4位/40年 馬下+取水実績
阿賀川	宮古	S48 ～ H17	1,013.9	2.49	2位/20年

阿賀野川頭首工上流では流量観測をしていないため、流量観測をしている頭首工下流の馬下地点の流量に阿賀野川頭首工の取水実績を加えて流況を算定し、1/10 渇水を求めた。

表 6.3 流況表 (阿賀野川頭首工上流地点: 阿賀野川)

阿賀野川頭首工上流地点
CA = 6,997.0km²

年		流況 (m ³ /s)							年総量 (10 ⁶ m ³)
		最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量	平均流量	
1964	S39	3498.00	447.30	336.40	257.20	143.00	97.50	429.40	13578.66
1965	S40	4405.87	601.38	388.24	277.24	141.56	128.10	501.70	15821.61
1966	S41	4603.70	564.21	343.54	255.17	146.14	110.49	447.44	14110.47
1967	S42	5899.42	369.90	367.20	215.00	122.46	64.86	346.74	10934.79
1968	S43	1941.38	423.50	284.50	164.60	121.04	81.31	382.42	12093.04
1969	S44	6063.50	432.30	328.10	245.20	158.26	82.03	421.05	13278.23
1970	S45	4764.21	436.60	292.10	203.80	124.56	102.66	405.94	12801.72
1971	S46	2892.86	508.59	349.14	242.10	143.06	90.77	431.78	13616.61
1972	S47	2687.23	468.05	349.48	199.97	127.31	96.64	368.67	11658.23
1973	S48	2479.25	413.24	288.91	163.98	119.76	67.80	350.45	11051.79
1974	S49	2344.15	531.57	344.51	237.79	172.19	107.58	469.19	14796.38
1975	S50	1802.16	442.61	308.22	200.27	123.58	72.48	374.89	11822.53
1976	S51	3182.55	478.84	339.27	245.87	135.15	71.55	404.01	12775.77
1977	S52	1979.31	401.00	236.57	144.85	103.68	93.45	343.03	10817.79
1978	S53	7870.05	406.95	280.02	206.37	174.55	63.91	437.87	13808.67
1979	S54	3783.39	424.32	343.24	246.69	135.90	100.66	371.44	11713.73
1980	S55	2385.88	453.31	351.23	274.77	122.86	112.86	399.42	12630.62
1981	S56	7380.84	600.45	365.36	305.70	137.15	103.22	537.71	16957.22
1982	S57	6360.96	467.91	310.56	206.59	139.45	104.12	388.85	12262.77
1983	S58	3094.29	491.31	369.74	275.80	149.64	108.37	460.11	14510.03
1984	S59	2144.55	318.82	226.38	147.36	136.63	80.07	326.81	10334.52
1985	S60	2631.91	451.46	295.56	194.65	130.33	121.53	386.08	12175.42
1986	S61	2922.64	442.97	326.16	218.53	149.19	117.84	394.29	12434.33
1987	S62	2835.12	400.96	275.01	184.49	139.56	89.92	329.03	10376.29
1988	S63	3269.83	519.59	393.08	295.22	201.41	131.44	444.96	14070.70
1989	H1	1478.77	445.24	343.06	248.98	155.90	138.24	361.86	11411.62
1990	H2	2277.45	425.20	317.33	192.29	136.89	122.64	336.56	10613.62
1991	H3	2600.93	550.43	391.75	326.40	170.30	101.05	482.52	15216.90
1992	H4	2212.08	402.22	307.23	213.57	146.12	72.24	348.43	10988.19
1993	H5	4118.99	533.69	419.75	309.37	173.19	150.91	452.99	14285.60
1994	H6	2146.84	409.36	296.72	178.07	130.88	111.71	332.61	10489.23
1995	H7	5462.67	557.43	395.64	300.05	154.38	124.96	513.22	16184.94
1996	H8	2954.09	525.27	360.56	192.73	139.06	86.21	436.43	13801.04
1997	H9	2272.02	460.58	332.57	241.16	150.18	122.02	381.63	12035.16
1998	H10	5261.04	488.18	360.60	234.30	128.99	102.94	443.89	13998.45
1999	H11	2698.06	467.52	337.99	237.15	137.30	110.08	390.63	12318.99
2000	H12	3301.73	496.76	351.04	254.91	135.46	107.49	434.92	13753.32
2001	H13	1987.32	471.18	344.03	256.39	140.00	113.05	415.38	13099.33
2002	H14	5732.83	557.72	411.99	240.12	136.48	110.73	470.73	14844.89
2003	H15	2500.79	481.61	361.69	243.42	155.24	123.27	411.04	12962.53
2004	H16	7897.98	524.05	375.17	270.38	147.81	105.97	481.33	15220.87
2005	H17	3161.50	518.07	359.67	219.65	86.59	79.06	427.29	13474.92
最大		7897.98	601.38	419.75	326.40	201.41	150.91	537.71	16957.22
最小		1478.77	318.82	226.38	144.85	86.59	63.91	326.81	10334.52
平均		3602.10	471.71	337.13	232.57	141.03	101.99	411.30	12979.32
近10年間	1/10相当	1987.32	460.58	332.57	192.73	86.59	79.06	381.63	12035.16
	最小	1987.32	460.58	332.57	192.73	86.59	79.06	381.63	12035.16
	平均	3776.73	499.09	359.53	239.02	135.71	106.08	429.33	13550.95
近40年間	1/10相当	1979.31	401.00	280.02	164.60	121.04	71.55	336.56	10613.62
	最小	1478.77	318.82	226.38	144.85	86.59	63.91	326.81	10334.52
	平均	3584.61	469.07	335.87	230.84	140.97	101.45	408.59	12893.28

表 6.4 流況表 (宮古地点 : 阿賀川)

宮古地点
CA = 1,013.9km ²

年		流況(m ³ /s)							年総量 (10 ⁶ m ³)
		最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量	平均流量	
1973	S48	-	34.51	23.34	15.79	3.64	-	-	-
1974	S49	616.73	60.15	28.60	21.13	12.59	7.99	56.25	1773.99
1975	S50	723.91	34.34	18.68	13.21	5.91	5.10	33.57	1058.72
1976	S51	222.93	56.12	39.36	26.15	10.06	0.12	45.12	1426.75
1977	S52	1061.55	31.21	21.74	12.31	7.62	1.90	35.05	1105.34
1978	S53	911.58	32.98	18.32	13.99	1.81	0.79	43.16	1361.19
1979	S54	1336.96	50.98	37.42	26.52	7.31	3.18	47.08	1484.74
1980	S55	907.35	43.89	28.69	21.17	3.90	1.95	39.93	1262.57
1981	S56	-	-	-	-	-	-	-	-
1982	S57	2636.25	60.57	29.25	14.82	-	4.48	58.21	1749.91
1983	S58	779.22	47.43	29.44	21.42	7.83	4.54	49.96	1576.80
1984	S59	407.98	15.65	10.42	5.58	1.45	1.29	27.00	853.80
1985	S60	550.51	38.46	19.27	7.51	2.99	1.34	37.01	1166.83
1986	S61	1643.41	41.22	24.88	16.58	5.74	0.52	42.72	1346.58
1987	S62	430.73	34.46	20.08	13.24	7.65	2.22	30.12	949.23
1988	S63	342.61	65.14	30.32	23.40	-	4.80	53.83	1612.96
1989	H1	690.53	49.36	35.46	24.34	13.22	8.55	44.45	1403.35
1990	H2	883.72	61.30	28.16	16.06	4.05	1.51	45.78	1436.43
1991	H3	1027.52	68.30	34.91	20.64	6.26	3.40	57.58	1796.56
1992	H4	333.30	41.30	24.33	13.11	8.04	4.68	35.43	1119.43
1993	H5	1914.84	48.52		23.68	14.90	7.70	41.78	1318.20
1994	H6	1354.78	40.14	21.12	10.32	2.49	1.91	35.20	1100.94
1995	H7	720.39	40.90	20.43	16.99	11.86	10.74	38.70	1220.44
1996	H8	-	-	-	-	-	-	-	-
1997	H9	-	42.51	19.39	13.30	5.54	-	-	-
1998	H10	-	58.57	26.90	17.18	2.69	-	-	-
1999	H11	475.81	61.96	30.56	18.64	9.95	6.87	46.57	1468.54
2000	H12	816.53	51.96	30.39	22.38	12.20	5.72	48.07	1520.10
2001	H13	1202.65	50.78	29.10	19.70	11.12	9.43	48.78	1538.38
2002	H14	2430.07	57.48	33.63	18.59	12.55	9.45	52.08	1642.50
2003	H15	314.18	55.15	34.19	27.35	18.45	13.05	46.09	1453.65
2004	H16	987.73	58.38	32.75	23.57	15.83	10.32	51.97	1643.47
2005	H17	548.96	53.05	27.79	23.15	17.39	13.92	49.41	1558.34
最大		2636.25	68.30	39.36	27.35	18.45	13.92	58.21	1796.56
最小		222.93	15.65	10.42	5.58	1.45	0.12	27.00	853.80
平均		938.31	47.96	26.96	18.12	8.45	5.27	44.32	1391.06
近10ヵ年	1/10相当	314.18	40.90	19.39	13.30	2.69	5.72	38.70	1220.44
	最小	314.18	40.90	19.39	13.30	2.69	5.72	38.70	1220.44
	平均	937.04	53.07	28.51	20.09	11.76	9.94	47.71	1505.68
近20ヵ年	1/10相当	333.30	34.46	19.27	7.51	2.49	1.29	30.12	949.23
	最小	314.18	15.65	10.42	5.58	1.45	0.52	27.00	853.80
	平均	892.77	49.18	26.83	18.03	9.15	6.10	44.13	1386.33

6.2 河川水質

(1)水質環境基準の類型指定状況

阿賀野川水系における主要河川及び湖沼における水質環境基準類型指定状況は、次に示すとおりである。

表 6.5 阿賀野川の類型指定状況（河川）

水域の範囲	類型	達成期間	暫定目標	指定年月日 (見直し年月日)	備考
阿賀野川(1)(大川橋より上流)	A	イ		昭和 48 年 3 月 31 日	環境庁告示
阿賀野川(2)(大川橋から日橋川合流点まで)	A	イ		平成 14 年 7 月 15 日	環境省告示
阿賀野川(3)(日橋川合流点から新郷ダムまで)	A	ハ		昭和 48 年 3 月 31 日	環境庁告示
阿賀野川(4)(新郷ダムより下流)	A	イ		"	"
阿賀野川(4)(麒麟橋)	A	イ		"	"
阿賀野川(4)(横雲橋)	A	イ		"	"
阿賀野川(4)(水沢地先(平瀬橋))	A	イ		"	"
阿賀野川(4)(馬下橋)	A	イ		"	"
阿賀野川(4)(松浜橋)	A	イ		"	"
常浪川(城山橋)	A A	イ		昭和 51 年 4 月 22 日	新潟県告示
新谷川(寿橋)	A A	イ		"	"
都辺田川(南郷大橋(管理橋))	A	イ		"	"
早出川(羽下地先(羽下橋))	A A	イ		"	"
安野川(法柳橋)	A	ロ		"	"
只見川(田子倉貯水池より下流)	A	イ		昭和 49 年 3 月 26 日	福島県告示
伊南川	A	イ		"	"
湯川(滝見橋より上流)	A	イ		昭和 57 年 6 月 22 日	福島県告示
湯川(滝見橋より下流)	B	ロ		"	"
旧湯川	B	ロ		"	"
宮川	A	イ		"	"
旧宮川	B	イ		"	"
日橋川(pHを除く。)	A	イ		"	"
田付川(猫ノ尾橋より上流)	A	ロ		"	"
田付川(猫ノ尾橋より下流)	B	ハ		"	"
濁川(濁川橋より上流)	A	イ		"	"
濁川(濁川橋より下流)	B	イ		"	"

【類型】AA：BOD1mg/L以下、A：BOD2mg/L以下、B：BOD3mg/L以下

【達成期間】イ：直ちに達成、ロ：5年以内に可及的速やかに達成、ハ：5年を越える期間で可及的速やかに達成

表 6.6 阿賀野川の類型指定状況（湖沼）

水域	類型指定 (達成期間)	環境基準点	指定 年月日
大川ダム貯水池	A(イ)	湖心	H15.3.27
東山ダム貯水池	A(イ)	ダムサイト	H13.3.27
猪苗代湖(pHを除く)	A(イ)	湖心	S49.3.26
桧原湖	A(ロ)	湖心	〃
小野川湖	A(ロ)	湖心	〃
秋元湖	A(ロ)	湖心	〃
曾原湖	A(ロ)	湖心	〃
雄国沼	A(ロ)	湖心	〃
磐梯五色沼湖群(pHを除く)	A(ロ)	昆沙門沼湖心	〃
羽鳥湖	A(イ)	湖心	〃
尾瀬沼	A(イ)	湖心	S56.4.10
奥只見貯水池(福島県)	A(イ)	湖心	S51.3.30
田子倉湖(大川ダムより下流)	A(イ)	湖心	S49.3.26
沼沢湖	A(イ)	湖心	S53.4.7

類型 A : COD3mg/L 以下

達成期間 イ : 直ちに達成

ロ : 5年以内に可及的速やかに達成



図 6.1 水質観測地点位置図

(2)阿賀野川水系の水質状況

対象区間においては、下記の 11 観測所において水質が観測されている。この 11 観測所について、昭和 45 年から平成 17 年までの BOD 観測結果を水質年表から整理し、図 6.2 に BOD75%値の経年変化図を示す。これをみると、新湯川橋を除くいずれの観測所も近年は下水道整備等により水質が改善傾向にあることがわかる。

宮古橋については平成 14 年 7 月より類型指定が B 類型より A 類型指定に変更されているが、平成 2 年より BOD75%値は A 類型指定の環境基準値 2mg/L を満足している。

表 6.7 水質観測所

河川名	検討箇所	類型指定
阿賀川	山科	A 類型
	宮古	A 類型(H14 年 7 月より)
	馬越	A 類型
湯川	新湯川橋	B 類型
日橋川	南大橋	A 類型
阿賀野川	水沢地先	A 類型
	麒麟橋	A 類型
	馬下	A 類型
	横雲橋	A 類型
	松浜	A 類型
早出川	羽下大橋	A A 類型

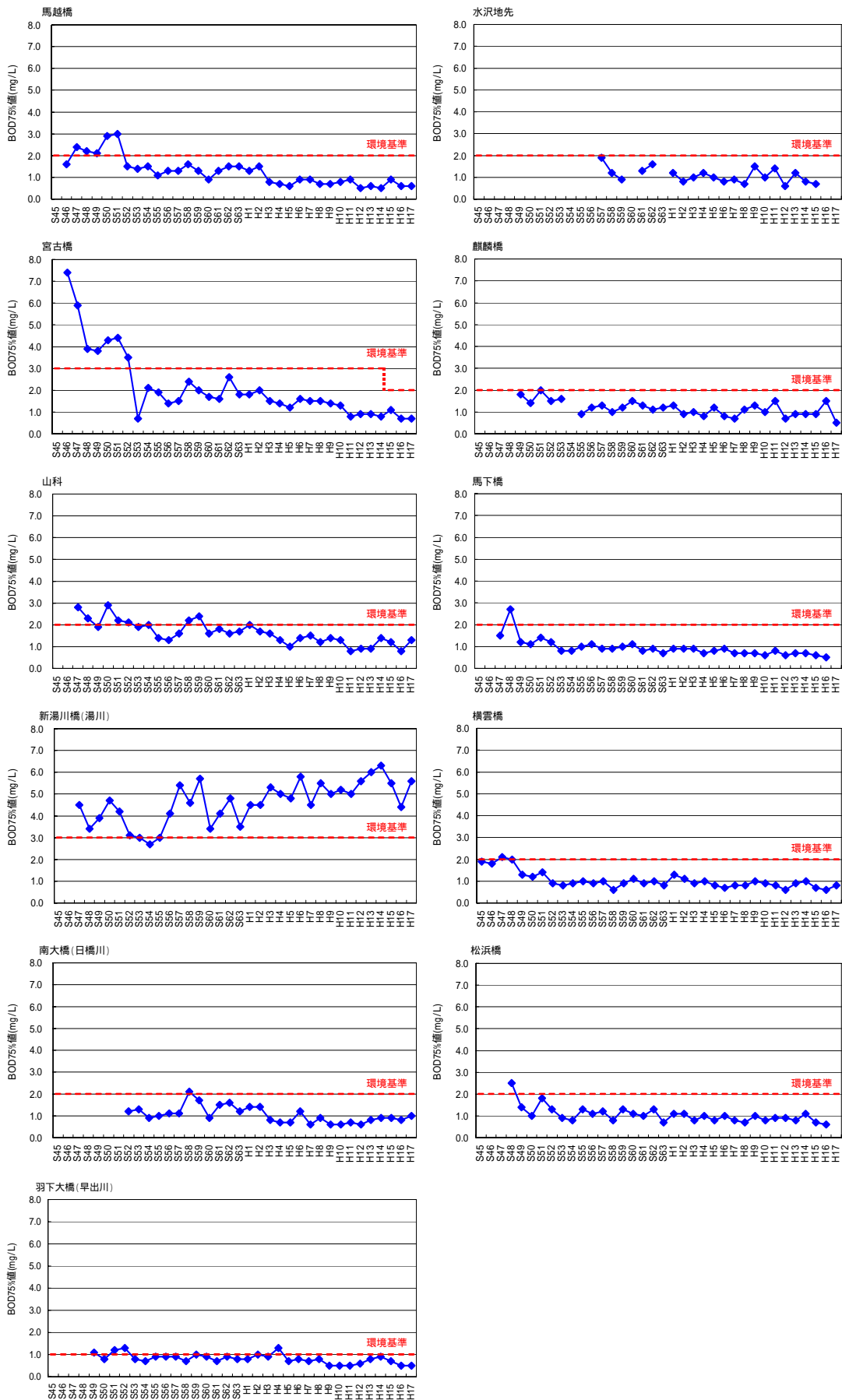


図 6.2 主要地点における BOD75%値の経年変化図

(3)湯川清流ルネッサンス

湯川は会津若松市街地南側を西下し、途中古川を合流して旧湯川を分派し、阿賀川に合流する。旧湯川分派地点より下流は湯川の洪水から会津若松市及び湯川村一帯を守るために、昭和33年に通水した全長2.5kmの放水路である。会津若松市街地に近く、地域住民の貴重な水辺のオープンスペースの役割を果たしているが、新湯川は水量の不足が目立ち、都市化の進展に伴い水質汚濁も進んでいる。

このような状況からの改善を図るべく、平成12年より10年間「清流ルネッサンス」として、環境基準値BOD3mg/L達成、必要流量達成率の向上を目標に対策を進めている。具体的には、新湯川水環境整備事業、下水道整備事業、一般市民による美化活動・啓発活動があげられる。

新湯川水環境事業として、木炭浄化施設の設置、堆積汚泥の除去、老朽化樋管の改築・魚道整備を実施済みであり、現在、阿賀川本川から導水を行い、湯川流域全体の水質・流況の改善をはかるため、浄化用水の導水事業を施工中である。

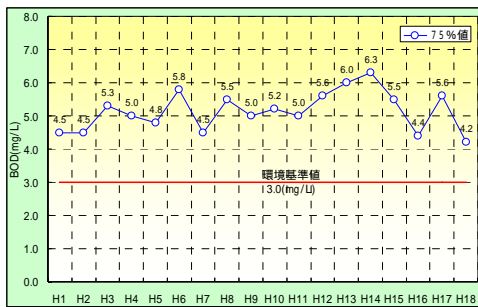


図 6.3 新湯川橋水質観測所のBOD75%値経年変化

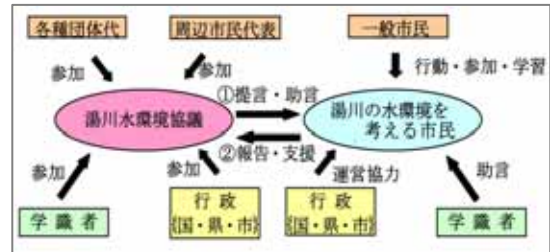


図 6.4 組織構築

湯川の水環境を考える市民の会【出典：阿賀川河川事務所資料】

7. 河川空間の利用状況

7.1 河川の利用形態

利用形態では、上流部・下流部とも散策が最も多いが、上流部では、スポーツ、水遊び、釣り続き、下流部では、スポーツ、釣り、水遊びと続く。全体としては、散策等 56%、スポーツ 33%、釣り 6%、水遊び 5%である。

上流では、春季はキャンプや公園などの施設での散策等の利用が多く、夏季は水遊びや釣りなどの利用が多い。秋季は会津地方の風物詩である「いも煮会」での利用が多い。下流では、年間を通してスポーツの利用が多い。季節ごとに見ると、春季は、公園などの施設で散策やピクニックなどの利用が多く、夏季は河口付近で水遊びやマリンスポーツ、釣りなどの利用が多い。秋季は施設を利用してバーベキューをするグループでの利用が多い。冬季は、親子連れが上下流を通して施設の堤防を利用したソリ遊びをしており、下流では高水敷での凧揚げなどがある。

阿賀野川の年間河川空間利用者数（推計）は約 160 万人で、沿川市町村人口からみた年間平均利用回数は約 1.5 回 / 人である。

表 7.1 阿賀野川の利用形態

(阿賀野川)

区分	項目	年間推計値(千人)				利用状況の割合			
		H9	H12	H15	H18	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度
利用形態別	スポーツ	155	99	131	448				
	釣り	75	76	58	79				
	水遊び	50	67	61	65				
	散策等	554	648	635	575				
	合計	834	890	885	1,167				
利用場所別	水面	14	22	13	37				
	水際	111	120	106	106				
	高水敷	691	677	662	980				
	堤防	18	71	104	44				
	合計	834	890	885	1,167				

(阿賀川)

区分	項目	年間推計値(千人)				利用状況の割合			
		H9	H12	H15	H18	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度
利用形態別	スポーツ	26	44	30	80				
	釣り	148	125	27	10				
	水遊び	55	89	47	19				
	散策等	227	362	428	330				
	合計	456	620	532	439				
利用場所別	水面	59	40	8	6				
	水際	144	174	67	22				
	高水敷	184	292	258	247				
	堤防	69	114	197	163				
	合計	456	620	530	438				

【出典：河川水辺の国勢調査】

7.2 河川空間の利用

阿賀野川では、河川や河川敷を利用した様々なイベントや行事が行われており、歴史や文化を感じることができる。

会津塩川バルーンフェスティバル

福島県内で唯一の熱気球競技大会であり、約 30 機の色とりどりの熱気球が競技を行い、日橋川と澄んだ秋空を背景に壮大な景色を見せる。会津の秋の風物詩ともなっている。



【出典：阿賀川河川事務所資料】

つがわ狐の嫁入り行列

阿賀野川と常浪川の合流点にそびえる名峰、麒麟山には、その昔、多くの狐が棲んでいて、毎夜のごとく狐火が見られたと言われている。この伝説から生まれた幻想的なイベントであり、今では新潟県を代表するイベントの一つとして全国的に知られるまでになっている。



【出典：阿賀野川河川事務所資料】

阿賀野川ライン舟下り

阿賀野川ライン舟下りは、阿賀町の白崎乗船所から石間(道の駅・阿賀の里)までの約 13km 間を屋形船で 1 時間弱かけて下るもので、名所・奇岩等変化に富んだ四季折々の渓谷美や個性豊かな船頭衆の阿賀の舟唄などを楽しむことができる。



【出典：阿賀野川河川事務所資料】

交流拠点の場

阿賀川の豊かな自然環境や景観、変化に富む流れは、市民にやすらぎを与える空間であるとともに、川を利用したさまざまな活動の場として利用されている。近年は、総合学習の場としての利用、ワンド部の緩やかな流れや急流部で雪解けによる抱負な流れを利用した本格的なカヌー等、リバーツーリズムも盛んで市民や域外から訪れる人々の交流の場としても期待されている。



【出典：阿賀川河川事務所資料】

日橋川 川の祭典

日橋川改修の完成を機に昭和 61 年から喜多方市、会津若松市、湯川村が、「見直そう『ふるさとの川と緑』」をテーマに開催。猪苗代湖から日橋川へ流れる豊富な流水を利用した「いかだ下り大会」や、河川敷を利用した「花火大会」など、この地区恒例のイベントとなっている。



【出典：阿賀川河川事務所資料】

8. 河道特性

8.1 河道の特性

阿賀野川は、その源を栃木・福島県境の荒海山（標高 1,580m）に発し、福島県内において、檜沢川、鶴沼川等の支川を合わせ、山間部を北流して会津盆地に入り、猪苗代湖から流下する日橋川等の支川を合わせ、山科において再び山間部に入り、只見川等の支川を合わせて渓谷を西流し新潟県に入り、五泉市馬下地先で越後平野に出て新潟市松浜において日本海に注ぐ、幹川流路延長 210km、流域面積 7,710km² の一級河川である。

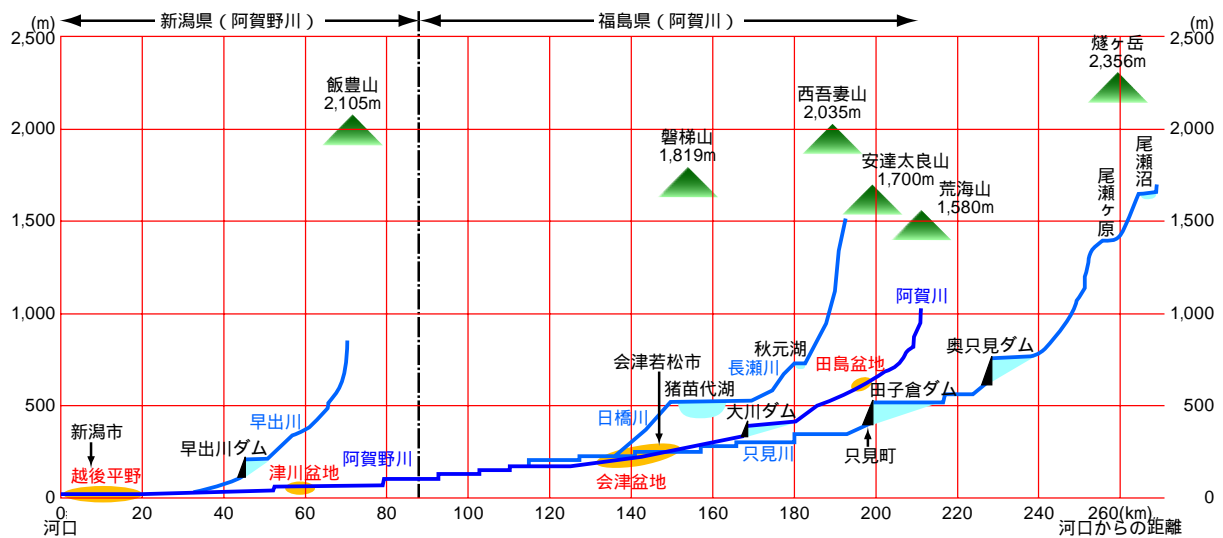


図 8.1 阿賀野川の縦断図

1)上流部（山地部）(源流～馬越頭首工)

源流から馬越頭首工にかけての上流部では、河床勾配は約 1/180 であり、山間部を蛇行しながら流下し、兩岸に山地が迫った溪谷となっている。河道幅は 50m～200m 程度である。



【出典：阿賀川河川事務所資料】

2)上流部（盆地部）(馬越頭首工～長井橋付近)

馬越頭首工から宮川合流点付近までは河床勾配は約 1/200～1/300 であり、会津盆地の扇状地性低地を流下し、河道幅は 300m～600m 程度で河床材料は粗礫で、粒径は 48mm～99mm となっている。

宮川合流点付近から山科地点付近までは河床勾配は約 1/600～1/900 であり、日橋川や濁川など多くの支川が合流する区間で河道幅は 250m～400m 程度、兩岸や中州に砂礫が多く分布しており、河床材料は粗礫で、粒径は 37mm～45mm となっている。



会津大橋付近(阿賀川 17k～18k)
【出典：阿賀川河川事務所資料】



会青橋付近(阿賀川 7k～8k)
【出典：阿賀川河川事務所資料】

さらに山科地点から長井橋付近までは、河床勾配は約 1/800 で、大きく蛇行しながら山間を流下し、河岸近くまで山地が迫り、河岸段丘が形成され、河道幅は 100m 程度である。河床は岩や土崖であるが蛇行地点では、砂礫が分布し、兩岸や中州に砂礫地が形成されている。



山科地点付近(阿賀川 4k～5k)
【出典：阿賀川河川事務所資料】

3)中流部(長井橋付近～阿賀野川頭首工)

長井橋付近から阿賀野川頭首工付近までは、流域最大支川である只見川が合流し、利水ダム群が連続して設置され、大きく蛇行しながら山間を流下する。蛇行地点では、砂礫が多く分布し、兩岸や中州に砂礫地が形成されている。

4)下流部(阿賀野川頭首工～河口)

下流部の河床勾配は約 $1/1,000 \sim 1/15,000$ であり、水面幅はおよそ $300\text{m} \sim 960\text{m}$ である。沢海第一・第二床固により上流の川幅の狭い区間では滲筋が大きく蛇行し、瀬・淵も多く、兩岸や中州に砂礫地が形成されている。23km 地点では早出川が合流する。

河床材料は沢海床固より上流は $11 \sim 51\text{mm}$ 、下流は 0.6mm となっている。



新横雲橋付近(阿賀野川 15k～16k)



渡場床固付近(阿賀野川 29k～30k)

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

河口付近の河床勾配は約 $1/15,000$ であり、水面幅はおよそ 960m である。河口付近は潮汐の影響を受ける汽水域であり、河口砂州が形成されている。5km 地点には長さ 300m 以上の大規模な中州が形成されている。

河床材料は、 0.27mm となっている。



河口付近

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

9. 河川管理の現状

9.1 河川管理区間

阿賀野川水系のうち、大臣管理区間延長は上流部阿賀川 31.6km、下流部阿賀野川 34.6kmをはじめ、大川ダム、湯川、日橋川、早出川など全長 91.15km に及んでいる。

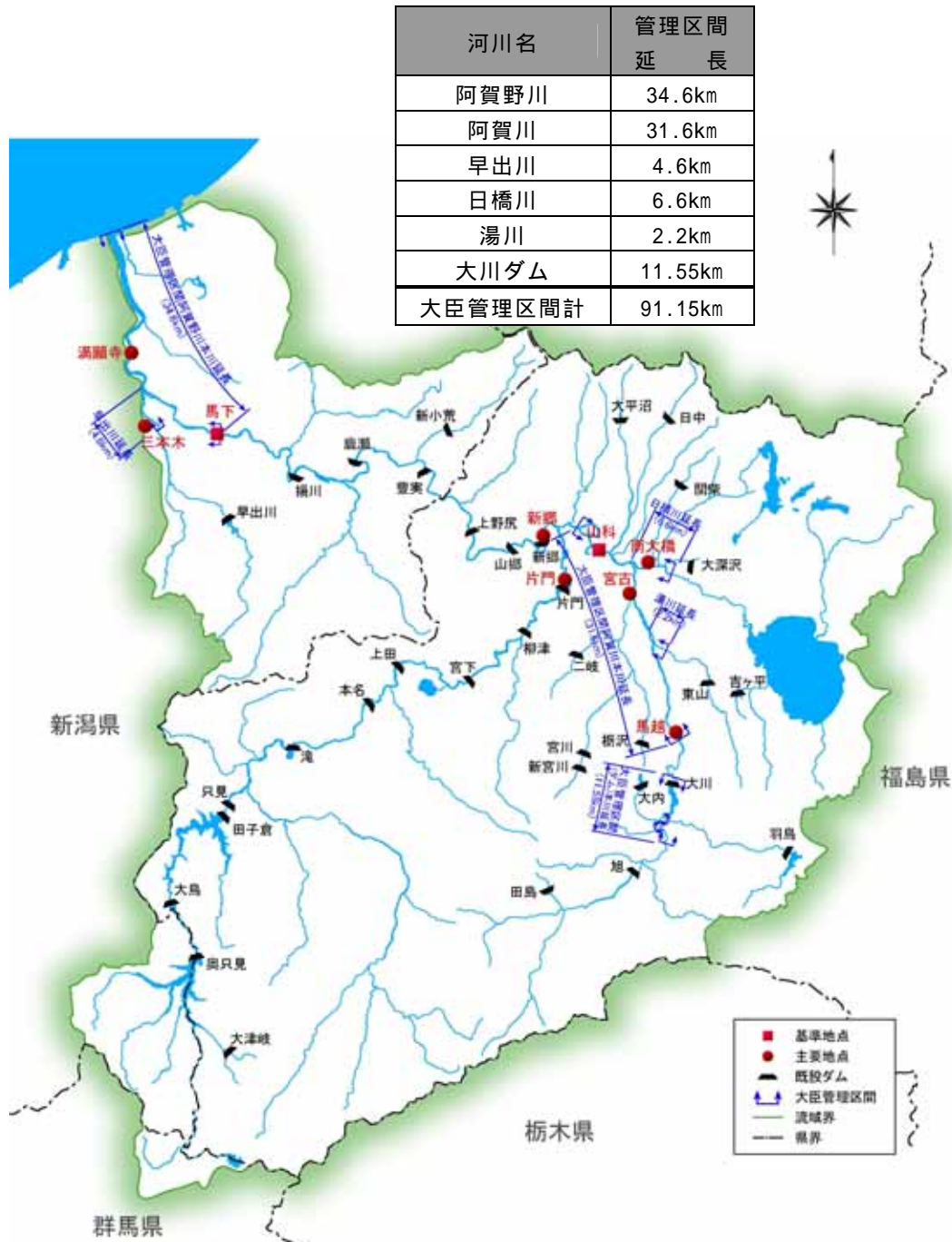


図 9.1 阿賀野川水系大臣管理区間

9.2 河川管理施設等

(1)河川管理施設

阿賀野川水系の堤防整備状況は平成 18 年 3 月現在、直轄管理区間(ダム管理区間を除く) 79.6km(堤防延長 159.5km)のうち 99.9km 完成しているが、暫定や暫々定があわせて 40km 以上残っている。

表 9.1 大臣管理区間堤防整備状況

水系名	大臣管理 区間延長	堤防延長				計
		計画断面 堤防	暫定	暫々定	不必要 区間	
阿賀野川	79.6	99.9	43.7	1.4	14.5	159.5

ダム区間(11.55km)は除く

平成 19 年 3 月 31 日現在

(2)許可工作物

阿賀野川水系の大臣管理区間における許可工作物は、堰・頭首工 1 箇所、樋門・樋管 53 箇所、橋梁 53 箇所があり、各構造物について河川管理施設と同程度の維持管理水準を確保するよう各施設管理者と協議・指導している。

表 9.2 許可工作物(大臣管理区間)

河川名	住居倉庫	坂路	堰	樋管・樋門	橋梁	埋設物	その他	計
阿賀野川	11	68	1	19	19	45	174	337
阿賀川	2	11	-	34	34	2	153	236

平成 18 年 3 月 31 日現在

9.3 水防体制

(1)河川情報収集体制

阿賀野川水系では、雨量観測所 50 箇所、水位観測所 12 箇所、水位流量観測所 19 箇所において河川情報を収集し、管理を行っている。

また、近年では情報通信技術を用いた河川管理も行っており、阿賀野川沿いに光ファイバーケーブルを敷設することにより、CCTV カメラによる重要水防箇所の監視や GPS による地すべり観測を行っている。また、収集した情報は、関係市町村へ配信するとともに、インターネットや携帯電話などの情報端末を通して流域住民にも提供している。



図 9.2 阿賀野川流域内の雨量・水位流量観測所位置図

(2)水防警報、洪水予測の状況

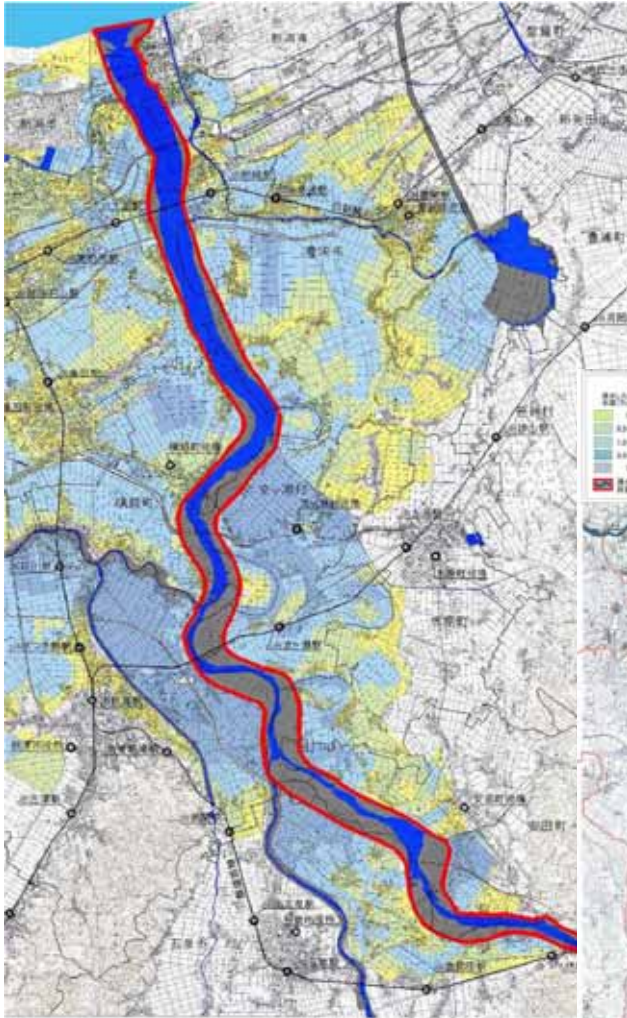
阿賀野川では、洪水による災害が起こるおそれがある場合、水位流量観測所の情報をもとに、水防関係機関に対して河川の巡視や災害発生防止のための水防活動が迅速かつ的確に行えるように水防警報を発令している。

表 9.3 阿賀野川水系における水防警報水位

河川名	水位観測所名	水防団待機水位 [指定水位] (m)	はん濫注意水位 [警戒水位] (m)	避難判断水位 [特別警戒水位] (m)	はん濫危険水位 [危険水位] (m)
阿賀野川	馬下	19.65	20.15	22.60	22.80
	満願寺	5.80	6.50	8.45	8.70
阿賀川	山科	1.80	2.70	6.28	7.60
	宮古	1.50	2.00	4.01	6.19
	馬越	3.40	3.90	5.06	6.40
早出川	善願	12.40	12.90	14.20	15.56
日橋川	南大橋	2.60	3.20	3.84	4.96

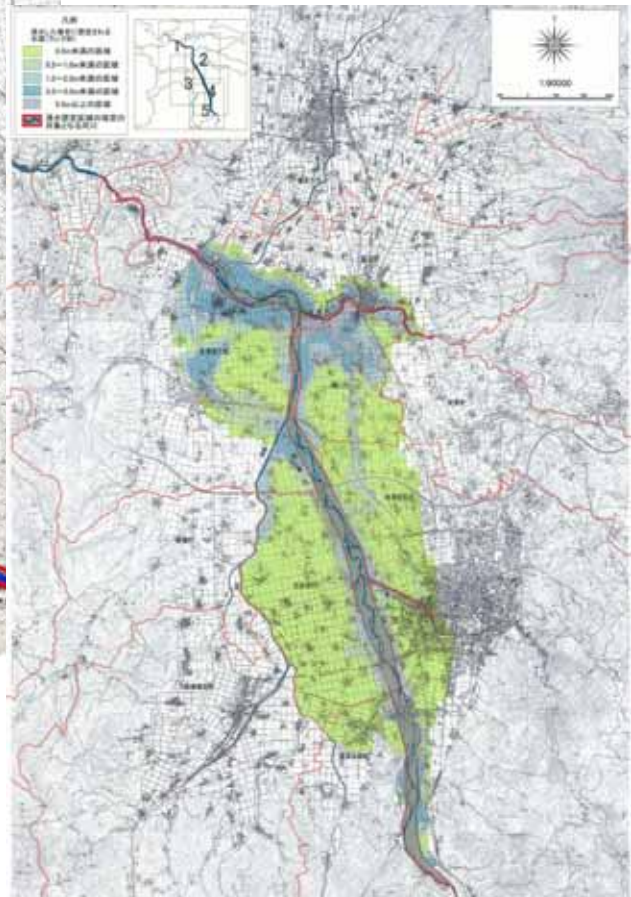
(3) 浸水想定区域図の公表

阿賀野川水系では、洪水時の被害を最小限に抑えるとともに、危機管理意識の啓発を図るため、国土交通省阿賀野川河川事務所及び阿賀川河川事務所において浸水想定区域図を公表している。



阿賀野川浸水想定区域図

【出典：阿賀野川河川事務所資料】



阿賀川浸水想定区域図

【出典：阿賀川河川事務所資料】

(4)洪水ハザードマップの作成支援

阿賀野川及び阿賀川の浸水想定区域図をもとに、平成 18 年 12 月現在、新潟市、阿賀野市、阿賀町の新潟県 3 市町と、会津若松市、喜多方市、会津坂下町、湯川村、会津美里町の福島県 5 市町村で洪水ハザードマップが作成・公表されている。



図 9.3 洪水ハザードマップ作成事例(新潟市亀田横越地区)

【出典：新潟市 HP】

(5)河川防災ステーション

河川防災ステーションは水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておく他、資材の搬出入やヘリコプターの離発着などに必要な作業面積を確保している。洪水時は市町村が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを行う基地となるとともに、平常時には地域住民のレクリエーションの場として、また、河川を中心とした文化活動の拠点として活用される。



阿賀野川きょうがせ防災ステーション

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

9.4 火山防災

(1)火山防災対策

阿賀野川流域や周辺には、磐梯山、吾妻山、安達太良山の3つの常時観測火山があり、これまで100年以上も噴火による大規模な災害は発生していない。しかし、近年では雲仙岳、有珠山、三宅島などの噴火による災害が発生し、平成12年8月には磐梯山にも臨時火山情報が発表されるに至ったことなどから、火山防災の必要性について関心が高まり、平成13年度に磐梯山、吾妻山、安達太良山の火山防災マップを作成・公表している。



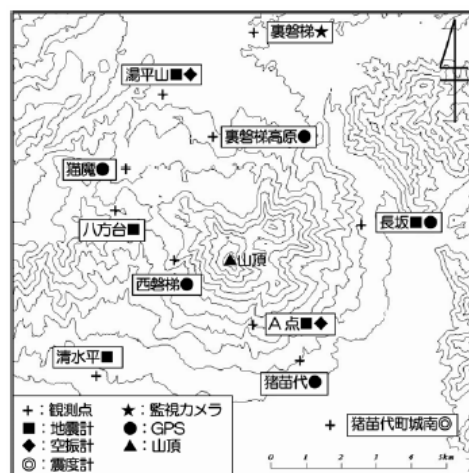
磐梯山火山防災マップ

【出典：猪苗代町 HP】

(2)火山活動の監視ネットワーク

気象庁では、磐梯山に地震計6台(うち常設1台)、空振計3台、GPS観測装置5地点、遠望カメラ1台を設置し、そのデータを仙台火山センターへ常時伝送し、火山活動の監視・観測を行っている。

また年に2回の現地観測を実施し、赤外熱映像装置による地熱地帯の状況、噴気地帯の状況等の把握を行っている。さらに平成14年秋から、現地観測に併せて、現地収録型GPS観測装置を使用したより細かな地殻変動観測も行っている。



磐梯山 GPS 観測点配置図

【出典：気象庁 HP】

10. 地域との連携

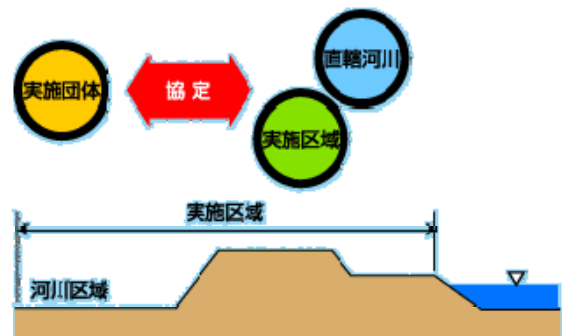
(1)交流・連携の拠点整備

阿賀野川は、古くから福島県会津地方と新潟県を結ぶ交流拠点となっている。そのため、福島・新潟両県や市町村交流を密にし、阿賀野川を軸とした連携を図り、懇談会・協議会や環境学習などのイベントを積極的に実施している。

(2)民間との連携

自然環境の保全活動や、川に関わるイベントへ参加する民間団体等と連携し、流域市民と交流を行っている。

阿賀野川ボランティア・サポート・プログラム
よりよい川を実現するという理念のもと、地域住民が川を我が子のように面倒を見る「ボランティア・サポート・プログラム(仮称)」を始めている。具体的には、ボランティア団体を「里親」とし、養子である河川の区画を「子」とする行政との協定書に基づいて清掃活動や花壇の手入れなどを行う。



ボランティア・サポート・プログラム概要図

【出典：阿賀野川河川事務所資料】

(3)地域学習・総合的な学習の支援

阿賀野川水系に関わる説明会や見学会、パンフレットの配布など、地域学習や総合的な学習の支援を行っている。

水辺の楽校

水辺の楽校は「水辺で楽しく遊ぼう」というねらいのもとに、水辺での遊びの場、本物の自然を体験する場、野生の生きものたちとのふれあいの場を提供するもので、地域の皆さんが協力して子どもたちの水辺の活動を支えることをめざしている。

阿賀野川流域には 3 つの水辺の楽校があり、河口部の「松浜水辺の楽校」、阿賀川の「会津若松市水辺の楽校」と「あいづほんごう水辺の楽校」において、子どもたちが楽しく活動している。



松浜水辺の楽校



会津若松市水辺の楽校

【出典：阿賀野川河川事務所・阿賀川河川事務所資料】

会津めだか塾

高度成長期以降、川の水質の悪化や学校プールの建設など、様々な要因が重なって子どもたちが川で遊ぶ機会が少なくなっている。その結果、川にまつわる遊びや、川の危険とそれを回避する方法を子どもたちに伝える経験者も少なくなっている。

「会津めだか塾」は、川で安全に遊ぶための知恵や手法、ルールやマナーを伝達する“川の達人”を養成することを目的に、毎年7月から9月にかけて開講されている。



川の達人養成講座



阿賀川の動植物調査

【出典：阿賀川河川事務所資料】

阿賀川・川の達人の会

子どもたちに川を通して自然とふれあい、遊びや文化を伝えていくことを目的として、阿賀川流域（福島県会津地方）を活動の場とし、川に関わるイベントへの参加、総合学習の支援、地域の川遊び支援、フォトコンテスト開催など、「川の達人」をめざして活動している。会員の多くは、阿賀川河川事務所主催の「会津めだか塾」の研修修了者で「リバーエキスパート」に認定される。



「阿賀川・川の達人の会」活動状況

【出典：阿賀川・川の達人の会 HP】

阿賀野トレジャーハンティング

阿賀野川の自然や文化、歴史の概要や地域づくりに関する情報を紹介し、河川管理者と地域の方々とのコミュニケーションを図るためのラジオ番組が「阿賀野トレジャーハンティング」である。エリアレポーターと呼ばれるお宝ハンターが、阿賀野川沿川住民に対しインタビューなどを行い、阿賀野川での昔ながらの漁法や遊び、イベント、地域情報等の「お宝」を探し出し、番組を通じて紹介している。